

ドを極限として支拂はるべき旨を申聞けた。そこで住民等は先づ代々の墓地から先祖の遺骨を掘出して之を灰とし、家なしの住民等は僅に二人を除いて悉くバルガを立去つた。

一八一九年五月十日、イギリス國旗は撤せられて、トルコ國旗がこれに代り、最後のギリシア自治國はこゝに滅亡した。

住民等はコルフの町に到着したが、直ちに賠償金を受取ることができなう。といふのはアリに於ては現金とは云へ、品質の落ちた貨幣を以て支拂はうといふのを、メイトランドは佳良の貨幣を以て支拂ふからといふ理由で、賠償金總額より更に八千ポンドを減じた。それで總額は十四萬二千ポンドとなつたが、其の一分ほどは又運送費と事務費として更に差引かれたので、遂にバルガの住民は殘金の分配を最後の決定額として受くることを拒んだのであつた。

イギリス政府は彼等の爲に寺を建てるとを約束し、コルフの場末に家賃を免除して住まはせたが、彼等の子孫は今日なほ其處に居住して居る。又コルフの守備隊附の寺にバルガの舊寺に會て備付けられた神聖なる畫像其の他の器物が置いて

總督ア  
リスア  
とイスマ  
イルと  
の衝突

ある。今日はバルガは昔の通りギリシア領になつたから寺院も此處に再建せられ、神聖なる畫像器物等も亦此處に復歸されるであらう。

#### 六 總督アリとイスマイル・パシオとの衝突

斯の如く曲りなりにもイオニア附屬の大陸四箇處は悉くアリの手に入つたので、アリは遂に其の終生の目的を達して、事實上にエピロスの君主となつたわけであるが、トルコ帝に於ては總督アリが漸次勢威を積み、漸く駕御し難い臣下となつた上に、其の子も亦相當の勢力を握つて、もしこれが父の後を繼げば益々強大となり、増長して自立すべき虞があるを考へて、元モレアの總督であつた其の次男ウエリを其の左遷地たるラリサから更に又レバントに遷した。そこでアリは、此の順次の左遷は必ずイスマイル・パシオの指金に相違あるまいと見て取つた。イスマイル・パシオはアリと同じくアルバニア出身の者で、元は仲のよい友人であつたのが、仔細あつてコンスタンチノブルに奔り、トルコ帝に取入つて、頗る君寵を得たもので、アリにとつては侮り難い敵であつた。

アリはヨアンニナの總督として年來權力を揮ひ、己れの欲するところ何事をも



之を決行して、苟くも妨害を企てるものがあれば悉く之を倒すといふ決心の深い人物であつたから、こゝに於て人を備入れて、イスマイル・パシオを刺殺さしめようとした。ところが暗殺は遂げられないで、刺客は捕縛せられ、罪情を自白した。トルコ帝は大いに怒つてアリを叛逆者と宣し、其の舊管轄地をイスマイル・パシオに賜はつた。

### 七 總督アリの叛亂——ギリシア人の應援

斯の如くトルコ帝の逆鱗に觸れたので、アリは據るなくギリシア人に應援を求めた。總督アリは固よりイスラム教徒であるが、従来とても曾てイスラム教の部下を信任したことはなく、イスラム教の寺院を建てたこともなく、却つてギリシア正教の僧正を利用し、其の信徒のために寺を建て、外交文書にはギリシア語を用ひ、政廳所在地のヨアンニナに専門學校二箇所を起して、ギリシア文學、ギリシア語學を研究させたので、ギリシア語はいづくに於けるよりも此の地に於て正確に話された。又アルパニア人に對してはエピロスの獨立を主張し、ギリシア人に對しては憲法の制定を勸説した。

ギリシア人の應援

當時アルパニア出身の土人でオーマ・ウリオネスといふ者はエジプトに於ての戦歴があつて、名聲も高く、富裕でもあつた。又ギリシア出身者のオヂセウスは當時名代なる群盜首領の子であつたが、此の二人がアリの計畫に參與した。併しながらギリシア全體としてはアリが惨虐なる政令をエピロスに行うてゐるので、更にこれに同情を表せなんだ。

そこでトルコ帝の軍隊は到る處に功を收め、アリが最後にとつたバルガは官軍に降り、イスマイル・パシオはコルフに移つた舊住民に歸國するやう招いた。オーマ・ウリオネスは脱走し、アリの爲に滅ぼされたエピロスの舊自治の人民等はコルフ島からエピロスに上陸して官軍に應じた。アリは其の居城ヨアンニナに圍まれたが、敵軍に利用せらるゝを怖れて、自ら市街を焼き拂うた。

### 八 官軍の勝利——新總督イスマイル・パシオの無能

官軍は斯くの通りに征討の功を收めつゝあつたが、總督たるイスマイル・パシオはエピロスのキリスト教徒を懐柔することを怠つて、却つて之を憤激させた。イスマイル・パシオは誅求することが甚しいので、地方の勢力者は順次に離反したし、コル

官軍の勝



新總督  
スマイル  
の無能

フ島から應援として渡來した者は其の郷里を引渡されず、又約束した給料をも支拂はれぬので、怨み骨髄に徹した仇敵アリと打合はせて、其の味方についた。トルコ帝はイスマイル・パシが無能にして任に堪えぬのを看られて、エジプトに戦歴を有する古強者のモレア總督クルシッドを總司令官に擧げられたが、新總督クルシッドが未だヨアンニナに到着しない以前に、他の方面に於てトルコの危難が兆した。

### 九 ギリシア獨立の秘密結社

これより先六年ほどのこと、ギリシア獨立の計畫をした秘密結社ができてゐた、それはフィケイ・ヘタイリア(交友會)といふ團體で、一八一四年にアルタの人ニコライ・スコッファス、ヨアンニナの人アタナシオス・ツォカロス、モレアのアンドリツァイナの人バナギオテス・アナグロストボウロスの三名が南ロシアのオデッサに於て發起したもので、會員を初心のウラミデス(アルバニア語で兄弟分の意)から先達に至るまでの七階級に割き、統務ともいふべき秘密委員會が之を統括した。成立の初、三年の間は會の機運が更に進まなかつたが、其の所謂使徒はエーゲ海の島々竝にモレア

ギリシア  
獨立の  
秘密結社

半島に於て漸次に會員を集め、當時有力であつたペトロベイ・マウロミカレスも秘密委員の一人であつた。又ヨアンニナの總督アリの如きも入會せしむべきであらうといふ意見もあつたのである。

コンスルと稱せられたる交友會の役員はリワディアに於て指名せられ、他のものはエフォロスの稱號を稱し、ブカレスト、ヤッシ、ガラツに於ける事務員として任命せられた。

### 十 カボチストリア伯

さて總裁であるが地位の高い然るべき人物に委托するわけであつたが、當時ギリシア人の中で最も聲望のあつたのはコルフの人でカボチストリア伯爵であつた。伯爵はコルフ島をフランス軍が占領した時、島人の爲に盡力した醫者であつたが、七島共和國の時代に醫者の業をやめて官吏となり、共和國が復たフランス領となつた時にロシアに渡つて、アレキサンドル一世帝に仕へ、其の外交の才略を以て重用せられ、ウイーン、パリ、アーヘンの列國會議にもロシアの全權委員として差遣せられた程まで信任せられた。併し伯爵は交友會から提供せられた地位を

カボチ  
ストリア  
伯爵



辭して受けななんだ。そこで會の差遣委員クサントスは、モルダビア、ワラキアの總督であつたヒブシランチスの長子、アレキサンドルに説いた。アレキサンドルはロシアの陸軍少將で、曾て戦地に於て其の右の腕を失うたが、門地は高し、ロシアには關係があり、個人としては勇武の武人であるので、ギリシアの獨立運動を指揮する將軍としては適任でもあり、又ロシア帝の同情を收め得ることゝも考へられた。此のアレキサンドルは直ちに任務を快諾したので、一八二〇年六月二十七日に交友會から統務總裁として承認せられた。

#### 十一 秘密結社の總裁ヒブシランチス

アレキサンドル・ヒブシランチスの最先の計畫では、ギリシアに於て旗揚する心算であつたが、結局其の先祖に縁故のあるモルダビア、ワラキアの地に事を起すことに決心した。いかにも事情を知らぬ人々の目から見れば、モルダビア、ワラキアに於て事を擧げるのは最も適當であるかの如く思はれたのである。といふわけはワラキアの前總督カラゲアは交友會員であつたし、其の後を繼いだソウツォスは獨立運動に反對してたが、一八二一年春、毒殺されたといはれるし、又モルダビアの

現任總督ミカイル・ソウツォス及び其の外務大臣リゾス・ネロウロスはヒブシランチスと往復してたからである。モルダビア、ワラキアの一般人民は政權を握つてゐるギリシア人を目して虐政を行ふものと心得、國人に自由を授くるものとは考へななんだし、又ヘルレーン民族の爲には何等の同情をも有たななんだが、ヒブシランチスに於ては確に成功すべき自信があつたので、一八二一年三月六日若干の從者を連れて國境のブルート河を渉り、抵抗を受けずしてモルダビアの首府ヤッシに入つた。そこで總督の護衛兵は交友會總裁に加擔したので、ヤッシに駐在してた些少のトルコ軍隊は武装を解かれ、ヒブシランチスとソウツォスは外務大臣邸に會合した。

斯の如く首尾能く事は運びさうに見えたが、さてヒブシランチスは高い理想を有つてたけれども、人物の扱ひ方又は事務の取裁きには經驗の缺けてることを暴露した。先づ以て宣言書を出したが、其の文中に「或る恐るべき勢力はトルコ人の大膽を罰し、彼等を亡ぼす準備をなしをれり」とあつたのが、頗るロシア政府を惱ました。又ガラツ及びヤッシに於て許多のトルコ人を殺戮したので、トルコ國人の憤激をかふた。又目的を達せむが爲に地方の銀行家から用金を取立てたので、いたく



資本家連をよびえさせた。

當時ロシア帝はライバハの列國會議に參會して、ナボリの革命を鎮壓する策を講ぜられてたので、ヒブシランチスに對し一切の關係を絶たれ、ロシアの陸軍名簿から其の姓名を取消された。又トルコ帝はギリシア正教の總管長に嚴命を下されたので、ギリシア獨立軍の主將たるべきヒブシランチスは宗門から除名された。ヒブシランチスは徐ろにブカレストに進出した。總督ソウツォスはロシアに逃れて、ギリシア出身の最後の總督となつた。

## 十二 ビブシランチスの失敗

ワラキアに於ては國人舉つてヒブシランチスに従はず、ソウツォスの毒死した時に、小身の貴族でテオドル・ウラヂミレスクといふ者は、等しく貴族ギリシア人、ルマニア人に對し叛旗を掲げて小ワラキアに起つた。此の運動は本來社會上の利害のために始まつたことであつたが、ウラヂミレスクがブカレストに入るに及んで政治上乃至國民上の意味合に變つた。といふのは、ルマニアの貴族等は此の際ギリシア人から分離し、フランス革命によく似通つたこの運動の方向を變へて、

ヒブシランチスの失敗

從來長く虐政を行つた外國人に差向けることが最も適切なる政策であると認められたからである。

そこでウラヂミレスクはトルコ帝に對して何等の敵意をも表せぬ貴族連と合體したので、其の運動はヒブシランチスの行動と絶對に逆の方向を取つた。彼れはヒブシランチスに向つて、ギリシアはギリシア人に屬し、ルマニアはルマニア人に屬すると主張した。

此の間にトルコに於ては征討軍を準備して、やがてブカレストに討入つた。ヒブシランチスはウラヂミレスクが敵に通じたことを疑うて捕縛させ、軍隊に勝手に處分させた。彼れはギリシア人には逆賊と罵られ、ルマニア人には愛國者として賞められ、國人はルマニア人が總督に任命せらるゝのは彼れの革命運動に基くとして讚美された。

ヒブシランチスはウラヂミレスクを殺して、長くワラキアに留まらなんだ、六月十九日、上流及び中流の少壯ギリシア人より成るヒブシランチスの部隊は、其の弟ニコライ之を率ゐてトルコ軍と戦うたが、大敗したので再舉の望を断ち、トルコを

ヒブシランチスの運送



征討する軍事上の協議をせむがために、アウストリア國境へ召さるゝアウストリア帝の勅書を偽造して、其の二弟を引連れ、部下の兵を打棄て、アウストリアへ遁走した。そこでアウストリアに於てはヒブシランチスを捕縛し、勅命に依つて六年間ウィーンに監禁したが、一八二八年に死んだ。

敗餘のヒブシランチスの兵はカンタクゼネに率ゐられてロシアに退却したが、部下の少壯のギリシア兵等は最後の戦をするに決心し、五百名ばかりの一隊はヒブシランチスが渡つたブルート河のスクレニの渡場に踏止まり、六月二十九日血戦した。此の兵員の中、悪戦の後、河を泳いで免れた者は約四分の一で、残りの者は屍を戦場に曝し若しくは河中で死んだが、對岸に出て見物してたロシア人等は、大いに彼等の勇戦を賞揚した。

### 十三 ルマーニア自立の端緒

斯の如くして交友會の一舉は六箇月しか維持できななだが、ギリシア兵の勇壯なる行動は大いに士氣を引立て、ギリシア本國に於ける獨立運動の進捗には格別の力を致さなかつたのに反して、ルマーニアでは其の政體に變動を起させた。

ルマーニア  
自立の  
端緒

トルコ帝はモルダビアの前總督カリマキにワラキア及びモルダビアの總督職を委任せられたが、革命運動のために入國ができぬので、代理として二名のギリシア出身の知事を差遣した。ところが、ルマーニアの貴族等は、一七一一年以來行はれた從來の制度に従ふことを好まず、國家の重職に外國出身者を任用せらるゝことは帝國の安危に重大の影響を及ぼすこと、交友會の運動に徴して省みらるべきことをトルコ帝に注意した。そこでトルコ帝はルマーニア貴族等の請願趣意に省みられ、一八二二年アルバニア出身者でルマーニアに歸化したるギカ及びルマーニアの門閥家たるスツルザの二人をワラキアとモルダビアの總督に任命せられた。

斯の如くしてギリシア出身者がドナウ河の二國に總督たることが廢まり、ルマーニア獨立の曙光が現れた。恰もギリシア獨立の序幕として先づルマーニアの自立する端緒が開けたわけである。

### 十四 モレア半島の叛亂

ヒブシランチスがロシアの國境なるブルート河を涉り、トルコ領に討入つてか



らまだ約一箇月も経たぬのに、モレアに動搖が起つた。蓋し革命運動を起すには最も時期を得たもので、當時トルコには騒亂が二方面即ち、一はドナウ河の北に、一はエビロスのヨアンニナに發してた。しかも又折あしくモレアの總督はアリを征伐する爲に進發してゐるし、これと同時にトルコはペルシアに對しても戦争中であつたのである。

モレア半島の住民はキリスト教徒が大多數を占めてて、その中には富豪の人々も多くあつた。そして彼の七名のエフォロスと稱する委員會はこれより前に組織せられ、頻に交友會の目的を宣布してた。

一八二一年の春早く、恰も一般の運動を起す時機が來たかの如くに見えた。舊説には、この年四月六日、パトラスの僧正ゲルマノスがカラウリタ附近のハギア・ラウラ僧院に獨立の旗揚げをしたと傳へられてゐて、ギリシアに於ては爾來公にこの日を國祭日と定めたことであり、一般の歴史本にも左様に記載してあるが、事實としては話が少し違ふ。ギリシア獨立運動の場合にも、やはり多くの騒動の始まりの如く、ばらばらの事件から事が起つたものと見受けられる。キリスト教徒が

ギリシア  
の國祭日

イスラム教徒を處々に於て攻撃したのが三月の末に至つて益々甚しくなり、四月の二日には一般となつた。

ギリシア  
の勝利

この日はギリシア人がトルコ人をカラウリタに攻め、その翌日はマイナの豪族ペトロベイ・マウロミハライがカラマタの守備隊を包圍して、この二處は共に降参したので、ネドン川の岸に莊嚴なる感謝祭を舉げた。そしてペトロベイはメッセニア議會の議長に選まれ、エウロパ諸國へ向けて宣言書を發表した。

カラマタの陥落と同時に、パトラスに於て騒動が起つた。當時の民謡に「トルコ人一人もモレアに残すな」といふ句があつたが、之を實行に移して、イスラム教徒數千人を打殺した。殊に政廳所在地たるトリポリツア附近のワルテツィに於ける戦捷は、ギリシア人の見るべき働きであつた。

獨立運動はモレア半島よりコリントス灣を越え、次いでサロナが陥り、曾てアリに仕へてたアタナシオスはレワディアを取り、そのイスラム教徒たる住民を屠つた。しかしアタナシオスはテルモビレの北なるアラマン橋を守らむとして敗れ、捕虜となつて刑死した、今は其の地に彼の銅像が建つてゐる。



## 十五 アテネの占領

アテネの  
占領

オデセウスはテルモピレの間道なるグラウイア越を守つて功を収めたし、バルネスの農民はアテネを容易に占領した。アテネはいふまでもなく、古來盛名のギリシア都市であるが、中世以來衰へて、一八二二年の統計では、戸數僅に一二三五千、人口一萬位に過ぎない。こゝには、フランス、アウストリアの領事館があり、トルコの代官が居て、僅ばかりの守備隊が駐在してた。アテネはトルコ帝直轄の御料地であつたので、代官職は慣例の金額を皇室に納めて請合うたが、頗る高くついた位地であるといふことである。

アテネの内城なるアクロポリスは曾てトルコ政府に於て防備してあつたので、翌年の夏まで籠城したが、西の方に於てはメソロンギ及びウラホーリの二地が國事に合同したので、獨立運動が始まつてから三箇月の間に城塞を除き、爾餘のギリシアの地は全部ギリシア人の手に落ちた。

## 十六 ギリシア各地の叛亂

アテネの北方に當るテッサリア地方に於ても、交友會員たるアンチモス・ガゼーヌ

ギリシア  
各地の叛  
亂

なる者が兵を擧げ、臨時政府を立て、地方の政務を執つた。

又マケドニアの海岸から突出するアトスの三半島もギリシアに同意し、アトス僧院の僧等も武装して戦闘に従うた。併しながらテッサリアに於ては内部に一致を缺いたので、トルコ總督ドラママリに討ち從へられ、ウオロ灣の口にあるトリケリのみが持ち耐へた。

エーゲ海の島々に於ては、スベツアイ島が先づ旗を揚げた。其の艦隊はブブリナといふ婦人の指揮の下にナウブリア灣を封鎖して、ブブリナ自ら軍費を提供し、戦線に立つた。そしてブサラ島がこれに續いた。

ヒドラ島は富豪等が異議を唱へたため容易に事を起さなんだが、交友會に屬する船長オイコノモスが島人の首領となるに及んで、富豪等も遂に合同した。

サモス島もギリシアと合併を決議したが、當時は其の事が行はれず、僅に近年に至つて合同を遂げた。

シラ島は住民全部がローマ舊教信者であつたが、局外中立を守つた。クレテ島はいふまでもなく、ギリシア文化が最先に兆し、大陸方面よりも以前に



隆盛の域に達した處であるが、當時の人口は約二十九萬で、其の十六萬はイスラム教徒、十三萬がキリスト教信者であつた。いづれにしてもヘルレーン民族であるから均しくギリシア人であるけれども、信仰の上から斯の如く分離して、イスラム教徒が勢力を握つてた姿であつた。この島は、當時トルコ帝國中最も虐政に苦んでる地方であると言はれたにも拘らず、革命運動の情報を歡んで受けなつた。當時クレテ島ではスダ灣に近いカネアのフランス領事館がその國旗を掲げてゐる唯一の外國官廳であつたが、領事の報告に、島に於ては總督の権力は零で、地方官憲はエニチュリ部隊を制御する力なく、エニチュリ部隊はイスラム教信者たるクレテ島人より成り、イスラム教の最も熱烈なる宗徒であつた。當時の評判に、キリスト教信者は其の家の主人にあらずといはれ、エニチュリ等は銃丸を紙に包んで送つた。これは速に慣例の金額を提供すべしとの合圖で、若しも此の合圖に應じないときは容赦なく暗殺するのである。唯一つ除外例として數へられてた南海岸西部の泊リスファキスだけは既に五十年前から人頭税を出してたので、狼籍を受けなつた。

一八二一年の夏に、カネアではキリスト教徒三十名を虐殺し、カンヂアの本山の

本堂祭壇の前で、大僧正以下六名を屠殺した。彼等はなほ又スファキスの住民に對して武装を解くべく命令を傳へ、却つてスファキス住民を激せしめたので、スファキス人は兵を擧げて、カネアを封鎖した。

しかしギリシア艦隊はトルコ戦艦一隻を焼いた後、小アジア方面に出動して、アイワリのギリシア人を救助するために働いたので、エーゲ海に於ては其の優越權を揮ひ得なかつた。

### 十七 トルコ帝マームード二世のギリシア叛亂鎮壓

トルコ帝マームード二世は臣民が謀叛を起したのを看過する如き君では勿論なく、嚴重に鎮壓する策を執られ、定例のことではあるが、謀叛せる臣民を殺戮し始めた。此の處分はモルダビア及びワラキアでトルコ人が殺されたとの情報が達した時から、ギリシア人に對して行はれ始めたもので、モレアでトルコ人の大袈裟な殺戮の行はれた時には、コンスタンチノブル在住の主なるギリシア人及ギリシア出身の宮廷譯官を首刎ねたのみならず、現任のギリシア正教の總管長なるグレゴリオ五世はモレアの出身であるので、この人をも誅罰することとなり、復活祭の

トルコ帝  
マームード  
二世の  
叛亂鎮  
壓の  
定案



日曜日、總管長を其の宮殿の正門に懸け、三日間屍體を曝し、ユダヤ人をして之を引廻させた後、海に打棄てさせた。信徒は海中から總管長の遺骸を引上げて、南ロシアのオデッサに送り、此處に葬つたが、五十年の後アテネ大本山の本堂に改葬した。なほ處刑せられた者は之に止まらず、ワラキア、モルダビアの總督に任命せられたカリマキは獄中に殺され、サロニカの城壁にはギリシア人の首を懸け連ね、スミルナ、ロードス、キプロスのギリシア人等もイスラム教徒の復讐を受けた。

#### 十八 ロシア帝アレキサンドルの立場

當時のギリシア人は未だギリシアと稱する獨立國を有せず、彼等はエウロパ大陸の同情に訴へ、殊にロシア帝の保護を期待したが、ロシア帝アレキサンドル一世は困難なる境遇に御在りになつた。神聖同盟の一員で現に其の發起人であらせられるから、革命運動に御賛成なさるゝわけには行かぬし、一面又、トルコ帝國に居住するギリシア正教の保護者としては、ギリシア人の全滅を傍觀遊ばさるゝわけにも行かない。そこでトルコと外交を絶たれて、御在世の間獨立戦役の續く中に彷徨はれた姿であつた。

アレキサンドル  
帝の立場

エビダウ  
ロス憲法  
發布

一八二二年のギリシア暦元日は一月十三日に當つたが、この日にギリシア國民議會は歴史にエビダウロス憲法と呼ぶるゝ最先の憲法を發布した。併し國情にも事宜にも適合せぬ机上の空法であつたので施行できななんだ。

ヨアンニナのアリは城塞に立籠り、市民が夏時の行樂地とするヨアンニナ湖の島に戦塵を避けて征討總督から助命の證言を受けてたが、モハムメッドが代つて總督となるや一八二二年二月五日島の僧菴にアリを訪うて歸りぎには送り出たところを刺し殺したといふことである。併し菴の壁には彈痕が残つてて兵等が木造の床下から狙撃したと土地の者はいふさうである。時にアリは八十二歳で、その三子一孫と俱に五つの首級となつてコンスタンチノブルに送られ懸け曝らされて後に城門外に瘞められた。アルバニア自立の夢は斯くて覺めた。

#### 十九 ギリシア人の不統一

ギリシア獨立の戦役は斯の如く一八二一年三月に始まり、一八二七年十月までかゝつたが、其の間の経過は決して順當に行つたのではなく、ギリシアが頗る危急に迫つたこともあつて、此の足掛け七年の戦役は列國の干涉のために曲りながら



ギリシア  
一人の不統

に局を結んだ次第であつた。何さま既にいふ如く、當時ギリシアといふ國はなかつたので、ヘルレーン民族はトルコ帝國の各地に散在したばかりでなく、ロシアの南、殊にオデッサの湊町には許多居住してた。ヘルレーン民族は太古以來決して所謂ヘルラスの本國に纏まつて居住してたものではなく、當時彼等が知つた世界の各處にそれ／＼植民地を建てて、各獨立國を成し、本國とは殆ど連絡なく國の經營をしたもので、民族の發展状態は恰もフェニキアと同一であつた。フェニキア人は云ふまでもなく商業を以て國を立てたもので、商業上の打算から明白に分る通り、陸上の領土を經營するには雜費が多く掛つて實利は割合に少い筈であるから、領土を陸地に擴げることは好まないで、海を以て國とし、船を以て家とし、甲の地に於て貨物を仕入れて、乙丙等の地に於て之を賣捌き、其の鞘を取つて生活をし、富を作るといふのが方針であつた。ヘルレーン民族は彼等と接觸した後に、之に學んだものである。成程本來がマケドニアの山の中で牧畜耕作を營んだ人民だけに、何程か陸地の領土を持つ必要を感じたので、一團體の人民が必要とする程度の副食物、ヘルレーンに取つては野菜果物並に魚類であるが、此の野菜果物を仕立てるだけ

ギリシア  
一人の不統

の分は是非共入用である、しかし其の餘の分はなくても差支ないので、そこで船に乗つて國外に飛出し、到る處で商賣を營んで富を造つた。穀物の如き必要品は本國に於て作るよりも、寧ろ外國に於て買入れる方を便宜としたわけである。アテナの如きはエウポイアの島を領土として持つてたので、此處を百貨倉庫に穀物倉としてたが、その他の國々は、大抵は他所で買入れたのである。まして家屋を建築するに必要な材木とか、石とかいふやうな品は勿論嵩張り物でしやうがないので、必要に応じて遠方から運送したのである。而して人民は銘々の船に乗つて見込のある場所へと出向ひ、商品を仕入れては、之を賣捌いて生活したのである。

斯様なわけであつたので、國はいづれも皆極く小さく、天險の防禦地點で、同時に入江なり島なりを控へた船着の便宜のある處に城廓を築き、成るべく此の外廓の内に岩の塊りともいうて然るべきやうな、容易に登れない甍の高臺を選んで、此處に本丸を築いた。國家の鎮守の宮も勿論此處にあつたのであつて、平生は御宮に參拜し、御宮附屬の建物には美術館もあり、宮の周りには相當な空地もあるから、遊歩するにも適當であつた、又必ず見晴しの好い臺地であるので、安息するにも適當



であつた戦時となれば已むを得ぬから此の臺地に最後の籠城をするのである。アテネに於てはかういふ理想的の臺地があつて、此處をアクロポリスと稱する、今もアテネの神殿なるバルテノン(乙女殿)が現存してゐる。他の町に於ても皆同様である。

斯様にヘルレーン民族が太古の時代に於て各處に散在したやうに、今日も同様なのであつて、其のために各地に散在するギリシア人を統一することは殆ど以て不可能の事であるのに、この民族の國民性として協同一致の精神に乏しく、小さく分れて互に闘ぐ悪習がある。随つて拔群の人があつて、顯著なる功績を擧げると忽ちに衆人に嫌はれて、ひとり人望を失ふばかりでなく、一身の安堵さへも得られぬやうな窮狀に陥られる例である。又猫も杓子も政治論に耽る癖があつて、エウロパ人は一般に社會の或る階級にあり、或る程度の學識ある人が政治を談ずるのが普通であるのに、ギリシア人の場合には左様ではなく、誰れも彼れもが政治論に耽るのであつた。手近い話が、今日汽車の列車が或る停車場に着くとする、さうすると忽ちに數十の民衆が列車の窓に取付いて、ギリシア以外のエウロパの國

協同一致の精神に乏しく

支那の民衆と希臘人の民衆

る政治上の出來事に付いて情報を聞きたがる。支那で云はば大多數の殆ど全部ともいうて可い程の人民は農業なり商業なりに従事して、政治の事などは頭から頼着せぬ、之を民といふのである。極々少數の官吏とならうとする者が官吏になる資格を得むがために、政府できめて置く學科を修業し、試験に合格すれば官吏となる。此の徒を讀書人というて、其の地位を得れば彼等は臣となるのである、それ故支那では民と臣との二大別があるわけである。此の事は周末戰國時代から漢民族の間に著しく顯るゝ通弊で、遊士と呼ばれた讀書人等は自己の糊口の爲に學問を街ひ言論を鬻ぎ曲學阿世を以て其の生業としたことであつた。現今支那國民で騒いでる學生等も、此の所謂讀書人で、それも出來上つた讀書人ではない、讀書人の解つたばかりの雛である、上の方に居る立派な讀書人即ち大官の面々が率ゐて餌をやつてこき使うてゐるのである。此の現今の支那の學生と類似の姿を一般のギリシア民衆が示すのである。

斯様な厄介な國情であるので、獨立戰役もトルコ軍が強くて容易に勝てず、動ともすれば追捲くられて、苦しんでる間は力を協はして必死に戦ふが、些か景氣がよ



現今の  
モレア人  
は種々

いと忽ち内輪揉めが始まる。唯揉めるだけではすまない、黨派に分れる。黨派も唯口先で議論してゐるならばよいが、左様ではなくて、トルコの敵軍を控へながら、自分等勝手な私の戦をする。そこへ持つて来て此の戦役の指揮を取り、方略を授くる有力なる應援者があるではなし、大體からいへば、ギリシアの獨立は己れの手で達し得なかつた事情であるが、そこは古代の名高い文化國ではあり、現代のギリシア人は雜種となつて、古へのヘルレーンとは大分違ふのであるけれども、兎に角大體に於て古へのヘルラスを代表するものであるから、エウロパ各國の政府は兎に角、國民の同情が舉つて集まり、此の同情の聲はギリシア軍が勢を失へば失ふ程高くなつたので、遂にエウロパ列國も國民の囂々たる聲に耳を掩ふことができず、何等かの策を樹てねばならぬ據ろない勢に迫られたのである。

二十 メヘメツト・アリの征討

トルコ帝マームード二世はギリシア獨立軍の氣焰がなか／＼盛で、到底中央政府の討伐軍の力ではやりきれないと考へられたので、帝國內の總督連をすらりと見廻さるゝのに、當時で最も武力の強かつたのはエジプトのメヘメツト・アリの外に

メヘメツト・アリの  
討伐

はない、そこで彼れに眼を着けて入援するやうにとの勅命を下され、なほ總督の副子イブラヒムをモレアの總督に拜せられた。メヘメツト・アリに於ては、自己の領土を大に擴張する手筈となることであるので、喜んでこれに應じ、海陸兩軍を擧げて事に従うた。

此の時トルコの征討軍が最も困つてたのは、ギリシア艦隊の運動であつた。ギリシア艦隊は主としてブサラ、カッソス二島の人民が組織してたものであつたが、ブサラは船の操縦に老熟せる最も大膽な船夫を出す處として名高く、カッソスはクレテ島の獨立運動を維持する根據地であつた。そこでイブラヒム新總督は先づ此の二島を征伐した。カッソスは岩島であるが、此處を夜襲して、男子と老女を打殺し、若い女と子供を奪つて奴隸に賣つた。又ブサラには當時キオス島から逃れ出したものが數多あつたが、此の島の男子を殆ど皆殺して、死者の首と耳に仰山なる捨札をつけ、コンスタンチノブルで之を鼻した。幸に免れた者はアイギナ、スベツァイ、シラの島へ逃げたが、其の或る者はエレクトリアに新植民地を置いて、之を新ブサラと名けた。此の行動に引續いて屢々海戦をしてたので、イブラヒムがモレアに到



着するのはだいぶ遅れた。

### 二十一 イブラヒムのモレア上陸

イブラヒム自らはクレテ島のスマ湾に於てギリシア討伐の準備をしたので、陸軍を上陸させてクレテを鎮めた。此の島には固より勢力ある味方もあるので、存外容易く亂を鎮めることができ、キリスト教徒を例の通り惨暴極まる刑に處したが、其の一例としては一八二四年の春、一箇所の巖窟に數百のキリスト教徒を押し込めて燻し殺したことであつた。

やがてモレア上陸の準備が成つたので、いよいよモレアのモドンに上陸したのは一八二五年二月二十四日であつた。

イブラヒムのモレアに於ける最先の行動は、ナワリノ灣を占領することであつた。此の灣は古代に於ても有名なる海軍根據地であるが、これを壓する要塞が南北に二箇所ある。此の要塞を取るにはスファクテリア島が恰も灣の入口を扼してゐるので、先づ之を取る必要があり、ギリシア軍も其處を堅守したが、遂に陥落した。ギリシア軍はナワリノ灣を失うて、獨立軍の統一が最も重大の要件であること

イブラヒムの上陸

を始めて自覺した始末で、エジプト軍はなほ成績を挙げた。併し當時ギリシア獨立政府の所在地たるナウブリアは堅固の要塞であるので圍むことができず、専らモレアの各地を荒し廻つた後、モレアから北方に進出した。

トルコ征討軍の總督はレシッドであつたが、ギリシアの北部を鎮壓する任に當つて、相當に成績を挙げ、モレア總督イブラヒムと相並んで平定の業に従うた。

### 二十二 三國の干渉

ギリシア獨立軍に於ては、エジプト軍の北進以來戦役の經過が思ふやうに行かぬので、平和を望むことゝなつたが、既に五年間も戦闘してゐるので、事實上に得た處をさへ維持すれば満足するつもりであつた。併しながら強大なる敵國を控へてゐる上に、内訌を鎮めるのが容易でないので、局に當つた多數の人々は、いづれか大國の力を籍らねば事の成就せぬことを自覺し、一派はロシアに、一派はフランスに、一派はイギリスに依頼しようとして考へた。

そして一八二五年八月には、ナウブリアに於て、イオニア列島の如くギリシア全國をイギリスの保護權の下に置かむとする議が議會を通過したのだつた。そこ

三國の干渉



でイギリス政府に於ては、當時ジョージ・キャンニングが外務大臣であつたが、コンスタンチノブル駐劄のイギリス大使ストラットフォード・キャンニングをしてギリシア政府と交渉を始めさせた。

茲にギリシア議會はクレテ島を含むギリシア全國を代表する権限をイギリス大使に授け、一定の歳貢をトルコ帝に納めて獨立せむとすることを傳へしめた。ロシア帝アレキサンドル一世の素意はギリシアを三分し、テッサリア、ポイオチア、アッチカを東ギリシア、エピロス、アカルナニアを西ギリシア、モレアにクレテを付けてモレアと呼ぶ三國を置き、トルコ帝は三國の知事を親任せらるゝことに在つたが、帝崩じてニコライ一世立たせらるゝや、ウエリントン公はロシアに使用して、此の新帝に入説し、ギリシアから一定の歳貢をトルコ政府に納むることを條件として其の内治を取扱ふ全權を委任せられたい旨の議定書を一八二六年四月四日調印して戴いた。これが列國に於てギリシアの獨立のために執つた外交手續の初めである。

ギリシアの  
獨立の  
外交  
手續

一八二六年四月二十三日メッロンギが陥り、市の住民九千の内二千は脱れ三千

アテネの  
陥落

は虜となり自餘は戦死した。續いてレシッドはアテネの攻略を企て、八月十五日大舉して其の外廓を取つたが、アテネ軍はアクロポリスに籠つた。ギリシア軍はアテネを恢復せむが爲に後ろ巻したが、成功せず、一八二七年六月五日、アクロポリスの籠城兵は遂に降つた。獨立軍が五年間守つてたアテネを、トルコ軍は十箇月圍んで、遂に陥れたわけである。

是に於てギリシア全國は平定したわけであるが、ギリシアに取つて幸であつたのは、アクロポリス陥落の後一月の、七月六日にイギリス、フランス、ロシアの三國が條約を結んで、ギリシアの獨立を計畫したことである。此の條約の旨に依つて三國はギリシアとトルコの間に入り、直ちに休戦條約を結ばしめることを誓はせたので、トルコ帝の宗主權の下に貢を納るゝ獨立國の設定を以て談判の基礎とした。而してトルコ政府が一箇月以内に此の調停を受容れないときは、三國に於てギリシア政府と領事交換の關係を開き、成るべきだけ三國に於ては何等關係をつけないが、交戦國の間に於て衝突の起らぬやう豫防することゝ決定した。

三國干渉

### 二十三 ナヴリノ海戰



三國は聯合艦隊を準備し、イギリス艦隊司令官コドリングトンが總司令の任に當つた。そこで聯合艦隊はギリシアに赴き、ギリシア、トルコの兩政府に通知をしたが、ギリシア政府は之を受納し、トルコ帝は之を拒絶された。併し休戦は實際成立つたにも拘らず、ヘースチングス大尉は其の義勇艦隊を率ゐてトルコの小艦隊をサロナ港口に敗つた。折しも三國の聯合艦隊はトルコ、エジプトの聯合艦隊が籠つてるナワリノ灣を封鎖してたので、イブラヒムは此の襲撃に報いむがためにナワリノ灣の本營に歸つた。

イブラヒムは本營に着いて、三國の聯合艦隊と相對したが、なほ部將をして背面の地方を荒し廻らせるとは自由であつたので、村々の果物畑を荒した。モレア半島はコリントス、ブダウ、イチックなどの果物を以て鳴つてゐるので、果物畑は村々に取つて大切な命のつなと申して宜しい。そこでギリシア人を苦めるために容赦なく果物の木を片端から伐採したのである。

此の時聯合艦隊側では、地中海が段々荒れ始める季節に迫るし、村々をせいと擁護しなければならぬので、十月二十日艦隊をナワリノ灣に入れた。總司令官コ

ナワリノ  
の海戦トルコ  
の滅亡の  
序幕

ドリングトンは號令を下して、トルコ、エジプト艦隊から大砲を撃ち出さぬ限りは發砲せしめなんだ。ところがトルコ、エジプト聯合艦隊側に於ては戦鬪の避くべからざることを看破して三國の聯合艦隊から軍使を送つた舩船に向けて發砲したので、フランス艦隊の旗艦から小銃を發射して之に應じ、エジプトの一艦からは大砲を撃出した。そこで全艦隊の戦鬪となり、翌朝旭日の昇つた時に見れば、トルコ、エジプトの聯合艦隊は八十二隻あつたのが、纔に二十九隻だけ残つて浮んでるのを認めた。敵艦隊の損害は六千で、三國聯合艦隊のは百七十二名に過ぎなんだ。此の海戦は所謂ナワリノの役で、トルコ帝國滅亡の序幕はこれからあくのである。

#### 二十四 獨立後のギリシア大統領候補者

トルコ艦隊ナワリノ敗戦の報告が達した時、ギリシアの喜びはいふまでもないことで、ヘルレオン民族の獨立に同情し、あらゆる限りの盡力をした各國の人々も悉く満悦の態であつた。

イギリスに於ては此の海戦の心機となつたのが海軍總裁官の内命であつて、それが越權の沙汰であつたといふ意味で總裁官を辭職せしめ、陛下の勅語には「不都



合なる事件と御述べになつたけれども、總司令官コドリングトン及び數名の將校には叙勳の御沙汰があつた。

獨立戦役は之を以て事實上終りを告げたが、例の通り内亂は續いてた。又義勇隊の行動も熄まなかつた。

ギリシア獨立政府が第一回の國民議會に於て制定したエビダウロス憲法には、任期一箇年の議員七十名より成る立法院と、執政委員五名を置き、其の長官をキペルネテスと呼び、八省を設けて行政を分擔せしめてある。此の方針に基いて一八二七年四月に第三國民議會がダマラに召集されたとき、カボヂストリア伯爵をキペルネテスに擧げるとに協議が成立つて、四月十四日議決し、獨立のために兵を擧げた各地方を包含するギリシアの任期七年間の大統領に擧げた。伯爵はイオニア列島のコルフに生れ、ギリシアに於て最も聲望の高かつた人であるが、當時に於けるギリシア出身の外交家中でも最も有名であり、ギリシアの愛國者として、ロシア帝にも御信任篤く、人物は極めて公正誠實であつて、内行に於てさへも言分はなかつたのである。しかし外交家なるものは概ねこみ入つた事柄を巧みに解きは

獨立後  
のギリ  
シア大  
統領  
候補  
者の  
ア

軍閥  
派と  
軍人  
派と

ごして整理をつける事を任務としてゐるもので、いろ／＼様々に亂れ狂つてゐる情勢を取纏めて行くとは不得手である。それに此の人はコルフの人だけに深くウエネチア時代の氣風に染まつて、成人後はロシア政府に仕へ、規模の宏大なる専制政治に馴染んでゐるのに、ヘルレイン民族は昔から今に至るまで概ね自治體の政治を行ひ、チランノス(僭主)やデーマゴゴス(民衆惑亂者)は演の眞砂と共に種が絶えず、小さい地方に割れて、共同する機會もなければ意志もなく、個人も亦てん／＼ばらばらで自己の功名を樹て、自己の都合を計るのに専らである惡習がある上に、此の人は本國のコルフをよく知るのみで、ヘルラス全體を一向に知らず、言葉に於てもギリシア語を話すには話すが、完全に文章を書くことができなかった位の有様で、よく考へれば餘り言ひ分のない大統領の候補者であつたとは云ひかねるのである。當時ギリシアに於ては例の通り國民が種々の政派に分れてゐるが、最も勢力のあつたのは門閥派と軍人派である。門閥派は從來トルコ政府に仕へて顯要の地位を占め、随つて政權にも參與してた人々であるが、軍人派は殆ど皆群盜の首領で、それぞれ部下を率ゐて年來山寨に立籠り、殺伐の行爲を恣にして、武力を揮つてた面



面であるので、獨立戦役の中にあつても常に意見が牴牾しがちであつた。しかし何さま戦闘中であるので、巧みに士卒を率ゐて士氣を維持する人々が最も名望のあつたことは勿論である。宛も藝人が自己得意の十八番をだして最肩方の御機嫌を伺ひ、舞臺で大に見えを切つて自己一派で藝道を獨占めしようとするのと同じ有様である。されば當時に於けるギリシア政治家等はロシア派、イギリス派、フランス派の三つに分れた。カボヂストリア伯爵を推したのはロシア派で、フランス派がこれに加擔し、イギリス派は二派の意見を容れたわけであつた。斯の如く三派の協議が調ひ、大統領たるべき人も内定したので、彼の七月六日の條約がロンドンに於て成立したわけで、其の趣意とするところは文化を維持せむがために武力干渉を行ふといふ點にあつた。

### 二十五 新大統領カボヂストリア伯のクーデター

一八二八年一月大統領伯爵はナウプリアに上陸したので内訌は自然に治まつた。そこで當時の政廳所在地たるアイギナに到り、政務の報告を國務大臣等から聽取つたが、報告は概ね頗る面白くなかつた。先づ内務大臣の報告には現にギリシ

三派のギリシア政治家

新大統領カボヂストリア伯のクーデター

ア政權の行はるゝ地方はアイギナ、ボロス、サラミス、エレウシス、メガラ及びエーゲ海の數島に上り、イブラヒムの軍隊はモレアの大部分を占領し、ヘルラスは殆ど全くトルコ領であり、クレテ島は獨立戦にたづさはつたが鎮壓され、サモア島はリコウルゴス・ロゴテス此に號令して事實上の獨立を保ち、農業は全く振はず、商業としては獨り海賊が利益を齎すのみであるとあつた。大藏大臣の報告も類似のもので、金庫は全く空で、収入のあるものは立法院の費用のために前借の擔保となり、大統領官舎の建築をした大工の支拂さへまだできずであると説き、陸軍大臣は軍と稱すべきものゝないことを嘆息した。海軍大臣はさほどまで絶望の態ではなかつた、司法大臣は何分戦争中のこととして、法律は行はれぬので無言であつた。何さま足かけ七年も九死一生の戦をしてるので、斯の如き慘狀に陥つたのであつた。そこで大統領カボヂストリア伯爵はクーデターを以て職を執り始めた。第三國民議會は大統領を擧げたと同時に第三憲法を作つて、ギリシアを以て獨立にして分割すべからざる國家と宣言したが、しかしロンドン條約で定めたギリシアはトルコ帝の宗主權を奉ずる自治の納貢國である。大統領は本來外交家であるの



で獨立權と自治權とは全然別物で、當時の情勢に於て自治權以上のものを到底得難いことを知つてた。又永年の間專制政治の下にあり、現に包圍の裡にある國家に於ては憲法乃至代議制の如きことは格別重きをなさぬものであることをも知つてた。されば立法院議員に向つて其の職務を辭退するやう説諭して、其の代りにバンヘルレニオンと稱する團體を任命した。

バンヘルレニオンは二十七名より成り、行政、財政、司法の三委員會に分れる。辭職せる立法院議員の代りには三箇月以内に新國民議會を召集する旨を約した。獨立戰役に勳功を樹てた首領等は、大統領の此の臨時專制に服従するとしても、其の人選には必ずしも感服してなんだ。それは大統領が自分の兄のウイアロと云ふ人と其の親友の或る者とをわざとコルフから呼び寄せて、バンヘルレニオンに議席を與へたからである。

大統領は地方に執政委員を赴任せしめたが、ギリシアに於ては地方はそれと自治體に依つて治めるのが古來の慣例であつて、中央から執政官を派遣するなどは國情に違ふので、勿論その評判は宜しくなかつた。殊にウイアロはアイギナ及び

のレニオン  
任命

地方執政  
委員の選

海軍根據地なる島々の執政委員に任じられて、濫りに公民を捕縛し、書翰を開封し、新聞紙の檢閲を行ひ、政治を批判する人々を嚴罰に處して、アイギナ人民から差出した請願書を其の眼の前で燒棄てさせたなど、恰も專制君主であるかの如き態度に出たので、一層評判が宜しくなかつた。

大統領も亦誠實の人ではあるが、人扱ひの下手な人で、獨立戰役の勳功者中で、門閥ある者はキリスト教のトルコ人、軍人は群盜首領、富豪はサタンの舟、文人は馬鹿者と呼んで、此の馬鹿者の種類の永續することを豫防するために嚴正なる専門教育を施す案を立てた。即ちボロスでは僧侶のため、チリンスでは農業家のため、ウブリア竝にヒドラでは陸軍竝に海軍の將校のために専門學校を起した。

伯爵は學問よりも人物が國民を築き上ぐるに重要であり、又國家の隆昌を期するには實業の繁昌が大切であると考へたものらしく、ヘルレーン民族は知識を欲求すること甚しく、何物よりも學識を尙ぶことを忘れたのであつた。既にいふ如く伯爵はコルフの人で、ウエネチア時代の社會に育ち、ロシアの朝廷に於て立身した人であるので、民主主義で、批判に長じたる人民を取扱ふ適當の途をとり得なんだ

ギリシア  
大統領の  
不評



のである。

次に大統領は貨幣を鑄造した、従来ギリシア貨幣といふものはなかつたのであつたが、此の際銀貨と銅貨を鑄て、國立銀行を起し、紙幣を發行せしめて金融を圖つた。ところが此の貨幣の基礎は動搖する性質のものであり、銀行紙幣も實際は強制貨であつた。又兵員千名より成る聯隊を八箇置いて陸軍を編制し、ギリシアを東西の二部に割いて軍管區を定めた。

又モレア半島を七縣に島々を六縣に割き、執政委員を以て治めさせたが、古來ギリシアに盛に行はれた傳統の自治體はこれがために覆つた。しかし間もなく豫期せられた變動が起つて、ギリシアのために意外の利益を齎した。それは一八二八年四月二十六日ロシア帝がトルコに對して宣戰せられたことである。

ロシアがトルコを滅してバルカン半島に居据らうとすることはそも／＼古い傳來の政策であつて、此の年はこの政策を執行するのに最も適當の時機であると考えられた。それといふのはトルコ艦隊は、ナワリノ灣で全滅しエニチュリは戦地に發向せしめらるゝことを厭うて造兵廠に放火した嫌疑で一八二七年六月十五

バルカンの  
政策

日勅命に依つて誅伐せられたが、新軍制は未だ調はず、ギリシアは大統領の治下にあつて未だ歸順せずを有様だつたからである。併し其の後ともさうであるが當時は一般にロシアの實力を買被り、トルコの抵抗力を見くびつたので、些か豫想と違つた點があるし、又ロシア帝はバルカン半島に於てはトルコと戦ひつゝあるが、エーゲ海に於ては友邦の態度をとつてられるのであつた。

## 二十六 ギリシア獨立の承認

ロシアがトルコと戦つてた間に、ロンドンで同盟條約をした三國は、モレア半島からエジプト軍を撤退せしむる策を執つた。總督イブラヒムは聯合艦隊が撤退したので、其の負傷兵と、ギリシアの捕虜で奴隸とした者を數千人、本國のアレキサンドリアへ送り還したが、軍隊は冬陣の間に甚しく難儀した其のためでもあらう、一八二八年の夏、コロンのアルバニア守備隊が謀叛を起してギリシアに降つたので、ギリシア軍は歸郷を許した。

コドリングトンはかねてエジプトのメヘメット・アリと協約して、ギリシアの捕虜を放還し、エジプト軍をモレア半島から撤退せしむることに取極めといつたのであ



モレア半島の  
エネキ軍  
の撤退

つたが、其の節の協約には、モドン、コロシ、ナヴリノ、チュロウモウツイ、パトラス、リオンの六要塞を除外例としてあつた。さればイブラヒムは其の父の協約を履行することには反対せなんだが、六要塞の引渡を拒んだのである。

コロシとはモレア半島の西南隅メッセニアの南端にある元のベネチア植民地の事であるが、此の要塞が手に入つたので、フランス政府はモレアになほ駐在してゐるエジプト軍を逐出すことに決し、イギリスに相談した。ところが、イギリスも同意したので、八月三十日メイゾン將軍をしてフランスの一軍をコロシ灣のベタリヂに上陸せしめた。

メイゾンはエジプト軍が守備する要塞を取りに掛つたが、概ね直ちに降つて、リオンのみが抵抗した。しかしこれも十月三十日に降参したので、モレア半島には敵軍の跡を絶つた。

そこでフランス軍は要塞を掃除し、道路を修繕し、イブラヒムの荒した跡を復舊する仕事に掛つたが、其の仕事の一つはモレアのトルコ政廳の所在地たるトリポリツアの破壊であつた。フランス兵等は此の命令を徹底して履行し、殆ど其の遺跡

を認むることができぬ程まで綺麗に平らげて、纔に總督官邸の土臺が残つてゐるだけにした。又今後ともモレア半島に敵軍の襲來せぬやう、十一月十六日を以てギリシア問題の最後の解決がつくまでは、モレア半島並に附近の島々を同盟國の共同保護の下に置くことに條約を定め、フランスの一部隊をモレアに留めて守備に當らせ、爾餘の部隊は悉く本國に歸還させた。

斯くてコリントス地峽の南では戦争が終つたが、其處から北ではトルコはロシアと戦争中であり、アルバニアは謀叛を起してゐるので、ギリシア軍は嘗て失うた土地を漸次に恢復した。

ヒブシランチスは進んでボイオチアを占領し、サロナを降し、アムブラキア灣のウオニツア城をも降したが、レバント、メツロンギもこれに續いた。

此の時クレテ島では兩軍とも休戦を約してたので、其の間に三國の代表者はボロスに集つて、新しく成つたギリシアの國境に付て相談したが、其の結果は一八二九年三月二十二日のロンドン協約に包含せられてゐる。即ち北境はアムブラキア灣からバガサ灣に至る線を以て限り、東に於てはエウポイア及びモレア附近の島

ギリシアの  
國境協  
定の



島キクラデスを包含することゝなつた。國は世襲王國で、三國に於ては自己の王朝を避けて、他の國の皇室からキリスト教の國君を立つることゝし、トルコ帝の同意を經、トルコの宗主權を奉じて、封冊を受け、歳貢百五十萬ピアストルを納むることゝ定めた。

此の取定めはギリシアの政治家を満足せしめず、大統領も頗る不満であつた。政治家等は共に獨立に盡力したサモス、クレテの二大島を取離したことを怒り、大統領は自己の代りに外國の君を推舉することを不快とした。そしてトルコ帝は僅にモレア半島及び附近の島々を割くことだけを承知せられた。併し當時のイギリス外務大臣エバチン卿は、トルコ最負の人で、此の協定を喜ばないので、之をトルコに押付けようとは努めなんだ。

そこで大統領は是まで延び／＼になつてた國民議會の召集を行つたが、自分に都合の好い多數が選舉の結果集まるやうにしたいので、幸にモレア半島では頗る人望のあるのを利用して、選舉の爲に出馬し、巡回した。地方に於ては處々で大統領を代議士として選舉したが、併し此の選舉は不法であるとの宣告を受けたので、

單に代表者といふわけで、俗に「善良なるキリスト教徒」というて、選舉區民からそれぞれ書類に認めた注文を受けて指名された。

メソロンギは自治思想の最も進んだ處であるので、斯の如き變體の代議制に對して不服を申立てた。海軍根據地たる島々も當然反對側に立つた。なほ又トルコ軍の占領してゐるギリシア地方のエピロス、テッサリア、キオス、クレテなどからは大統領を維持せんがために代表者を送つた。

斯くして、第四國民議會は一八二九年七月二十三日アルゴスに會合したが、大統領側の者が多數を占めてたので、決議に依り大統領は同盟國と協議する全權を受け、新しく制定せられた元老院の議員の中六名を指名し、六十三名の推薦候補者中から二十一名を選択した。又貨幣には大統領の名を刻むべく、新に制定せられた勳章は當分の中大統領限り佩用することゝ定まつた。官吏の任免は國民議會に於て掌ることであつたが、大統領は此の議會の權利を濫用して、自己の弟アゴスチノを西ギリシアに於ける大統領代理に任命した。

議會はやがて閉會となつたが、同時にトルコとギリシアの戦も終結した。そこ



ロシア軍  
の南進

でロシア軍の南進は思つたより暇どつたのであつたが、遂にバルカンの峠越を破つて、アドリアノブルに迫つたので、トルコでは餘儀なくギリシア方面から軍隊を呼返した。アチカ及びボイチア地方にはトルコ軍がまだ守備してたが、アスラン・ベイに一隊のアルパニア兵を授けて、迎ひ取るべき命を下されたので、アスランは守備軍を率ゐて北に歸るべく、ペトラ越を通過することゝなつた。此處は大沼の邊り山の麓で、天險の隘い道であるが、ギリシア軍はデメトリオス・ヒブシランチスの指揮の下に、こゝでトルコ軍の通過するのを待伏せてたので、九月二十四日アスランは大に敗れ、翌日降参した。その時降参の條件として、トルコ軍はアテネの内城アクロポリス及びカラババの要塞を除く爾餘の東ギリシア全部を撤退することを約した。

斯の如くして偶然とは云ひながら、ヒブシランチス家の兄弟が獨立戦の序幕をあけ、又打出しの幕を垂らしたわけである。

ギリシア獨立戦役が終了して後に、残るところは領土を確定して、新しい國の當事者を推薦することであつた。ペトラ役の後十一日、ロシアはアドリアノブル和

ギリシア  
獨立戦役  
の終結

議をトルコ帝に押付けたが、此の平和條約の要旨はロンドン條約及び三月二十二日の協約を承認する事にあつた。後に分つたことであるが、アドリアノブル和議の條項は當時のイギリス政府を驚かしたこと一通りではなかつた。當時はウェリントン公爵が總理大臣であつたが、此の人はロシアの南下を頻に恐れ、又ギリシアが相當な大國となるを甚だ忌嫌はれたのであつた。そしてロシアの南下を遮らんがためには、トルコをイギリスの出城に使はうとする方針であつたが、それにはトルコが相當の力備を持つてなければならぬ、言葉を換へていへばギリシアをせいゝく、小さな弱い國として置かなければならぬ。公爵はいふまでもなく軍人であるので、軍事上の考慮が主として政策に往來し、商業上の事などは左まで重きをおかなんだことゝ察せられるが、アドリアノブル條約の成立を聞知つて、トルコの運命は今や旦夕に迫つたと觀念し、トルコが斯様な危急の状態にある以上、もはや之を庇うてロシアに對して骨折らせようとしたところで勿論だめなことである。さればギリシアが獨立したからとて、別段直接にイギリスの不利益とならない以上兎も角憂ひたところ、仕方のないことである、それよりもいつそギリシア



人の望み通り全然獨立せしめた方が然るべきであらうと、心機一轉してしまつたださうである。

事茲に到るまでは、イギリスの方針としては何處までもトルコを何とかして相當な強國に取留めて置いて、ギリシアは纔に自治を得るのみで、トルコの號令には従はねばならぬものとして置きたかつたのであつた。併しながら復た考へたのには、獨立後のギリシアは必ずロシア最良であらう、ロシアの南進は御定まりの事なのであるから、ロシアに内應する力がせいゝ大きくないやうにせねばならぬ。随つて、假令獨立してもギリシアは小國であらねばならぬといふのが結局イギリス政府の望みであつた。

一八三〇年二月三日、三國は新しい協約を結んで、ギリシアは完全なる獨立國として、世襲の君主之を統治すべきであるが、但し國君はイギリス、フランス、ロシアの現に統治せらるゝ皇室の外より擧げらるべきであるとした。併しトルコ帝は三月二十二日の協約に依つて定められた國境を削減したい希望であるから、此の點に斟酌を加へる必要があるとの考で、ギリシアの國境は東方に於てはスベルケイ

ギリシアの獨立の承認

オス川、西に於てアケローオス川を限ると決定した。

### 二十七 ギリシア新大統領の失敗

由來イギリス人は例の島國根性で兎角に外國の事を知らうとせず、動ともすれば外國人を侮り、自分免許の獨天狗で、世間知らずの耻を曝すことが屢々あるが、此の場合にも前に述べた國境はギリシアの地理を極端に知らぬ事の明白な證據になる、取りも直さず最も惡い國境を選びに選つたといふべき結果である。

決定した國境で、せめてもの取りどころは、古代に於ての有名な遺蹟であるテルモビレー竝に獨立戦役の顯著なる遺蹟メソロンギを包含したことである。併し獨立戦役の中、頗る努力したアカルナニアの全部竝にアイトリアの大部を抛棄し、これがためにギリシア西部のテルモビレーというて然るべきマクリノロス越をトルコに讓つてゐる。島々に於てはいかにもエウポイア、スキロス、キクラデスを包含するが、肝腎かなめのクレテの大島を除いたがために、其の後とも永くエウロパ外交の面倒なる種子を蒔いた。

當時リトク大佐は名代のギリシア通で、恰もロンドンに居住してたが、不幸にも

決定した國境線



外務省は此の人に就て聴くところがなかつた。

ギリシア國の國君候補者としては、列國は後にベルギー王となられたサクセン、コーブルグ家のレオボルド親王を推薦した。親王は當時年齢四十歳、思慮緻密で、難局に處するに適當の人材であつたから、ギリシアに於てもかねて此の方に望を囑して、既に五年前に委員を特派し、密に御意向を伺はうとしたことがある。近くは又親王自ら調査委員を遣されて、ギリシアの現況を調査させられたが、遂に三國の推薦があつたので、八日間考慮の後承諾せられた。トルコ帝に於ても三國の推薦に同意を表せられ、ギリシア國民も亦此の推薦を喜び勇んで、ギリシア問題はこゝに四方八方解決がついた如くに見受けられた。さればこそフランスは昔からキクラデス島居住のローマ舊教信徒に對して保護權をとつてたが、此の際此の權利を拋棄した。

ところが大統領カポヂストリアに於ては此の推薦に甚だ不満足であつた。伯爵の目的はいふまでもなく終身大統領であるつもりであつた。又列國に於ても自分のことを考慮にのぼすであらうと考へたのであつた。ところがさばなくして、自

分が治め始めたギリシアを謂れもなく他人の手に召上げらるゝことになつたので無念がつたのである。

そこで伯爵はギリシアの現状をできるだけ悪しざまに吹聴して、親王がギリシアに渡らるゝのを御考へ直しになるやうに仕向けた。親王自らも君臨せらるべき國の境域がいかに狭いのに不服であつた。現にイギリス外務大臣エバデーン卿に宛て、遣された書狀にも、クレテを新國より除いてはギリシアを平穩に治むる方法を想像することできぬとある。又獨立戦役に一方の將軍として勇名を轟かしたイギリスの陸軍大佐でギリシアの西部都督たるチャーチの意見書を読まれて、アカルナニアが軍事上重要であることを御承知であつた。なほ又希望としてはイオニア列島をも領土に差加へられたく思はれた。

伯爵は此の國境の狹隘なことが不人望なる旨を切言して、巧にアルゴスに於ける國民議會の「外交談判の結果は立法院に依り批准せられざるべからず」との決議を利用した。伯爵は更に親王は國民の宗派に改宗せられて然るべき旨を送り、國民が親王に奉つた歓迎文が御手許に届かぬやう力め、歓迎文の署名者を敵とし

レオボルド親王の  
陛下の御妨害



ルレオボルド親王の辭退

て取扱うた。搦て、加へて親王はイギリスの攝政に擧げらるべき萬一の見込があつたので、王位の受納を延ばされて、五月に至り正式に辭退された。それから一年後に親王はベルギーの王位に登られたが、ベルギー王として歡樂の境遇にあらせられながら、アテネの朝廷に在りたらばと屢々嘆かれたといふことである。

斯の如くカポヂストリア伯爵はサクセン・コーブルグ家の踐祚を首尾よく妨げたが、直ちに彼自身に對する國人の反抗が起つた。當時パリに於ては大革命が起つて、其の波動はギリシアにも及んだのに、平生が平生であるから益々人望を落した。伯爵は自己の陰謀が首尾よく遂げられただけに又それだけ専制風になつて、其の行動の或るものが當時不評判を極めたとは、フランスの王位から國民の爲に逐ひ出されたシール十世の舉動に似てゐる。例へばレオボルド親王へ宛てた歓迎文に署名したと云つてこれを重罪として取扱ひ、ロシアに依頼して其の軍艦をモレア半島に差送つて租税の強制徴收を行ひ、アテネの内城アクロポリス及エウポイア島に居住するトルコの臣民に其の私有財産の價額を賠償することがで

きぬため、此處から彼等を撤退せしむることができなう。勿論それは大統領には金がなし、列國はフランスにもポーランドにも大革命が起つて、エウロバがもめてるので、ギリシアの後始末をきれいに片付ける邊がなかつたのである。

一八三三年三月三十一日にアクロポリスのトルコ守備隊が遂に撤退したが、これは伯爵の死後殆ど十八箇月経つてからである。

アテネ人は伯爵の行政を非難すること手厳しく且つ軍隊の謀叛も兆してゐる、殊に評判をそこねたのは、伯爵は戦時中に被つた損害に對する賠償金をヒドラ島の人民から要求したのを拒絶したこと、此の勳功高く、勢力の旺なる島の激烈なる反抗を來たした。

#### 二十八 ヒドラ、シラ兩島の叛亂

ヒドラの島人は不平の餘り、アウロラ(曙)と題する新聞紙を發行した、すると伯爵は之を禁止したが、これより前に新しく政廳を置いたナウブリアではアポロ(神の名)と題する新聞紙を發行してたので、編輯人は其の新聞社をヒドラ島に移して、反對黨の機關とし、議會及び憲法のことを主眼として記載した。次いでヒドラ島は

ヒドラの叛亂



大統領の直轄から離れ、地方の豪族が委員会を組織して事実上の獨立國を建てた。シラ島はギリシアに於て第一の盛なる商業地であるが、面倒臭い商業の取締規定に苦んでヒドラの尻押をした。

此の事は大統領の目に餘つて、シラを罰する爲に艦隊の出動を命じた。然るに此の艦隊がボロスの軍港を出發する前に、ヒドラの所謂憲法委員會の一員たる海軍少將ミアウレスに、マウロコルダトスを差加へて軍港を占領させた。ミアウレスは軍港に赴いて、そこに居合はした軍艦の艦長カナレスに加擔させようとしたが、肯入れぬので、元の同僚たるにも拘らず之を捕縛した。

大統領は此の暴舉を聞いて大に怒り、當時ナウプリアに滞在してたロシアの海軍少將リコルドに頼んだので、リコルドはボロスに赴き、ミアウレスに命じて軍港を引渡させようとした。然るにギリシアの海軍少將は「本職はヒドラの憲法委員以外に何等の官憲をも承認せず」と答へたので、ロシア艦長は之を脅したが、ギリシアの海軍少將は「本職は職務を執るのみである」と平氣であつた。恰も此の時イギリス及フランスの司令官は偶然此處に來合はしたが、訓令を受ける爲にナウプリア

大統領  
艦隊  
シラ島  
に依  
定

アに赴いた間に、ロシアの水兵はヒドラのものと衝突した。大統領はヒドラ軍艦が歸る前に撃滅すべき旨をリコルドに言傳へさせた。

一八三一年八月十三日、大統領はヒドラ艦隊を砲撃する位置を取つたので、ミアウレスは大統領に予は降参するよりは自ら艦を爆破すべき旨を通告して、之を決行し、ギリシア軍艦の碎片が軍港を覆ふ中を、悠然其の部下と共にヒドラに歸つた。大統領の軍隊はニケタス之を率ゐてたが、既に降参したにも拘らず、恰もトルコ領の町でもあるかの如くにボロスを焼き掠めた。しかしロシア軍艦は袖手して之を傍觀した。

ボロス焚掠の終つた時、カボヂストリアは感謝狀をロシアのリコルドに贈つた。併しながらボロスの處置は大統領の致命傷となつて、反對黨は大統領を一派の首領と看做し、イギリス及フランスの政府は彼をロシアの派遣官として取扱うた。

### 二十九 大統領の暗殺

ボロスの軍港焚掠の後二箇月を経て、大統領カボヂストリア伯は謀殺された。モレアの南端メッセニアの東部コロン灣に沿うた地方は山國で、古來嘗てトルコ

大統領  
暗殺



が完全に之を征服したことなく、住民は倔強なる山人又は船乗りで、殆ど専ら山賊海賊を事とし、事実上の獨立國であつた。此の地方の首府をマイナと云ひ、其の地方民をマイナ人と普通に呼ぶ、此の地方には許多の豪族がゐたが、其の中マウロミハライ家は優越なる勢力を有して、其の名は一六九〇年以來汎く聞え、一七六九年以來ギリシアの自主運動に盡力したことを以て顯れ、獨立戦役に於ては眞先にカラマタを占領し、モレア、エウポイア、アカルナニア、エビロスの諸地に於て勇名を鳴らし、數名の戦死者をも出した。

斯の如くマウロミハライ家は國家のために拔群の勳功を樹てたが、どこまでもマイナの特色を代表した。即ち中央の専制、集權の主義を拒み、飽くまでも小さく分立して、腕づくで自立する弊風があつたので、カボヂストリア伯は此の太古のヘルレーン民族に固有なる惡習を除き、近世の文化に誘導すべき必要ありと考へたと見え、之を實行するには大統領の命令を奉ぜず、却つてこれに代つて號令を下す一家を全滅するのが唯一の策であると心得たと見える。

ペトロロベイの兄弟ヨアンネスは地方に謀叛を起したが、大統領はペトロロベイの

マイナ人の特色

次男ゲオルギオスに頼んで調停して貰ひ、それで亂が漸く鎮まると、政廳所在地たるナウプリアにヨアンネスを呼び寄せ、中央政府はマウロミハライ家との争ひを解決したい旨を約して、ヨアンネスがナウプリアに來たところを捕縛し、ヨアンネス及び其の子に對して糺問を起した。ところがヨアンネスの子は遁れてマイナに歸り、其の顛末を報告したので、ペトロロベイの兄弟であるコンスタンチノスは兵を擧げて、家長の一族を虐げる大統領に背いた。

家長ペトロロベイ自らは元老院議員で、ナウプリアに在つたが、急いで國へ歸る途中で大統領は之を捕縛し、ナウプリアに引戻して、元老院議員たる職務を怠り剩へ國憲を紊亂せりとの罪名を以て獄に投じ、コンスタンチノス及びゲオルギオスをも亦ナウプリアに召寄せて、警察の監視を付けた。されば世間の同情は自然に此の一家に集注し、ペトロロベイの老母は其の子を解放せられたい旨を大統領に嘆願した。當時ペトロロベイは未だ糺問せられずに獄中に繋がるゝこと九箇月に及んだが、ロシアの艦隊司令官リコルドも氣の毒に思つたと見えて亦解放の意見を述べた。しかし大統領は肯き入れななだ。



そこでコンスタンチノス及びゲオルギオスの兩人は監視を付けられたゞけで、行動は自由であるので復讐を企てた。

一八三一年十月九日、大統領カポヂストリア伯爵は例に依り徒歩で寺へ朝の讀經に參詣したが、門前に近く左右にマウロミハライ家の二名が立つてゐるのを見受けた。かねて危険に迫つてゐることを注意されてたので、一寸立留つて様子を見たが、氣を鎮めて寺に入らうとしかゝると、門前にゐたコンスタンチノスは短銃を以て伯爵の後頭部を撃ち、ゲオルギオスは短刀を以て胸部を刺し、伯爵は即死した。其の時従者の一名はコンスタンチノスを撃ち、なほ一名は寺の窓より逃げ去る刺客を撃ち、更に一名は遂に之を斃した。

そこで民衆は刺客の屍骸を引摺つて町を過ぎ、之を海に棄てたが、其の間にゲオルギオスはフランス公使館に逃れたので、怒れる民衆は公使館を圍み、ゲオルギオスを引渡さるべき旨を要求した。公使館に於ては將校一名を附けてゲオルギオスをポウルジの島の要塞に渡し、此處で軍法會議を開いて、十月二十二日其の老父が監獄の窓から望むでる面前で之を銃殺した。

アテネの國都にマウロミハライ家の屋敷があるが、兩人の肖像は今も殿として壁に懸けられてあつて、訪問客は兩人の相貌を眺めることができる。コンスタンチノスは柔和で、ゲオルギオスは悍猛な相貌をしてゐる。

### 三十 ギリシア政治家の内訌

大統領伯爵が謀殺されたので、其の黨員等は之を悲み、元老院は直ちに會議を開いて、十月九日の正午前に三名の臨時政務委員を舉げ、國民議會の召集せらるゝまで政務を取扱ふ事とした。委員三名とは故大統領の家を代表する舍弟アゴスチノ・カポヂストリア、モレアの豪族を代表するコロコトロネス、ヘルラスを代表するコレツテスの人々で、アゴスチノが委員長となつた。アゴスチノは調和の精神を全然缺いて、コロコトロネスの同意があるのを幸に、穩健なる意見を主張するコレツテスを容認せなんだ。されば大赦を行うて中立地帯で國民議會の自由選舉を行ふことを條件として、シラは臨時政府の權力を承認し、ヒドラは委員を二名増加すべきことを要求したときにも、斷然之を拒んだ。

アゴスチノは又故大統領の方針を踏襲し、ロシア艦隊を利用してヒドラを圍み、



ギリシアは外國軍隊を使用する如き贅澤なる真似はできぬと稱してフランスの一將官を免じた。そこでギリシア政府に仕ふるフランス將校は悉く官を棄て去つた。

ロシア派  
フランス派  
イギリス派  
の三分

ギリシアに於てロシア派、フランス派、イギリス派と三派の政治家等が藩に聞いでたのは戦争中からの事である。カボヂストリア家を代表するアゴスチノは勿論ロシア派の棟梁であるので、イギリスとフランスを罵つて、恰も故大統領の謀殺に與かつたものゝ如く吹聴するし、ヒドラの島人はアゴスチノの雇つてゐる鼠輩等は立憲黨の首領等を暗殺する企をした又彼れの兄は嘗てボロスの豪傑等をシベリアに追放すると誓つたと罵り返して、互に讒謗を恣にしてゐる最中に選舉は行はれたのであつたが、其の間カボヂストリア派はヒドラの代表者等をモレアに上陸せしめず、マイナの代表者等をアストロスに捕縛して置いた。

ヘルラスの首領コレッテスは其の同僚たる二名の臨時政務委員と關係を絶つて、ヘルラス地方に優越なる勢力を有つてたが、是に於て、立憲黨と稱する反對黨を組織して、ヒドラ島人を政務委員會に列席せしめんことを要求し、若し容れられねば

別個の政府を組織すると唱へた。

十二月十七日第五回國民議會はアルゴスに召集せられたが、カボヂストリア派は學校を會場とし、ヘルラス派は市の他の部分に會合した。兎に角アゴスチノ、コロトロボネスの二人は表面上其の職務を辭して、アゴスチノは十二月二十日ギリシアのプロエストリス(大統領)に選まれた。しかしコレッテスは辭職しないで、依然として内訌を續けた。

そこでアゴスチノはロシアの應援隊を招き寄せて、アルゴスの市街で二日間戦闘したが、ヘルラス派は敗れて北に退き、コリントスの附近ペテボラに別個の政府を打建てた。

アゴスチノはコレッテス及び其の派を逆徒と稱し、コレッテスは又アゴスチノを篡奪者と呼んだ。

列國は此の始末をにがしく感じたので、容易に事を運ばなんだ。しかし結局アゴスチノを大統領として承認し、代理公使等をして臨機の處置を執つて政務を整理すべく、又國論を統一すべき旨を切言せしめたが、駄目であつた。

第五回國民議會



三十一 國王の候補者バワリア王子オトー

斯の如く二年間動搖を續けた後に、遂に一八三二年二月十三日バワリア王の第二子オトーをギリシア王に推戴することに決した。

列國が此の決定に出た理由は、當時のバワリア王ルードウィヒは熱心なるギリシア最負であつて、ギリシアに於て其の名をよく知られてたのと、バワリアの國は列國の嫉妬を醸す如き大國では勿論なく、随つて先づ無事と思はれたからの次第であつた。

オトー親王は當時年齢未だ十七歳に達せられぬが、弱年で無經驗であるがために、速にギリシア流の思想を酌み容れらるべく、又現在の困難なるギリシアの國情に關しての總ての責任は、君主には歸せず、攝政の負ふところとなるわけであるから、王位に即かれてもさしたる御面倒はなからうかと信じたのであつた。

五月七日バワリアは三國との間に條約を結んで、バワリア王ルードウィヒが其の御子の爲に條件を御取極めになつた。此の條約に依ると、オトーはギリシア王の尊號をお名乗りあるべく、三國の保證の下に、獨立にして世襲なる王制を布かるべ

國王の候補者バワリア王子オトー

く、御子なくして崩ぜらるゝときは其の弟御相續あるべきであるが、併し何れの場合に於てもギリシアとバワリアの王位は同一の御方に於て兼ねらるゝことなかるべしとのことである。

オトー親王は一八三五年六月一日を以て満二十歳即ち丁年に達せらるゝが、それまでは御父の指名に係る三名の攝政官に依つて完全なる大權を行ふ筈である。三國は又二百四十萬ポンド以下の五分利公債を三回に募集することを保證し、バワリア王は三千五百名を超えざるバワリア兵の一團を備へ、なほギリシア陸軍の爲めにバワリア將校を差遣さるべき旨を約せられた。

國境に關してはイギリス外務大臣バルマストン、トルコ駐劄大使ストラットフォード・キャンニングの盡力に依つて、一旦東に於てはスベルケイオス川、西に於てはアケロイオス川を以て限りと決したのを、更に北に延べて、アムブラキア、バガサの二灣に進めたので、ラミア地方を包含することゝなつたが、此の地方の代償として四六二四八〇ポンドをトルコに支拂ふことゝなつた。

トルコ帝は此の條件に満足して、オトー親王をギリシア王として承認せられた

ギリシア國境の決定



ので、ギリシアはレオポルド親王に王位を薦めた時よりも領土は増したが、其の代りにサモス、クレテの二島を減じた。ザモス島はコレッテスが曾て獨立を宣言したが、壓迫せられて一八三二年にキリスト教の納貢自治國として組織せられ、クレテ島は一八三〇年にエジプト總督メヘメット・アリに忠勤の恩賞として授け給はり、エジプト總督の管轄地ではあるが、島の旗を有し、自由航海權を享受し、其の僧正、團長等に租税を徵收する權利を與へられた。

軍事上から云へば此の新國境は大體に於てギリシアに都合好くできてゐた。

それは西境に於てマクリノロス越の險を含み、アムブラキア灣の東及び南海岸の全部を握り、纒に灣の二箇所だけがトルコの管轄に残つた。其の二箇所は何れも重要な要塞地帯で、其の一のブンタは一八八一年にトルコ之を割き、其の二のブレウヰザは一九一二年までトルコ之を保つた。

### 三十二 カポヂストリア派と立憲派との私闘

國君候補者の選擇も既にすんだが、愈々入國せられるまでは相變らず内訌が續いて、カポヂストリア派と立憲派との私戦が行はれた。幸にしてロンドンから無

カポヂストリア派  
と立憲派との私闘

政府の状態に陥らぬやう秩序を維持するに足る臨時政府が必要である旨の通牒が達したので、代理公使等はアゴスチノに會うて、辭職すべき旨を通じた。アゴスチノは固より此の忠告を拒絶するわけには行かなんだが、アゴスチノをして元老院に臨時政府を指名すべき旨を達せしめたのは代理公使等の失策であつた。

是に於て元老院は執政委員五名を任命した。いかにも其の中にはコレッテスを含んでたが、立憲派は勿論甚しい少數であつた。されば此のヘルラスの代表者は順序として此の任命を卻け、協議を疑らさむがためにナウブリアに入城した。ナウブリア市民は熱狂してコレッテスの入城を迎へ、宛も戰勝將軍の凱旋に對するが如き歡迎振を現した。

さればアゴスチノは其の兄の遺骸を携へ、其の親戚故舊を率いて脱走し、ロシア船に乗つてコルフに奔り、ウイアロと共にイギリスの保護權に對し、反對黨を組織した。

面倒な曲折を経て協議は竟に成立つた。執政員の數は七名に増され、其の二名はカポヂストリア派に與へられ、其の次席に列する七名の國務大臣は全部立憲派



から取つた。然るに又しても不注意であつたのは定足数を大きくしたため、執政員の多数が行動の自由を妨げらるゝことであつて、結局はアゴスチノが辭職したのにも拘らず、カポヂストリア派は相變らず跋扈した。

國君の入國の前に一般の大赦を行ひ、國君推薦の承認を経なければならぬので、國民議會を召集する必要があつた。此の議會はクレテの代表者をも包含して二百二十四名より成つてたが、アルゴス議會の繼續として認められた。此の時の議會は一八三二年七月二十六日にプロノイアに開かれたが、議場は木造の假小屋で、代表者等は羽目板の隙に長い煙管を差込んで、勝手に煙草をすつたさうである。

### 三十三 國君入國前の無政府状態

議會は提出せられた大赦案を可決し、オトー親王を全會一致で承認したが、併し元老院を廢したので代理公使等を憤らせた。イギリスの代理公使はドーキンスであつたが、ナウブリアから一里ばかり隔たつたアレイア村へ騎馬で出掛けると、恰も此の村にコレツテス部下の兵が舍營してて、代理公使の來たのを見かけてバラバラと駆けつけ、給料の支拂がないので困ると云つて、救済と援助とを大聲で願つ

た。ドーキンスは之に答へて、其の鞭を揚げて、議會にあてられた小屋を指し、彼處に物なれたる經理課長がゐると云つた。兵等は之を聽いて、直ちに議會に亂入し、議長を其の席から引摺り下して、最も富める議員七名を捕虜とし、アレイア村に連れて行つて、未拂の給料を支拂はせた。さればナウブリアには議員六十二名だけ居残つたが、九月一日抗議書を提出して、國君の入國まで停會した。

此の暴舉は代議政體の時宜に適せぬことを明かに示したもので、これより十一年の間議會の召集はなかつた。されば此の年九月にはギリシア全國に政務を掌る何等の官憲も存せず、議會は散じ、元老院は廢せられ、執政員七名の中デメトリオス・ヒプシランテスは死に、其の同僚二人はオトー親王を迎ふるためにミュンヘンに赴き更に一名は怒つて本國ヒドラ島に退き、三名は居残つたが法定數には足らなかつた。併し國君は懸て入國ある筈なので政務は執らねばならぬから、元老院は國民議會の決議を無効とし、三名を以て全權執政官として承認した。裁判所は總て當分廢せられ、フランス兵の一隊をナウブリア城内に召寄せて秩序を維持した。元老院は素とカポヂストリアの設定したものである。此の時に至つても傳



統のロシア最負であつた。議會の一部ではフランス最負のコレツテスの代りに、ロシア最負の人が國君入國の際に政府を主宰することが必要であると主張してこれらの人々は政府の印刷機を携へてアストロスに奔り、次いでスペツァイに遁れ、ロシアの海軍少將リコルドにギリシアの大統領職を授けた。

しかしリコルドはボロス軍港でギリシア艦隊を焼棄した責任者であるとの理由で國民の非難を受けたので、折角大統領に推薦せられたのを餘儀なく辭退することゝなつた。議員等は更に七名の新政務委員を軍人中から指名した。

さればナウプリア及びカラムタに於てはフランス兵が憲法及び三名の執政官の政權を扶持したが、他の地方に於ては官憲の命令は行はれず、自治體自ら進んで秩序の維持を圖つた。

當時憲法なる名稱はモレア農民の間に悉く異様に響いた。豚飼は旅人に向つて「憲法が豚を食ひました」と話したり、母親は其のむづかる子供に「いふことを聴かぬと憲法が來て連れて行くぞ」と威したといふことである。

### 三十四 フランス軍の干渉

#### フランス軍の干渉

國君入國の前に今一つ困つた事件があつた。それは御入國の日取が迫ると、元老院も軍人派の首領等も、皆天飛車で國君を迎へようとした。そこで軍人派の二首領はナウプリアの附近に於て、其の威力を示さむがためにアルゴスを占領するに決したが、三名の執政官は之に對してフランス軍にアルゴスを占領するやう頼んだので、フランス部隊はナウプリア及びメッセニアから集中せられた。ところが反對黨はかねてフランス軍を憎んでたので、之を機會としてモレア半島からフランス軍を撃退する謀計を廻らした。

一八三三年一月十六日、ギリシア人は不意にフランス兵を襲うたが、フランス部隊は先づ市街を掃ひ、次いで銃鎗を以て襲撃者を家屋から逐出した。逐はれたものは皆ラリサの要塞に遁込んだが、フランス兵がやがて到つて之を狩出した。此の舉に於て首領の一人クリエヅテスは縛に就き、部下の兵は多く斃れ、二名の捕虜は斃を示すために銃殺せられた。執政官はフランス部隊の盡力を感謝し、軍人派の首領等はいたく敗北を苦慮した。

### 三十五 國民運動の促進



アルゴス市街戦の後十六日、オトー親王はイギリス軍艦に乗つて、ナウブリアに着せられたので、動搖は始めて鎮まつた。

ギリシア本國は斯の如き始末で、永年の間苦んでたが、イオニア列島はイギリス保護權の下に泰平を樂み、大に物質上に進歩した。列島中ケファロニア、イタカ、ザンテの三島はコリントス葡萄酒の産地として聞えてるが、モレアのコリントス葡萄酒がエジプト軍のために伐荒されたので、俄に輸出が殖え、戦時中はコリントス葡萄酒輸出の專賣權を握つた姿であつた。一八二九年のことケファロニア島民がイギリス皇に奉つた上表には九年間にコリントス葡萄酒の收穫が倍額に上つた旨を述べ、「手前等の山多き巖島は恰も一筆の廣大なる葡萄酒となつたわけであります」と申上げた。イオニア列島の主要産物は此のコリントス葡萄酒であつて、當時の價額で十四萬ポンドに上つたさうである。

斯の如く島の富が進み、イギリス政府が置いた専門學校でギリシア文學の古典が研究せらるゝに隨つて、文學趣味が起ると共に、自由主義の原理も浸潤し、數年の間にイギリスの保護權を悦ばぬものが漸くに發生して、既に一八一九年にはサン

タ・マウラ島に、一八二〇年から二一年に掛けてはザンテ島に於て、イギリスに對する反抗運動が起つてゐる。

ギリシア獨立國の成立は自然に國民運動を促して、イオニア列島はギリシア統一派の策源地となつた。

#### 第四章 アドリアノブル條約後に於ける

##### バルカン半島の形勢

##### 一 ルマーニアの國民運動

ギリシアが獨立して、トルコ滅亡の序幕は打出しとなつたが、爾餘のバルカン半島のキリスト教國民等は、ギリシアに對し格別の同情を表せなんだ。前述の如く、バルカン半島のキリスト教の國民等は其の宗派の別よりして互に憎むこと甚しく、本來共同の敵たるべきイスラム教徒に對して、一齊にギリシア人に味方して旗を揚げたならば、トルコ帝國は此の時當然滅亡したわけであるが、アルバニア人がローマ舊教徒であるがために、蔭ながら同情を表した外は、寧ろギリシア人を疎ん



じた傾が窺はれる。ルマーニア人は現に反対したし、セルビア人は交友會の運動にたづさはらなんだ。尤も一個人としてはセルブも、ブルガルもヒブシランチスの部下に加はつてたが、キリスト教徒の一般の奮起は見受けられなんだ。

ルマーニアの國民運動

ギリシア獨立戦役の間に最大の利益を収めたものはルマーニア人であつた。即ち一八二二年にギリシア出身の富豪等が總督となつた古い慣例を廢して、自國の出身者を以てこれに代ふる新しき例を開いたのは最先に得たる利益であつた。ルマーニア出身の總督等はトルコ朝廷から訓令を受けて、ギリシア出身の僧侶を放逐し、僧院の資財を沒收し、又ギリシア語の學校を閉鎖した。されば貴族の間にはフランス文化が代つて益々進入し、ルマーニア國語を復舊することが愛國者と言はるゝ人々の目的であつた。そこで國語の學校、國語の劇場、國語の新聞紙を興隆するために協會が起つた。其の發起者はゲオルグ・ラザル及びゲオルグ・アサキの二人であつたが、後にヨアネラズレスクがラザルに代つて事業を繼續した。アサキはイタリヤに遊んで得るところがあつて、始めてルマーニア語の戯曲を出した。ラズレスクはラザルの門人でトランシルワニアに於て教育を受けたの

ルマーニアに於けるフランス語の流行

であつたが、一八二九年に最初のルマーニア語新聞紙を出した。不幸にしてフランス語の流行が貴族の間に盛んであつたため、上流と下流との間に文學趣味の谷ができて、こゝに橋を渡す事が容易でないで、今日と雖もまだでき上つたとは云はれない。當時はフランス語を話し、フランスの風俗を學ばぬと紳士とは云はれなかつたもので、恰も以前はスラボン語とギリシア語とを解することが一般農民から上流者を差別する目標であつたのと同様の姿であつた。

フランス語の學校は社會の要求が盛んであるので、續々開かれるし、貴族連は又パリに遊學するのが一般の習慣となつたので、之がため其の財産を動かさず痛めて、間接にユダヤ人の勢力を擴張することゝなつた。モルダビア地方に於ては殊に左様であつた。

ルマーニアの近世史は斯の如く一八二二年を以て始まるわけであつて、國人を以て總督に任ずることは従前から國民の熱望するところであつたが、不利益を伴はぬでもなかつたのである。ルマーニアの貴族をボヤールといふが、何れも皆大地主で、農業者で、門閥が高いだけに總督の地位に昇らむことを希望したので、對等



の一人が爾餘の者の頭上に坐るのはいかにも不愉快に感じたのである。

ヒブシランチスが兵を擧げた時に、貴族は多くロシア或はアウストリアに移つたが、彼等は此の際本國に於てスツルザがモルダビアの新家乃至微賤の人々を登庸することを懇へたので、ロシア帝は彼等の爲にトルコ政府に説かれた。そこで彼等は本國に歸り、總督に迫つて、一切の租税を免除せらるゝ特權をもぎ取つた。搦て加へてルマーニア人はギリシア出身の専制者の手は離れたが、其の代りに今や既にルマーニアの一部であつたベッサラビアを蠶食し、更に進んで殘餘の二個國を呑まむとする大帝國の蔭に這入つてしまつた。

## 二 ロシアトルコ戰役

ロシア帝ニコライ一世は踐祚の後數箇月しか経たぬのに、兵力をブルート河の線に集めて、ルマーニア居住のトルコ人を撤退せしむべき旨を權柄づくに要求せられたが、イギリスはロシアを怒らせぬやうトルコ帝に忠言を進めた。當時恰もエニチュリは廢せられ、新しい軍制は未だ整はず、ロシアに對抗することは困難であつたので、一八二六年十月七日、トルコ帝マームード二世はアッケルマンに協約を結

マッケルマン協約

んで黒海の航行を自由とし、モルダビア、ウラキアの總督はトルコ朝廷の裁可を経て、國內の門地最も高く又最も賢明なる貴族から七年の任期を以て選擇せらるべく、其の罷免はロシア帝の同意を要し、ルマーニア駐劄のロシア領事は總督の諮詢に應じて意見を提出すべく、又彼等はルマーニアのために行政革新の計畫を樹て、向ふ二年の間歳貢を免除し、其の後は一八〇二年に定めたる定額を支拂ふべきことを聲明した。

ロシアは斯の如く一兵を勞せずしてアッケルマン協約に依り莫大なる利益を收め、事實上にルマーニアを保護國としたが、コライ一世はこれだけで満足せられなうだ。ナワリノ海戦の後、トルコの海軍は全滅し陸軍は未だ成立せなうだ時なので、トルコを討つことを決心し、トルコ帝に於てアッケルマン協約を廢棄せられたのを口實として、當時ロシアはペルシアと戰爭中であつたのを、和議を調へて、改めてトルコに向はれた。

イギリスは此の戰役に加擔せなうだ、ロシア軍は直ちにルマーニアに進入して、六年間之を占領し、ルマーニア總督を罷めて臨時政府を置き、バーレン伯爵を以

ロシア戰役



て其の執政長官に任じた。

一八二八年から翌年に亘るトルコ戦役には、其の初年にニコライ一世が親征されたが、トルコ軍の戦略が圖に中つて、ロシア軍の成績は頗る面白くなかつたので、ニコライ一世は戦闘に倦ませられ、翌年ヂーピチ大將を以て總司令官に任ぜられた。ところがヂーピチは大いに虚勢を張つて大膽不敵の戦略に出たので、成績は俄に改まり、遂に一八二九年九月十四日アドリアノブルに於て和議が成つた。

當時コンスタンチノブルの情勢は頗る危急に迫つて、ロシア軍の前衛はコンスタンチノブルから數里のチオルルに迫り、ロシア艦隊はボスポロス海峡を過ぎてダルダネル海峡を脅し、黒海のミヂア、エーゲ海のアイノスはロシア軍に握られ、トルコの國務大臣等は國家の安危よりも自分等の地位が足下に崩れて、銘々の首さへ何時飛ぶか分らぬ場合であつたので、トルコ帝に切言して和議を御勧めしたわけであるが、マームード二世は此の時血涙を揮つて條約文に署名せられたと言傳へられてゐる。

ニコライ一世はトルコに對して頗る寛大の方針を執られた。いかにもブル

アドリア  
ノブルの  
議和條約

ト河の線を以て國境と定めたが、爾餘の占領地は悉く之をトルコに還し、唯ドナウ河の諸口を取り、黒海、ボスポロス、ダルダネルの航海を自由とし、ロシア商船及びトルコと平和の間柄なる他の列國の商船に通航を許した。アジア方面ではロシアは又アナバ、ボチ、アハルツイクの三地を取り、更にトルコが軍事賠償金の支拂を皆済するまでルマーニア及びビシリストリアの要塞を占領した。

### 三 ロシアのルマーニア保護

ルマーニアは従前通りトルコ帝の宗主權を奉じて其の特權を享有したが、別の條項に依つて總督は終身官で、重罪に觸れざる限り罷免すべからざること、モルダビア、ワラキアの二國に於て臨時會議即ちヂワンを設けて之を輔佐すること、ドナウ河の左岸に於てはトルコの要塞及び居留地をも置かざること、現存するイスラム教徒の財産は向ふ十八箇月以内に賣却すること、又ルマーニアがトルコ政府に穀物、羊肉、材木を供給する義務を解き、金額を以て之を代償すること、總督の死亡又は罷免の場合には一箇年の歳貢に相當する金額を支拂ふこと、と定めた。しかしながらロシアの占領軍が撤退して後二箇年間は之を免除すること、としてある。さ、



ればトルコ帝がルマニアに對して仍ほ有せらるゝ權利は、其の總督の任命と歳貢の收入のみとなつた。

ロシアの  
保護の  
アルマニアの

斯の如くトルコ帝の宗主權は大いに減つたが、ロシアの保護權は大いに増して、ロシアのルマニア占領は其の勢力を擴張する機會を與へた。

ニコライ一世がモルダビア、ワラキアの行政長官に任じられたのはキッセルン伯爵であつたが、職務に頗る盡瘁して、戦時中に起つた黒死病、コレラ、饑饉の災害を救済し、アッゲルマン協約に豫て約束せられた憲法の制定に掛つた。これはワラキア、モルダビアの二國から貴族の代表者各四名を擧げて委員會を組織し、行政長官の監督の下に成立したもので、一八三一年から翌年にかけて發布せられた。

貴族本位の  
ルマニアの  
憲法

此の憲法はルマニアに貴族本位の社會を想定した者で、一切の租税を貴族に免除する特權の承認は著しく其の精神を現してゐる。從來とてもルマニアの農民は其の地主の爲に夫役を勤め、報酬として若干の土地を授けられた者であつたが、此の度は更に夫役の日數を増し、下渡地を減らした。されば公民として農民は一切の重荷を負ひ貴族は一切の名譽を占めた。併しながらロシアは貴族又は總督

が餘りに勢力を固めて跋扈せむことを恐れたので、總督は貴族を、貴族は總督を抑へるやうに、互に相制する方針を執つた。即ち貴族會議は選舉より成り、國君に對して陳情し、總督に對して保護國に訴へる權利を有し、總督は治め難き會議に停會を命じ、新しき會議を召集する許可を得む爲に兩保護國に訴へる權利を握つた。勿論いづれの場合に於ても實際にはロシア帝が制裁を下さるゝわけであらう。憲法既に定まつたので、一八三四年ロシア軍は撤退し、ロシア帝はトルコ帝と協約を遂げられて、此の場合兩朝廷に限り總督を指名せらるゝことゝ定めた。そこで一八二二年から二八年に互つて總督であつたギカの弟アレキサンドル及びミハイル・スツルザがワラキア及モルダビアの總督を拜命した。併しロシアは其の領事に依つてルマニアの内政に干與し、現にロシア及びトルコ兩國の同意なく、じて憲法に變更を加ふべからざることを主張し、ルマニア國語を獎勵する一切の企圖に反對し、遂に一八四二年に至り謀計を廻らして總督ギカを免じた。

#### 四 セルビアの自治

セルビアは戦時中トルコとは平和の間柄で、ロシアの軍隊も入國せななだ。



セルビアの實際の君主はミロシであつたが、トルコ朝廷に於ては一八二〇年を以てセルビア人が最後の決定として承認するならば、一定の歳貢を納れてミロシを世襲君主として承認する意向であつた。然るにセルビア人は之を拒んだので、コンスタンチノブルに派遣せられたセルビア交渉委員は捕縛せられ、五年間監視に付せられた。

アッケルマン協約には、セルビアに關する特別規定が設けられて、從來のトルコは讓歩に更に讓歩を加へてこれを批准したが、此の特別規定にはセルビア國內の自治權、國民の首領を選定する權及びカラチャルヂェの管轄地の中、ミロシを推戴せざるセルビアの六箇地方を合併することが包含されてあつた。

トルコ朝廷はアッケルマンに於て斯の如く約束したのであるが、之を實行する誠意はなく、ロシア、トルコ戦役の終るまでも其の儘に捨て、あつた。此の戦役中にはアウストリアの嫉妬又はトルコの報復を起すことを總司令官デービッチが恐れ、たので、セルビアに内意を傳へて、其の働を僅にボスニア軍とトルコ軍との合同を妨ぐるだけに止めた。

アドリアノブル條約に於てロシアはセルビアのために盡力して、アッケルマン協約の實行、特に六箇處のセルビア地方の引渡に關する契約を少しも猶豫なく施行すべき旨をトルコに強いた。

此の特別契約の施行に關するトルコの勅令は一箇月以内にロシアに通知せらるべきであつたが、トルコの常例で一八三〇年までセルビア自治權の正式の承認を引延べた。

要塞の守備隊の外、トルコ人はセルビア國內に居住することを許されず、トルコ人の不動産は賣却せらるべく、ザイム(騎馬足輕組頭)及びチャリオト(旗下領)よりの収入はトルコ帝の名義で徴收し支拂はれたのであるが、此のたびはトルコ帝に於て所領權の代りに土地を以て賠償せらるゝことゝなつた。

セルビアの歳貢は一定せられ、セルビア人自ら之を徴收することゝし、宗教に關してはコンスタンチノブルからギリシア派の僧正を任命せらるゝ代りに、セルビアに於て國人の間から僧正を選抜し、總管長之を承認することゝなり、セルビアの内治に關してはミロシを以て正式の君主とし、年寄の會議之を輔佐して國權を掌



ることゝ定まつた。

セルビアの世襲君主ミロシの任命

ミロシは其の事業が今や成つたことであるので辭職を申出たが、勿論政策の上から打算してしたこと、誠意のあるわけではないので、會議に於て再選を経て、一八三〇年八月三日トルコ帝から正式に世襲の君主として任命せられた。

此の時に至つてもトルコ朝廷は六箇のセルビア地方をなほ引渡されなかつたので、ミロシは後にトルコがエジプトと難を構へて困難に陥つた時に地方の住民を煽動して騒亂を起さしめ續いて秩序を維持するためと稱へて之を侵したゝめ、遂に一八三三年さしものトルコも據るなく事實を承認して引渡した。これでセルビア領土は三分の一を増し、南はアレクシナツ、西はドリナ河、東はチモク河に至つた。これがベルリン會議の前まで續いてるセルビアの國境であつた。

併しながらセルビアにはトルコ領の要塞が仍ほ處々にある。殊に國都ベルグラードの要塞はぼろ／＼に大破して、殆ど要塞といふべきものではなかつたが、トルコに於ては最後に取つたセルビアの城だけに飽くまでも之を握り通さむと力め、ロシア帝も此の點に就てはトルコ帝に加擔せられたので、此のベルグラードの

所謂る城なるものは要塞なりや否やの點をロシア帝の調停裁判に仰いだところ然りと宣言で、一八三三年要塞以外に居住する一切のイスラム教徒は向ふ五年の間にセルビアを撤退すべきことであつたにも拘らず、ベルグラード城内にトルコ人はなほ居住して、一八三八年に於てトルコ人口は二千七百を算へた。

此の要塞に關することを除いては、セルビアは内治に就いては全然トルコの干渉を受けず、宗教に就いてはギリシア正教派の交渉を受けず、國民の政府、國民の教會は他國の權力に代つて國家に臨んだが、なほ絶對の獨立を得るには至らなんだ。そして又セルビア農民は國體の變化に依つて利するところはなく、依然として地方行政官が旅行するときには食料を供給し、夫役其の他の務めを課せられたので、遂に一揆を起しミロシが政廳を置いたクラグエワツに進んだ。しかし、政府の全權を握つてたウチチが之を打鎮めた。

##### 五 ミロシの専制主義

爾來ミロシは益々専制主義に傾いて、フランス民法をセルビアに施行せしめたにも拘らず、事實上は自己一身の意志が法律であるかの如くに心得たと見えて、或

ミロシの専制主義



は勝手に代償を定めて田野家屋を買取り、又ベルグラードの場末の一部を焼拂うて、其の跡に新しい建築を起し、枯草を積んで置いたためにベルグラードの商店に立退を命じ、尙又入會牧場をかこはせて豚飼の專業を計つた。尤も其の換りに地方大地主等に舊來所有の領地を持つことを禁じて、農民を封建風の壓制から救助したのは大いに宜しかつたが、其のために多くの友人を怒らせた。

一八三五年には此の不平の面々が陰謀を企て、クラグエワツを占領したので、ミロシは年寄會議を召集して、憲法制定を契約せねばならぬことゝなつた。これはセルビアに於て立憲政體を起す最先の計畫で、此の憲法は其の會議の催された場所に依つてスレテニ憲法といふが、カラヂオルヂエの時に始まつた有力者の委員會たる國務會議から擧げられた六名の内閣員を置いた。そして君主は國務會議を三回通過した法案は之を裁可せねばならぬこととし、國務會議は立法行政の權を君主と共有し、總ての現任及び前國務大臣は當然其の議員であつた。

君主と國務大臣の調停者としてはスクプシチナ即ち任期一箇年の議會を設けた。議員は百名で、一般國民の中から之を選擧する。此の議會は古くからあつたの

スレテニ  
憲法

を、此の時に永久の定制としたのであるが、併しながら當分の間議會は實際上に財政の事を掌るのみであつた。

スレテニ憲法は成立すると殆ど直ちに廢せられた。それといふのは、ロシアもアウストリアも隣國であるとか或は重要な利害關係ある國に於て右様の政體が起つては頗る自國が影響を受けるので、抗議を申立てたので、トルコ帝はミロシに内命を下して、憲法を停止せしめられた。そこでミロシは官報を以て、自分はセルビアに於て唯一の支配者である旨を宣言したので、従前よりも一層專制に傾いたと共に、益々不人望となつた。

ミロシは又ワラキアから輸入するところの鹽を專賣にして、此の益金を以てワラキアに土地を買入れた。しかし遂にミロシの兄弟エフレムが反對黨に加擔するに至つて、ウチチと共にセルビアを立去らねばならぬことゝなつた。

## 六 セルビアの紛擾

此の時に方つてミロシは意外の方面から聲援を得た。それはイギリス總理バスマストン卿が近東のキリスト教の小さい國々を強固にすることは、トルコに取



つても、イギリスに取つても真正の政策に適ふものであることを看破したことで、これは斯ういふ風にせねばバルカン半島の國民等をロシアに對する出城とすることができぬからである。

されば一八三七年のこと、ホッヂス大佐は最先に赴任したイギリス領事としてセルビアに到着したが、内訓に基いてミロシの専制風で、ロシアに對抗する態度を奨励した。そこで小さなセルビア朝廷は西エウロパ諸國とロシア帝との間の外交戦の舞臺となつた。

しかしトルコ帝は一八三三年にフンキアル・スケレシの條約を締結して、全くロシアの勢力に屈服してたので、イギリスの外交政策がいかんにかに理解しても、トルコ帝をして廣大なる保護者の意向に對し、セルビア國君の權力を扶殖せしむることはできなんだ。

そこで一八三八年十二月の勅令に依り、任期終身の十七名より成る元老院を設置して、ミロシの權力を制限し、國務大臣は四名で元老院より選拔し、國君と元老院との間に起る一切の爭論をトルコ帝に訴へることゝ定められた。併しながらミ

セルビアの紛擾

ミロシの相續

ロシは其の權力を斯かる制限に依つて壓へらるゝことに同意する人ではなかつたので、弟イワンを以て今後は一名の代りに十七名の主人ができるぞと農民を煽動させたが、元老院はウチチをして此の農民一揆を取り鎮めさせたので、勝ち誇つたウチチはベルグラードに歸つて、ミロシの宮殿に闖入し、面と向つて、國民は最早殿下の存在を必要とせずと言上した。

一八三九年六月十三日、ミロシは遂に病身の長子ミラン・オブレノウイチに君位を讓つて、國外に立去つた。しかし續いて七月九日、此の人が未だセルビア國君に登つたことを知らぬ中にミランは薨じたので、ウチチ、エフレム・オブレノウイチ、ペトロ・ニエウイチの三名は政務を執つた。

#### 七 ミロシの末子ミハイルの相續

そこで元老院はミロシの末子ミハイルを繼嗣として立てられたい旨を決し、トルコ帝は之に同意を表せられたが、就職の勅書には君位の世襲たることに付て何等の文言も見えなんだ。ミハイルは當時なほ幼年であつたので攝政が置かれ、一八四〇年三月五日丁年に達せらるゝまで政務を執つた。而して此の時に至つても



なほ顧問官として前に攝政であつたウチチ、ペトロニエウイチの二名を附け添へられた。此の事は國內の官吏を選擧するセルブの既得權を無視するわけであるので、一般の反抗を起し、農民等は數名の政治よりも一名の政治を可なりとして、顧問官二名の彈劾、ミロシの再選及び政廳をクラグエワツに復舊する要求を主張した。クラグエワツは内地に在るし、ベルグラードはアウストリア境のトルコの要塞であるので、斯の如き要求をしたのである。

ところがミハイルは政廳の前所在地に歸ることに同意したので、顧問官等はベルグラードのトルコ司令官の下に隠れてゐて、後にトルコに奔つた。

しかしセルビア農民は専ら舊慣に泥んで、政務の革新を歡ばなんだ。ミハイルの司法兼文部大臣はアウストリア國籍のセルブであつて、東洋風の農業社會を西エウロパ流の文化國に引直さうと努めたものであつたが、古風の人民は常に人別、調べを以て新税の機關と心得るし、僧侶の社會に於ける地位の向上は村人の懷ろにさし響くし、學校の教育は無學文盲の人々に利益を感ぜしめなんだ。トルコ側では又國民風の戯曲を面白がらなんだ。殊に愛國心に満ちてる狂言作者等はコ

ミハイル  
の不評判

ソボの野にトルコ帝ムラド一世を討取つたセルビアの勇士を主題として書いたからである。

ミハイルの斯の如き政策は無論國費を嵩まらせた、そして、殊に最も不人望であつたのは、一八三四年に一切の租税を一束ねにして國税を増加したことである。其の上にも又年若のミハイルは宮中に於ても敵を有つてられたといふのは、母君は其の父の復辟を望まれるし、叔父のイワンは不平を鳴らしてた事である。又從來トルコに脱走してた追放人を此の新國君は召還されたので、反對黨は勢を得て、茲に所謂立憲黨を組織し、一八四二年八月、ウチチは種々の原因から不平を漏らす面々を驅り集めてこれが首領となり、國務大臣の免職、租税の輕減を政府に要求した。ミハイルはベルグラードに歸られたのが元來失策であつたが、謀叛の輩を征伐せがむため進軍中の軍隊が離反してベルグラード要塞のトルコ司令官が其の尻押をしたので遂に、八月二十九日、國境を越えてアウストリアに出奔した。

#### ハ アレキサンドルカラチオルエウイチの推戴

そこでウチチは再びベルグラードに凱旋し、國民の首領と自ら號して、臨時政府



を組織し、國民議會を召集して、國君の選定に掛つた。一八四二年九月十四日、此の議會に於てはアレキサンドル・カラヂオルヂエウイチを推薦した。

アレキサンドルは當年三十六歳、カラヂオルヂエウイチの末子で、當時生残つてゐる唯一の子であつた。ミロシからの下賜金を受け、ミハイルの侍従であつたが、門地といひ、經歷といひ、國民の尊敬するところであつた。

トルコ朝廷は此の選舉を裁可し、ウチチを内務大臣に任じて、玉座の背後に全權を揮はせた。

トルコ帝の處置は斯くの通りであつたが、事實上にセルビアの保護者を以て自ら任じてゐられたロシア帝は、此の國君の代替りを不法にして革命主義であるとして抗議を申立てられ、國君アレキサンドルの廢位、新選舉、議會に於て立會うたトルコ委員の免職、ウチチ及ペトロコエウイチの處罰を請求された。併しながらイギリス外務大臣エバヂーン卿はアレキサンドルの在位を主張して、結局談判調ひ、ロシア帝に於てアレキサンドルが再選せられた場合には反對せられぬといふ條件附で、選舉を無効とする事に決まり、一八四三年六月十五日、アレキサンドルは再び

アレキサン  
ドル・カラ  
ヂエウイチ  
の推薦

推薦せられた。併しロシア帝はウチチ及びペトロコエウイチの二名を追放するまでは異議を撤回せられななんだ。

### 九 ボスニアの騷擾

此の間セルビアの隣國ボスニアはセルビア本國に於けるよりも面倒であつた。トルコ帝マームード二世はボスニア地方に行政の刷新を行はれたが、地方の舊慣に依つて權利を握つてゐる貴族から斷然たる反抗を受けた。赴任したトルコ知事はボスニアの各階級、各宗派の人民を平等の權利によつて取扱はうとしたが、彼のエニチュリ團の廢滅の時にも、又これに續く軍事上の刷新を施した折にも、公然謀叛が起つた。

サラエボはエニチュリ團の中心駐在地であつたが、トルコ兵の軍服が改正せられて、アウストリア式に倣ふことになつたのを聞いて、果して然らば新軍服をアウストリア帝若くはロシア帝より頂戴すべしなど、怒鳴つた。

ツボルニク知事のアリは此の時首領となつて、政府が任命した知事を追出したので、次いで赴任した知事は、政府の威嚴を維持するために最も猛烈なる策を取ら



ねばならぬ次第であつた。

ロシア、トルコの役が終つて、トルコ帝が軍事上の刷新を續ける餘裕を得た時に、ボスニア豪族等は此の刷新は彼等の階級が享有する特權及び彼等の信仰の自由を侵害するものであるとして、グラヂスカの組頭フツサインアガを首領として旗を揚げた。新しく赴任したボスニア知事は先づサラエボを占領し、政廳を此處に置いて討伐の策を執つたが、フツサインアガはアウストリア領に逃れ、アウストリア帝に於ては之を優待されたので、ボスニアにある其の餘黨は暴動を止めず常にアウストリア境の地方を荒した。それでアウストリア政府は、三回までもトルコ帝の叛臣共を討伐する義務をとらねばならぬ始末であつたので、フツサインアガに警察監視の下に居住するか、或はトルコに退却すべきことを宣した。アガはトルコに退くことに決めて出發したが、トラベズントに至る途中で死んだ。

しかしボスニアの騒動はなか／＼こんな事では熄まなかつた。一八四九年に、新しく立たれたトルコ帝アブズルメヂドはボスニアの封建風の舊慣を全然廢止することに決心せられて、クロアチア出身のオマール大將をボスニアに派遣し、勅

旨の斷行を委任せられた。

#### 十 トルコのヘルツェゴビナ征服

ボスニアの南に連なつてヘルツェゴビナといふ國がある。此處は元クロアチアの一部分であつたが、一三二六年ボスニアに併合せられ、ボスニアがトルコに滅ぼされたときに、時のドイツ帝フリードリヒ三世は此處にサントサベと稱ふる公爵國を置かれた。ドイツ語で公爵國をヘルツォグツームといふので、此のドイツ語から訛つて後にはヘルツェゴビナといふたのである。こゝは元來アウストリア領であつたが、一六九九年カルロウィツ條約に依つてトルコに割讓せられたのである。

當時此の國に總督となつてたのはアリリズワンベゴウィチといふ人であつた。一八三一年のボスニア騒動を討鎮めたので其の功に依つて總督職を拜命したわけだ。此の國の政廳所在地モスタール附近のブナには壯麗なる別莊、ストラツには其の館を構へ、恰も獨立國君であるかの如き暮し方をした。總督は此の國を、あの國と呼び、人民は第二のステワン公と呼んでた。頗る民政に熱心で、モスタールを流るゝ河をナレンタといふが、此の河筋には沼が多くあるので、此の沼に稻を作

服ゴヘト  
ビルル  
ナツエの  
征



も、山國で、傾斜地が多いので、其の所々にオレーフ及び葡萄を栽る、養蠶を奨励した。又、離叛せむと欲するキリスト教徒に對しては嚴重の處置を執つたが、剛愎なるイスラム教の貴族に對しては同情を表した。

ボスニアの豪族もなか／＼傲慢で、毎々政府を手古摺らせるのであるが、此の國の豪族等は本來がトルコ領でなかつたので、頗るアウストリア風を帯び、ボスニアの豪族以上に治め難く、トルコ帝に於て完全に彼等を服従せしめられたことは會てなかつたのである。

オマール大將は幾干もなくボスニアを平げたが、續いて此の國を取鎮めるためにモスタルに入つた、リズワンベゴウィチ總督は容易ならぬ敵であるので、武力を以て討ち従へようとはせず、謀計を以て擒にする策を樹て、一夜宴を張つて其の來臨を乞うた。總督は少しも疑はず、オマール大將の宴に臨んだところが、オマールに於ては之を捕縛し、モスタルが其の名を得たるモスト即ちナレンダ河の橋上に引出して、驢馬に乗せた。いふまでもなく侮辱したのである。總督はトルコ帝の御前に裁定を仰がむがため差送られむことを哀願したが、大將は斯様に富貴なる敵

ボスニア  
總督の捕

をコンスタンチノブルに送ることを恐れた。そこで、トルコの歴史にはよく見える出來事であるさうであるが、公報のいふところに依ると一夜圖らず實彈を込めた銃が自然に發射して偶然捕虜の頭に中つたとのことである。

總督が既に死んだので、國は鎮まつたわけで、大將は其の方針に依つて貴族等の享有してゐる封建風の特權を廢し、之をコンスタンチノブルから直轄することゝした。又一八五〇年にはボスニアの政廳所在地をトラウニクからサラエボに遷して、總督職を約二十年勤続した。

オマール大將の威勢は極めて旺であつたのであるが、それにしても管轄地のキリスト、イスラム二教徒のいがみ合ひを制することはできなかつた。さればヘルツェゴビナのキリスト教徒が騒亂を起すときには、モンテネグロ人は必ず應援のために出を下つて來た。

### 十一 トルコとモンテネグロ

モンテネグロは相變らずトルコに取つて厄介の掛かる淵源であつた。既にベートル一世は一八一九年ボスニア知事を敵として戦つて勝を得たし、ロシアトル

トルコと  
モンテネ  
グロ



この戦役の間にはアルバニア方面からトルコ軍が進入を企てたが、之を撃退して、ベペリ部族の居住地をモンテネグロ領に併合した。

一八三〇年、ペートル一世は四十八年に亘る治世の後に薨じてベペリ、クチ、ビエロパウリチ三部族の居住地を併合した。さればモンテネグロ領は此の治世の間に約二倍面積を増したわけであるが、其の外に法典を制定し、暫く中絶してたロシアからの保護金一千ヅカト(ヅカトは約四圓六十錢)を復せられ、モンテネグロと其の隣國たるアウストリアとの國境を定めた。

ペートル一世は斯の如く國家に大功を立てた君であつたが、其の在世中に國境を取定めたアウストリアとの交渉は、此の後面倒なる外交事件を屢、惹起した。ウエネチアの盛であつた頃は、沿海地のダルマチアはウエネチア領であつたが、ウエネチアが滅んでフランスが暫く此處を領し、次いでアウストリア領となつたので、此の國境の確定が必要なることゝなつたのであつた。

ペートル一世は國都チエニエの僧院に葬つてあつて、常に參詣者が絶えず、大ウラヂカと稱して尊崇せられてゐるが、次には姪のペートル二世が立たれた。新君

名君  
ト  
ル  
コ  
一  
世

は歌人であり、時代狂言の作者であり、又政治家でもあつて、大いに政務を刷新された、即ち警察隊の編成、印刷所の設置、元老院の制定、何れも皆其の事業である。元老院は議長及び十二名の議員より成り、立法司法の職權を有し、歳費を受けた。又モンテネグロをナヒエといふ八郡に割いて、其の四郡を特にブルダ即ち山と呼ばれた、一八四六年に於いて此の八郡の人口は十二萬と云はれた。

ペートル二世は又一五一六年以來行はれた重複せる政體を廢された。それは國主にして僧正たる君は必ず民政知事を任命せられたが、元は國都のあるカツンスカ郡の最も高い門閥家から擧げられ、後には常にラドニチ家から出した。ところがペートル二世と民政知事との間に爭論が起つて、一八三二年にペートルは民政知事を廢し、最後の知事であつたウコラドニチを追放された。

トルコ帝に於ては何とかしてモンテネグロを懷柔せむと力められ、スクタリ市、アドリア海沿岸地及びヘルツェゴビナの一部を世襲に割讓することを條件として、宗主權を承認せぬかとの旨を新國主に説かれたが、ペートル二世に於てはセルビアのミロシと同様の位地に親ら届することを耻ぢて承認せられなうだ。

トルコ  
モンテネ  
グロの  
征伐



そこでトルコ帝は一八三二年を以てモンテネグロ征伐に掛つたが敗北した。一八三五年にはモンテネグロ人の一團は此の國の舊都ヤブリャクを占領したが、永遠の利害を考へて之をトルコ帝に還付した。ところが續いて一八四〇年、又々トルコ領のボドゴリツァ及びスプイを占領する計畫を立てたので、再びトルコ軍の發向を受けた。尙又ヘルツェゴビナ國境のグラホボ郡の所屬が不明であつたので、トルコとの争論が絶えなんだ。然るに一八三八年にはトルコと協調が成つて、グラホボを中立地帯と定め、世襲の代官職を置き、モンテネグロ國君と、ボスニア、ヘルツェゴビナ二國の知事とに於て其の職を承認することゝなつた。又一八四三年にはスクタリ湖のレッサンドリア、ウラニナ二島を漁業に干渉してトルコが占領したので、モンテネグロの附近地方は頗る損害を受けた。

トルコとは暫く平和が続いたが、アウストリア領なるダルマチアの南端ブヅァからスピツァに至る沿海地は恰もモンテネグロの山麓に當るので、此處に居住するバストロウチ家は其の所有地をモンテネグロ人に賣つた。モンテネグロは海岸線から斷切られて、常に出口を求めてるわけであつたので海岸線の土地を賣るも

のがあればいふまでもなく喜んで買入れるのである。ところがアウストリアにとつては其の領土たる沿海地をモンテネグロ人が所有しては何分とも危険を感ぜざるを得ぬので、買手から之を買ひ戻すことに決し、其の代價に付て頗るもめた後、四十萬ポンドを以て買ひ上げたのである。しかしモンテネグロにとつては勿論此の金額どころの値打ではなかつたのであつた。

なほモンテネグロにとつてそれよりも一層困つたのは、ベペリ、ツルニチカの二郡が一八四七年モンテネグロから分離しようとした事である。此の年此の方面は饑饉に悩んで、トルコ領に於ては十分なる救助の手當があつたが、モンテネグロに於ては何分行届きかねたので、怒つて離叛したのである。しかしモンテネグロは此の離叛を打ち鎮めて、其の首領を死刑に處した。

## 第五章 トルコ領アジアの形勢

### 一 アンゴラ地方

トルコの本部がアジアに在ることは初めに述べた通りであるが、アジアといふ



名はもと小アジアから起つたもので、此の世界第一の大陸の南邊にはアラビア、インド、前インドの三大半島、西邊には小アジア半島がある。小アジアは固より三半島の如き大きな面積のものではないが、西に突出したる相應の半島で、其の内地には一圓の高臺、數々の山脈が連なり、西はぎざぎざにちぎれた海岸線を成してエーゲ海に臨み、恰も我が北海道十州の地の如く、海岸から坂を登つて此處に達する。

トルコが起つた根據地は、黒海に注ぐザカリア川の流域で、牧場の肥沃なのを以て有名な今日のアンゴラ縣の地である。アンゴラ縣は小アジア内地高原の北に在つて其の南東隅に半島第一の高峯アルヂ嶽が聳えてる、何さま牧場が肥え、太つてるので、駿逸なる馬、強健なる騾、羊、山羊の畜産を以て聞え、殊に山羊は精良なる毛を生じ、これから織出した毛織物は特にアンゴラと云つて有名な産物である。

トルコの國祖が最先に移住したのもザカリア川の牧場で、一四〇一年國主バエジドがチムルと戦つて大敗し捕虜となつて後、一四〇三年に病氣で崩じ、其の遺子四人が相續を争うて十年の間空位が続いたのも此のアンゴラに於てのことであつた。

此のアンゴラ縣の首府をアンゴラといふが、今はトルコの國民政府が此處に都を置いてゐる。人口三萬程の田舎町で寂しい處ではあるが、縣の所在地は一つの自然區域を成してゐて、四面に山を負ひ、殊に南邊には鹽沼、鹽砂漠があるので、殆ど寄附けない天險である。又アンゴラ町の東四十里許にはボワーズキイ峠村といふ處があつて此處に磚で築いた廣大な神社及び太古の築造と思はるゝ城壁の遺蹟がある、昔から如何なる廢墟であるか不明であつたが、一九〇七年に發掘して、夥しい磚の書類を發見した。之に依つて始めて分つたことであるが、此處は彼の太古の帝國たるヒタ——正しくはハチ——の舊都の跡で、神社らしく思はるゝものは矢張り神社にして又政廳であり、城壁らしく見ゆるものは即ちヘルレーン民族がプテリアと唱へた城の城壁であつた。今を去ること五千年の昔、アカッドのサルゴン王が此處に移民を送り、地方を經營した趣が發見の記録に依つて知られる。尤もヒタ即ちハチ人はアカッド人とは民族が違つたので、土俗も言語も信仰も亦異つてたが、書類はアカッドの楔文字で書いたもので、今のところ文章を完全に讀む程度にまで研究は進んでゐぬにしても、大意だけはかつ／＼分るだけにドイツの學



者等が研究を進めてる。これはアカド文字であるので、發音だけはすぐ分るが、言葉がアカド語でないので意味をとるに困るのである。併しヒタ人がアカド文字を使つたのは此の帝國の前期だけで、後期には一種の畫文字を作つて用ゐてゐた、が畫文字の方は今に他の文字との對譯文を發見せぬので從來の如く依然として讀めない。

## 二 メソポタミア地方

アンゴラ縣に隣る地方はひどい山國であつて、此處がアルメニアである。此のアルメニアの山中からエウフラテス及びチグリスの二大河が出るが、合流して遂にインド洋に注ぐ、此の二大河の間でアルメニアの山麓から南方インド洋にまで連なる平野の地はギリシア人が川中國(メソポタミア)と云つた處で、バビルの舊都はエウフラテスの下流、アッシルの舊都はチグリスの中流に在り、各、バビロニア、アッシリアなる帝國の都として歴史に名を傳へてゐる。此の平野は殊に肥太り一切の穀物、一切の野菜、一切の果實類、總ての農産物で出來ぬ物はないと云はれた程の名代の土地であるが、土地の居住民は今もエウフラテスをフライト、チグリスをデヂ

メソポタミア地方

ラと、古名のまゝを傳へてゐる。しかしメソポタミアと云ふ名はトルコでは行政上の區畫を意味しないで、たゞ地理上の名前として用ゐられてゐる。後世に起つたバルチアの南都クテシンの對岸にはサラセン帝國の都たるバグダードがあつて、いづれもチグリスの中流に位する。

バストラの港はバグダードの港であるが、サラセン帝國が置いたもので、今は直ちにインド洋には接してゐないから、港として用を辨ずるには辨ずるが、古へのやうには便利でないのである。

## 三 シリア地方

メソポタミアの西はシリアの沙漠で、エウフラテスの中流が此の沙漠を貫いて斜めに流れてゐる。地中海に臨む沿海地をシリアと稱する。シリアも亦バビロニアと同様に古く開けた國で曾てはヒタ帝國に隸屬し、カルヘミシは其の南都である。其の北西及び北はアクマ、山脈からエウフラテスの上流ビレヂク即ちカルヘミシの北に達し、東はエウフラテス、南東から南へかけてアラビアの沙漠、西は地中海である。而してアクマ、タウルス二山脈の間の沿海地はアダナで、小アジアの咽

シリア地方



喉を成してゐる。

斯の如く内地は一圓沙漠であるので海岸から内地へ進むに随つて土地はだんだん荒れ、遂には山々は裸の岩山となつてしまふ。海岸線に沿うては山脈が北から南へと幾重も連なつてゐる。海岸線に最も近い山脈は十里乃至十二里隔つてゐて、最も北のをヂェベル・アンサリエと稱へる。其の西側即ち地中海に向つてゐる傾斜面はオレーフとブダウ畑で掩はれてゐるが、其の東の傾斜面は殆ど裸岩の塊りに過ぎない。此の山の南には有名なりバノンの山脈がある、此の山脈は二つの派から成り、其の西にあるのは本來のりバノン山で、東の派はアンチ・りバノンと稱し、其の最も高い峰をシェイク・エル・ヂェベルと呼んで二〇七〇メートルに達する。此の二派の間に二十八里乃至三十二里の長さで、十四里乃至十六里の幅のある谷間の地方がある、此處を古へはコエレシリアと云つた。

りバノン山は古へ其の材木を以て鳴つてたが、これはモミに似たものでフェニキア人が専ら造船用に用ゐた。今日は殆どこれがなくなつて、モミ、ミヅナラ、クハイチヂク、ブダウの繁殖するのを見受ける。

シリアの自然的區劃  
一、東の平野地方  
二、りバノンの山地  
三、沿海平原の地方

山脈が斯の通り南北に走つてゐるので、シリアを自然に三分することゝなる。第一は東の平野地方で、此處は雨量が少く、夏の暑氣が酷しいため、良國とは云へない、此處にはオロンテス川の谷間とダマスク(又デマシキ)の平野を形つてゐる。第二はりバノンの山地方である、此處は山中なので、氣候は相當に寒く、冬中雪が降つてゐて、高い峰のは年中融けない。第三は沿海の平原地である、こゝは地中海から西風が吹きよせるので、山々の雪は早く融け、夏の暑さは相應に酷しいが、土地は驚くほど豊饒である、併しながら處に依つては不健康地もあるさうである。斯様に狭い國でありながら氣候の變化が多いので、各種の植物が繁茂し、暖帯のものも熱帯のものも共に産出さるゝ、ミカン、オレーフ、イチヂク、サタウキビ、薑陸、其の他暖帯に在る總ての果實はこゝに産するといつて可い。

コエレシリア地方に於ては穀物としてはタウモロコシ山の傾斜面にはブダウ、クハ、頂上にはイトスギ、ミヅナラ、クハイチヂクがある。ダマスクの地方にはエウロバに産する總ての果物、パレスチナに於ては總ての穀物、タバコ、アマ、アカネを作り出す。家畜の種類としては駿逸なる馬、強健なる驢、優秀なる駱駝等を飼養し



てる。

トルコがシリアを占領したのは一五一六年でもと五縣に割いてあつた、即ちハレブ、トリポリ、サイダ、バレスチナ、ダマスクであつたが、縣はたび／＼變更するので、最近にはハレブ、シリア、ヂェル・イリバン(リバン山地)エル・キュヅ(エルサレム)の四縣が置いてあつた。

レバント  
の商業地

シリアの沿海地は古へのフェニキアで、昔からレバントの商業地といはれ、イタリアの商船が最先に商業に來た爲に名前は聞えてるが、今日なほ太古のフェニキア商業國の蹟が依然として残つてゐるのがある。此の沿海地の商港の中、トリポリ(古トリス)が最も繁昌な港で、現に三萬の人口がある。其の外北から云つてアレキサンドレテ、ラタキエ(古ラオヂケア)ベイルート(古ベルツス)、アッカ、ヂアファなどがそれで、アレキサンドレテは内地のハレブ(又アレppo)を経てペルシア方面へ通ずる。南のアッカ、ヂアファはダマスクへの入口で、メソポタミアへの孔道に當つてゐる。

シリアの南には紅海の東岸に沿うてヘヂズ、エメンの地方があつて、沙漠と岩山の間には挟まる水のない暑い仕方のない處のやうであるが、メッカとメヂナにはイス

トルコ領  
アシア

ラム教の聖蹟があり、モカの有名なるコーヒー産地があるので世界に聞えてゐる。

#### 四 トルコ領アシア

トルコ領アシアは如上の國々から成つてゐるが、首部は勿論小アジアの高原地で、其の南麓に當る國々は寧ろ附屬地と稱して然るべきものである。面積に於てはトルコ領エウロパの十一倍に當り、人口は存外稀薄であつて、二分の一よりも少い、民族は所謂トルコ人と稱するものが最大多数を占めてゐるが、これは例のトルコ語を話し、トルコ服を着、イスラム教を奉じてると云ふだけのもので、民族と稱すべきものではあるまい。これに次いで多いのはクルドである、クルドは云はゞ此の方面の原住民の主力をなすものであつて、イラン系の民族である。次にはアラビア人、ギリシア人である。シリア人の一派でドルーズと云ふものもあるが、僅な數である。

此のドルーズと云ふのはリバン山地の南部に住むシリア人で、イスラム教徒である。彼等に對してリバン山地の北部にはマロン派と呼ばれるキリスト教のシリア人が居る。これは四世紀の終りに出たマロンと云ふ高僧の開いたロー



マ奮教の一派に属する信徒であつて、其の人口は約四十萬あるが、十二世紀以來フランスの保護の下に立つて、六十年以來半獨立の國體を立て、其の長官をアンチオキアの管長と稱し、其の配下の僧正等をハレブ、スル(古ツル)サイダ(古シドン)トリボリ(古トリボリス)ダマスク竝にキプロス等に分置してゐる。

其の外にアルメニアにはアルメニア人が二百萬ほど居るが、彼等は國家を持たぬ民族で、昔から今に至るまでクルドのために虐待されつゝあることは著名な話である。

アルメニア人は元來アラス川の流域に居て、紀元前八世紀にワン湖畔に移つたウラルツの苗裔らしく、要するに太古の時代にカフカズの山地に居住してた原住民で、クルドの如くやはりイラン系のものである。太古以來變動極まりのない境遇にあつて、近世に至つては、ロシア、トルコ、ペルシアの三國に分割せられ、殊にみぢめな事情の下にあるのは世間周知の事實である。

其の他なほ少しづつ他のものもあるが、特に云ふほどのこともない。

さてエジプト總督のメヘット・アリはギリシア獨立の役に勅命に依つて入援し、

アルメニアの要詳

嗣子イブラヒムはモレアの總督職を拜命し、ギリシアに轉戦して頗る功を樹てたので、此の武功に依りトルコ帝はクレテ島をエジプトの管轄に移して賞賜の意を表せられたが、ギリシアは獨立したので、モレアの總督職は當然廢官となつた。然るにイブラヒムをば改めて何處の總督職にも補せられぬので、當人は姑く措いて父のメヘット・アリが、頗る不満で、イブラヒムのためにダマスクの總督職を賜はらむことをトルコ帝に乞うたが、勅許がなかつた。そこで、然らば意地にも取つて見せると意氣込んだ。

### 五 エジプトのシリア占領

當時のトルコ帝マームード二世は政務の刷新に熱心であつただけに、上流社會に於て人望がなかつた。宗教上に於てもベクタシと云ふ一派のデルウィーシ(行者團)をエニチュリ廢止に次いで廢された爲に、イスラム教徒の反抗をかひ、コンスタンチノブルの保守派は國君に對する不満の情を愈々激成した次第であつた。

當時のエジプト軍はフランスの將校に依つて編成せられ、艦隊はフランス造船技師之を造り、醫師はフランスの醫學者之を養成したので、トルコと同輩と段を異



にしてゐた。エジプト總督は又國內での唯一の地主であり、唯一の製造家であり、唯一の商業取引人であつて、唯一の缺點を適當の機會に於て補ふことに熱心であつた。いふことであつたが、彼は此の缺點を適當の機會に於て補ふことに熱心であつた。ところが恰もよしアッカの總督アブズルラがエジプトから脱走した數名のエジプト人をかくまつたのを引渡さるゝやうに請求したのに對して承諾を與へななだので、それを名義として、軍勢をシリアに向けた。

イブラヒムはエジプト軍を率ゐてシリアに入るや、直ちにデッファ及びエルサレムを占領した。そこでトルコ帝はエジプト總督を叛臣と宣せられたが、アッカは引續いて陥り、トルコ軍は敗北し、ダマスクは降参し、イブラヒムがシリア人民に對して發した適當なる慰撫の宣言書は、人民を安堵し歸服せしめた。されば、トルコの將軍等は王命によつてイブラヒムを攻めたが到底之に敵することができず、トルコの總司令官フサインは三戦して三敗し、エジプト軍は進撃の一方で、遂にタウルス山の峠を越え、小アジアにまで討入つた。

斯くてシリアは全部占領済となつたので、和議の代價として其の國を賜はるべ

エジプト  
のシリア  
占領

き旨をトルコ帝に要求した。トルコ帝は已むを得ずイギリスに入援を乞はれ、アルバニアに於ける總司令官レシドは恰も平定の功を奏したところであつたので、改めて之を小アジアへ差向けられた。一八三二年十二月二十一日、レシドは大舉してイブラヒムをコニエに討つたが、これ亦大敗して捕虜となつた。

此の時フランスはトルコの爲を計つて進言したので、トルコ帝はメヘメット・アリと交渉を開かれた。事實上にシリアの領主たるエジプト總督は新にアダナを要求したが、トルコ帝は承引されなかつたので、イブラヒムはトルコ帝國の舊都たるブルースを占領すべく前衛に命令してこれに應へた。

#### 六 ロシアトルコ攻守同盟

當時イギリスはベルギーの獨立行動に關聯して事滋く、他を顧みる違がなかつたし、フランスはエジプトの後楯になつたので、トルコ帝に於ては已むなく先祖代々の仇敵にして、纒に數年以前にコンスタンチノブルへ進撃せられたロシア帝の應援を乞はねばならぬ窮境に陥られた。そこで一八三三年二月ロシア艦隊は堂々とボスポロス海峡に入り、トルコを保護する態度を執つた。



ロシア艦隊がボスポロスに到着したとの情報は、西エウロバを震撼させたことイブラヒムの戦勝どころのことではなかつた。従来とてもトルコに對する外交に於て、キリスト教の諸國はトルコ帝なり、トルコの臣民なりの利害よりも自己の利害を打算するに一段と熱心であつた。ロンドンなりパリに於て、トルコの帝位にオスマン家が座つてゐられようが、或は他の家が代つて座らうが、そんな事には格別頓着もせなんだが、唯ロシア帝がコンスタンチノブルで自身専ら、切廻さるゝことを何よりも恐れをのいたのである。併し此の時に至つてもイギリスやフランスの外交家は、しきりと机に向つて文書を書いてる間に、ロシア軍は猶豫なく其の地位を固めた。

第二のロシア艦隊はボスポロスに着し、ロシアの陸軍は其のアジア側に陣地を布いた。當時ロシア軍は未だシリストラリア城竝にルマーニアを撤退せなんだので、必要な後續部隊を容易に呼寄せることができたのである。

是に於てトルコ帝とエジプト總督とは意見が一致して、總督にはシリアの全部を賜はり、其の嗣子をアダナの收税長に任ぜられた。エジプト總督は斯の如く謀

ロシア  
トルコ  
同盟  
攻守

叛の目的を達したが、ロシア帝はトルコ帝を保護して其の賞を握られた。

一八三三年七月八日、ボスポロスのアジア側に於けるファンキアル・イスケレシに於てロシア・トルコの攻守同盟が締結せられた。ロシアは必要に應じてトルコ帝の爲に軍隊を供給することを約し、なほ秘密箇條として、ロシア側で必要のあるときはトルコ帝は軍隊を供給する代りに、諸國の軍艦に對してダルダネル海峡を閉す事を約せられた。さればロシアは他の列國を除外して己れ獨りトルコの事に干渉するやうに定まつたのであつて、實にマームード二世は唯一筆で自國の獨立權を取消されたのである。此の秘密箇條は固より絶対に秘せられた爲、數箇月の間は外に漏れなんだ。それでイギリスの外務省は右様の秘密箇條の存在を知らぬ旨を公言してたが、後にロンドンの新聞紙に此の事が發表された。イギリス及フランスの勢力はコンスタンチノブルに於て打沈み、ロシアは全勢力を現した。秘密箇條の露顯後、二國からは抗議を申立てたが、ロシア帝は鼻の先であしらはれた。

### 七 エジプトの獨立戰爭

トルコ帝と其の總督との間の平和は永く續かなかんだ。マームード二世は屈辱



エジプトの  
獨立戦争

を忍ばれる方ではなく、メヘメット・アリも亦徒らに其の利益をうちやるものではなかつたが、シリアの人民は其の新領主の政治に幾干もなく不満を唱へ出した。

イブラヒムはシリアに於て總ての民族總ての宗派の者に對し、法律上對等の權利を施行しようと努めたが、これは永年キリスト教徒を眼の下に見下して來た者どもの耐へ忍び得るところでなかつたので、トルコ帝國の何處に於ても此の施政の方針は必然にイスラム教徒の反抗を來たした。又彼はエジプト流の專賣權をシリアに行つたがために、シリアの商業に大打撃を與へた。なほ兵役の義務を人民一般に課したので、リバノンの山人を憤らせた。斯くて既に一八三四年に於てイブラヒムは叛亂を打鎮めねばならぬ始末となつたが、トルコ帝に於ては外交の關係上、叛徒に應援ができなかった。叛亂は益々續いたが、兎に角表面上の平和は一八三九年まで繼續した。

この時には雙方共に前途を急ぐ特殊の事情があつた。マームード二世は近くイギリスと通商條約を締結して、トルコ帝國全部に於て專賣權の設定を禁じられたが、メヘメット・アリ及び其の嗣子はエジプト及びシリアに於て專賣權を設定して

トルコ軍  
の大敗北

其の收入で國家を經營してゐるため、若しもトルコ帝が全帝國に施行せらるゝ筈の通商條約を執行せらるゝとなるとエジプトは自滅せねばならぬわけであるので、メヘメット・アリ父子に於てはエジプト及びシリアをトルコの他の領分から全然獨立する宣言を公示する必要があつた。なほ又後に世界に大名を馳せたドイツのモルトケ元帥が、當時陸軍大尉でトルコの陸軍を新しく編成する任務に就いてたので、此の編成の完了せぬ間に事を擧ぐべき理由もあつたのである。イギリスはエジプト總督に開戦する事を堅く制止したし、マームードに對しても忠言を進めたのであつたが、何さまコンスタンチノブル駐劄のイギリス大使がトルコ最負であつたのと、トルコ帝が大病に罹られて、日頃からの復讐の念が病のために一層燃立つた故とで、遂に事は破れて、一八三九年四月二十一日、トルコ軍はエウフラテス河を涉つて進撃した。しかし六月二十四日、イブラヒムは之をネジブに討つて全滅させた。

この大敗の情報未だ達せぬ中に、七月一日マームード二世は崩じられたので、アブズル・メヂドが新に立つて多分弔合戦の意味であらう、トルコ艦隊をエジプト



征伐に差向けられたが、艦隊司令官は直ちにアレキサンドリアに赴いて、全艦隊を率ゐてメヘメットアリに降参した。

#### 八 四國のトルコ援助

トルコに於てはアブズルメチドが踐祚せられたが、艦隊は本國を出發したばかりで降参する爲にエジプトへ行つたと同様の次第で、今や如何とも策の出やうがないので、メヘメットアリに内談を申込んで、エジプトの世襲イブラヒムにメヘメットアリの存生中シリアの領有を條件とした。ところがイギリス、フランス、アウストリア、ロシア、プロシアの五國から、トルコと其の藩國との争論は今やエウロパの問題となつたから、其の協議を待たずして最後の決断に出ぬやうにと注意を促す聯合通牒を發した、これが所謂東方問題なるものゝ起り始まりである。この事は唯外交上の通牒に現れたばかりでなく、やがて何等かの實行に移るものたることが直ちに明かとなつた。

東方問題  
の起源

イギリスではメヘメットアリをエジプト國內即ちエジプトの轂の内に押込めようとしたが、フランスはかねて深い關係があり、國民も頗るエジプトに望を囑し

てた始末であるので、エジプト總督を見殺しにする勇氣は出ず殊に、當時のフランス總理大臣チエールは、メヘメットアリに後援を與ふことに熱心であつたので、フランスを除いた爾餘の四國は一八四〇年七月十五日所謂七月條約をロンドンに締結して、四國とトルコ帝との間に成つた協約に基いてメヘメットアリを服従せしむることに決定した。條件としてはエジプトの世襲總督職アッカの要塞を含む南シリアの終身知事職を授くる事であつたが、それも向ふ十日以内に條件を容れ、北シリア、アダナ、アラビアの靈場及びクレテ島を撤退することを先決條件として、あつて、十日の期限の終りに於ては南シリア及びアッカの要塞を授くること、十日以上になつたときはエジプトの世襲總督職のみを與へ、他の條件を削除することと定めた。

四國條約  
の成立

この四國條約の成立したことが聞えた時にフランス政府の憤慨は一通りではなかつた、畢竟ロンドン駐劄のフランス大使ギゾーが注意を怠つた結果であるといふので、朝野の非難は猛烈であつた。チエール總理は此の失敗を、外交のワラテルローなり」と叫び、新聞紙は國辱であると怒鳴り、フランス王ルイ・フィリップは人望を



維持せむがために革命の虎を放つ必要があるとさへ遺憾ながら云はれた。志士等はドイツ・イタリアを征伐してナポレオン一世の武功を再び收め、大いに復讐する必要があると唱へ、詩人は戦歌を唄ひ、新聞記者はチャンネル海峡を隔て、互に威嚇の論説を叫び合ふた。

フランス國內に於て斯の如く空騒ぎをしてる間に、イギリス、アウストリアの聯合艦隊はナビアーを總督としてペイルト沖に現れ、リバノンの山人がイブラヒムの政策に依つてその既得權を剝奪せられたのを怒つてゐるのに乗じて、之を唆かし、遂に謀叛させた。そこでペイルトは陥り、アッカの要塞は砲撃を受けて三時間の後に降つた。イブラヒムはエジプトへ向けて退軍し、ナビアーはアレキサンドリアに至つてメヘメット・アリと協約し、メヘメット・アリがシリアを棄て、トルコ艦隊を引渡し、エジプトをトルコ帝國の一縣として認むるならば、その世襲總督職を授くべき旨を約束した。

フランスに於てはチエル内閣が此の間に崩れて、スール元帥が之に代り、ロンドン駐劄大使であつたギゾーを擧げて外務大臣としたので、イギリスは安心した。

ロシアは勿論イギリスに應援する約束であつたから、エウロバの大戦はこれでも未然に防歴できたわけであるが、唯残つた問題はナビアーがメヘメット・アリに約束したところをトルコで承認するや否やの點であつた。が例の通りに煮えきらぬ長談判の後に、一八四一年二月十三日、メヘメット・アリ及び其の子孫にエジプトを授けらるゝことに定まつた。しかしエジプト陸軍は一萬八千人を限りとし、高級將校はトルコ帝に依つて任免せられ、エジプト海軍はトルコ帝の裁可を経て建造せらるべく、エジプト總督は歳貢四十萬トルコポンドを納むべきことを條件として、イブラヒムが占領せるヌビアはメヘメット・アリ一期の間だけこれが管理を命ぜられ、又メヘメット・アリにはその祖先の出身地たるタソス島を賜はつた。

#### 九 ロンドンに於ける海峡條約の成立

是に於て東方問題は落着し、メヘメット・アリはエウロバの外交問題から消え失せ、フランスは列國と協調して、同年七月十三日ロンドンで所謂海峡協約を結んだ、がこの協約でフンキアル・イスケレシ條約を廢棄し、従前の如く平時に於てはボスポロス・ダルダネルの二海峡を一切の外國軍艦に對して閉鎖することゝ決定した、

ロンドンに於ける海峡條約の成立



この海峡を閉鎖することはトルコの古い國是であつて、海峡兩岸の地がトルコ領であることは勿論、又その北なる黒海も、その南のエーゲ海も皆トルコ帝國の庭の池であつたから、諸外國の軍艦にコンスタンチノブルの鼻先を通過させるわけはなく、當り前の國是として誰も議するもののあるべきはずはなかつたので、從來問題とはならなんだのであつたが、彼のフンキアル・イスケレシ條約に依つて、戦時に於てロシアの軍艦に限りこの海峡を自由に通過することを許し、他の外國の軍艦に對しては閉鎖するといふことを列國が甚だ穩ならず考へたので、さてこそ此の決定を見たのである。

この方面の當時に於ける大體の事情を述べると、今や黒海は殆どロシアの庭の池となりかゝつてたし、ロシアとしては黒海が世界に飛出す大手口に當つてゐるし、ロシアの富は南ロシアに専ら存すると云つても可い次第で、輸出品は概ね黒海から地中海へと積出され、地中海を経て爾餘のユーロパの國々と取引せられる關係にあつたし、平時に於ては二海峡はロシアの懸換へのない輸出航路であり、戦時に於ては大手の城門であつたので、ロシアが二海峡に有するところの利害は殆ど死

活問題というて宜しく、この後にはますます重大な問題となるのであつた。殊に當時ロシアに於ては黒海の防備は未だ行届かず、オデッサはロシア第一の商業港であるのに、敵國の侵略からこれを防ぐ設備は何等試みてなく、ロシアの富源を敵國のためにいつ荒されるか分らぬやうな事情であつて、頗る心細かつたのである。そこで二海峡を敵國の軍艦に對して閉鎖するといふことはロシアにとつてはこの上もない必要のことで、若しも二海峡の防備が十分に整うてゐて、列國の聯合艦隊がこれを通過しようとしても到底できない計畫であると云ふくらゐにまでなつてゐれば、黒海の防備などロシアに取つては無用なのである。ところが二海峡はトルコの領土であるし、トルコの自發の力では到底右様な防備はつけられないので、ロシアとしてはこの海峡を閉鎖する義務をトルコに負はしたことゝ信ずるのである。遙の後になつてもロシアは常にこのことを心配して、縱令コンスタンチノブルは手に入らずとも諦めるから、その代りに二海峡だけは確實に領有したいといふのが現に今日もロシアの希望である。これは茲に豫め言うて置く。

#### 十 リバノン山地の統治



東洋問題は右の通り一旦落着いたので、トルコの新帝は内政改革に着手して、先づ一八三九年十一月三日發布のギョル・カーネの實施に取りかゝり、民族或は宗派の關係なく、一切の臣民に對して生命、財産、名譽を保障せられ、租税の負擔を確にし、徵收法を整へ、徵兵の制度を施行された。併しトルコ帝國は本來の法制が粗惡なのではなく、只施行の仕方が濫雜であると云ふわけなので、理論と實行は常に伴はず、ローマの古言に「國家最も腐敗せる時法律は最も複雑なり」とある實證を示した。シリア地方に於てはエジプトの占領の結果、リバノンの山地は無政府状態に陥つた。この地方は一六九七年以來トルコ帝の宗主權の下にシハープ家が領主となつてたが、一八四〇年に最後の藩主たるベシル・シハープが廢せられ、その一族ベシル・エル・カシム・ムルヘルムが知事に任ぜられた。此の時のトルコの目的はリバノンの自治權を滅ぼして普通の郡縣とすることにあつたので、政府に於てはこの新君の柔弱なものと人民の多數を成すマロン派及びズルーズ部族の不折合を利用するつもりであつたが、この山地には六種の宗派があつて、その中のマロン派はローマ舊教の一派であり、古への十字軍時代にフランスのルイ九世から保護權を受

けた由緒があるので、爾來長くフランスの特別保護の下に立つてた。さればフランスの請求に依つて、トルコ帝スレイマン二世は二度までその信仰の自由を彼等のために保障せられ、彼等はローマに於て特別の學林を有し、國內の寺院に於てはフランス領事のために特別席を用意し、臨席せるフランス領事はその國君の保護權の印として披いた經卷の上に拔身の劔を捧げるのが慣例であつた。

マロン派といふのは聖僧マロンを宗祖とするローマ舊教の一派で、十二世紀以來行はれ、その信徒はアラビア語を話す、リバノンの山中に居て、今もシリア語の經文を用ゐてる。ズルーズといふ部族はシリアの原住民であらうと思はれるが、主としてリバノンの山中に居住し、その性質は慍悍で、獨立心に富み、風俗は至つて淳朴で、勤勉なる農民である。イスラム教の一派で、第六世のファチマ派ハリファなるハキムを以て最後の神の權化と立て、十一世紀以來行はれてる宗派である。ズルーズ部族は信仰の教義に於てマロン派と融和する途なく、常に互に嫉視してゐるのであるが、トルコに於て新に据ゑたる藩主に心服せず、一八四一年十月謀叛を起し、トルコの地方官吏と私かに通じてマロン派の村人を殺戮した。そこでトルコ官吏



は騒動を取鎮め、ベシール・エル・カシムを廢し、リバノン山地をトルコの直轄として、オマール・パシヤを知事に任じた。

オマール・パシヤは元來ミハイル・ラッタスといふクロアチア出身のアウストリア人で、初めは手習師匠であり、後には名代の陸軍元帥となつた近代のトルコ史に於て最も著しい人物の一人である。オマールは曾て國境に番兵を勤めてたが、ブルガリアのウイヂンに逃れて、トルコ語を學び、イスラム教に改宗して立身を計つたもので、最初ウイヂン知事フサインの書記を勤むること數年の後、コンスタンチノブルに移り、傳手があつてアブヅル・メヂド帝に書法を教授し、轉じて陸軍に入つて、漸次戦功を積んだのであつた。さればトルコ新帝に於てはオマールを適任と思はれてリバノンの知事に任ぜられたのであつた。

列國はこの明白なる地方の既得權侵害に對して抗議を申立て、フランスは殊にその保護の下に在るマロン派人民に對して舊藩主の家を復興せらるゝやう強請したが、アウストリアが之を見かねて調停を圖つたので、オマールは實際適任の知事であつたけれども免ぜられ、臨時政府がこれに代つてリバノン地方に二重の政

府を立てた。即ち山地を二行政区に割いて、マロン派、ズルーズ派各々のために政廳を置き、人民の中からカイマカームと稱へる政務官を設けたが、シハーブ家を選舉せぬことゝ定めた。これは一人の世襲藩主の代りにトルコ政府の手で自由に任免せらるゝ知事を二名据ゑたことを意味する。さればリバノン地方は事實上の獨立國から單純なる一郡に墮ちぶれた實情であつたが、尙それのみならず、この山地からマロン派の地方を割いてトリポリ縣に編入した。マロン派とズルーズ部族が入れまぜつてゐる村々ではキリスト教のために一名と、イスラム教徒のために一名、即ち都合二名の副知事を置いた。

斯様な行政組織では到底山人を満足せしむることはできず、搗てゝ加へて藩主を廢したがために、農民等は舊藩主と對等の身分に上つたことゝ心得て、従前の如く柔順でなく、民族の相違がある上に宗派もマロン派の外にギリシア正教派及び其の他があり、イスラム教にもズルーズ派の外にイスラム正教派、其の他の數派があつて、人民の信仰が種々雜多であつた。殊に農民がマロン派で、貴族はズルーズ派であつた場合には最も憎しみ合がひどいので、階級の衝突が著しく起つた。



そこで一八四五年の春、ズルーズ人はトルコの守備隊の内意を受けてマロン派の人民とそのフランスの保護者を襲ひ、アベイのフランス僧院に放火して、その長老シール・ド・ロレットを殺したが、同村に住んでるアメリカの宣教師は無難であつた。張本人は法廷に引かれたが、無罪として放免せられ、トルコ外務大臣は事實調査のためにリバノンまで出張したが、一切のエウロバの居住民及び旅人にこの山から立ち去るやう命令を下した。

ベイルト駐在のフランス領事はキリスト教徒を保護するために館員を派遣したが、トルコ官吏に捕縛せられて、監獄に打込まれた。この暴舉は明白に國際公法を犯したものであるので、フランスの激怒を招き、一隻のフランス軍艦はベイルトに臨んで、領事館員を放免せねば砲撃するぞと脅しつけ、コンスタンチノブル駐割のフランス大使はトルコ政府に最後通牒を送つて、フランス臣民をその住宅に歸還せしむべきこと、並にアベイ僧院の掠奪に對する賠償金の支拂ひ、虐殺張本人の處刑の三ヶ條を要求した。そこでトルコ政府は已むを得ずフランスの要求を容れたが、併しながら騒動の後片付はこれからであつた。リバノンの地方行政

は相變らず二重であつたが、キリスト教のために兩地方に於て十名より成る行政會議を置き、會議に於てはキリスト教徒が多數を占むるやうに組織して、彼等が苦情を申立つる便宜だけなりとも確に存するやうに取計らつた。

ズルーズ部族はその権力の傷けられたことを憤つたが、トルコ政府はカイマカームの人物を選ぶのに注意を拂つたので、當分の間リバノン山中は鎮まつた。

## 第六章 トルコ領アジアに於ける鐵道敷設

### 一 インドとトルコ領アジア

アジア・トルコはエウロパとアジアを連絡する楔で、トルコ帝國の領土内に於て恰も地理上の中央に當り、インドを以て帝國の基礎とするイギリスに取つては眼を離すことの出来ぬ位地に在る。何さま國は古いが、サラセン帝國滅亡の後にはトルコ帝國の政治上の邊境となつて、百般の設備が悉く弛廢し、文化程度は著しく荒さび、天然の富源たるメソポタミアは運河堤防の修繕が太古以來全くなげやりになつてるので、盛なる時代の面影は殆ど見る跡も残つてゐない。チグリスの河筋

メソポ  
タミア  
地方  
の荒廢



だけは水流が急であるために幸にも河底が埋まらず、下流は兎も角、中流以上は堤防の必要も殆ど認められぬわけなので、田園の荒蕪もエウラフテス河の流域ほどには至らず、先づ、大體に於てサラセン帝國の舊時の姿を存してゐるものと見て可いのである。この二河の下流シアルアラブは既にサラセン帝國時代の初めから今日の状態になつてゐて、大洋通ひの船舶はシアルアラブの中部邊までより遡らぬため、サラセン帝國はバスラ港を築いたが、今日は當時に比べて埋まつてこそ居れ、なほ港の用をなすのである。しかし當時から見れば今日は大洋通ひの船が大きくなつてゐるし、兩岸の土地は荒れて、當時の姿を多く失つてゐるので、新に然るべき港を築くべき必要が起つてゐるわけで、バスラから下にあるモハマラの港が専ら用をしてゐるのである。

インドはなにさま殆ど大陸といつてもよい大半島で、その根元に當るところは幅最も廣く、又天を摩する屏風の如きヒマラヤの連山が大陸から半島を斷ち切つてゐるので、アジア大陸の内に恰も天然の區域をなし、インドに入る口は殆ど無いに等しいのである。求めて纒にあるのはアフガニスタンを越ゆる峠越であるが、そ

インドの  
追手

の峠越もたゞチトラル、カブール、カンダハルの三線しかなく、いづれも皆非常の天險である。しかし峠越の中ベルシア境のヘラットから登るカンダハル越は他の二線に比べてよほど越え易いから、軍用道路としてはこの峠越が唯一の用ゐるに足るものであらう。これはヘラットからカンダハルに出て、クエタを経てインドの西北シンドに下るもので、インドの追手に當るが、此の追手に對する外堀はベルシア灣とチグリス河とであるので、イギリスに於ては先づ以てベルシア灣とチグリス河の外堀を警戒すること、次いでアフガニスタン南部のカンダハルとバルチスタンの北部のクエタとを防備することの二點に専ら氣をもむのである。さりながらベルシア灣といひ、チグリス河といひ共に外國領土であるので、自分勝手の設備を施すわけにはゆかず、アフガニスタンは小國ながら獨立國ではあるし、ロシアとの關係もあるから必ずしもイギリスが思ふやうに勝手にまろめるわけにも行きかねるのみか、こゝは殊に天險の山國であつて、僅ばかりの兵を行るにも容易なことではなく、動ともすれば平生蔑視してゐるアフガン兵のために撃退されるのである。斯様なわけで、イギリスは敢てアジア・トルコを占領しようとは思はぬのである。



が、インドの防備の上から見れば何とかしてアジア・トルコに手をつけて置かねば安心できぬ次第である。假りにトルコは専らイギリスに依頼して、何事でもイギリスの注文通り快く應じてくれるものとしたところで、イギリスの眼から見れば、恐るべきものはトルコにあらずしてロシアである。ロシアはアジア・トルコの北に大領土を抱へて、機會だにあらば南下しようとする。コンスタンチノブルを取らうとするにもバルカン半島を南下して軍需品に富んでる地方を通れば都合がよいから、屢々此處を下らうとするが、兎角に思ふやうに行かぬのは歴史に明白なることである。それよりも軍需品買入の都合からいへば頗る不便で、又、カフカズの山の中を難儀な行軍をせねばならぬ不利益はあるにしても南ロシアから東へ廻つて、カフカズの山中を通りぬけ、アジア・トルコに南下して、この方面から取りかゝつた方が専ら易いくらゐであらうと考へらるゝ。

## 二 イギリスの鐵道敷設計畫

斯様なわけであるので、爾餘の國々よりもイギリスは最も早くアジア・トルコに鐵道を敷く計畫を樹てたのである。イギリスは固より海軍國で、海面からインド

イギリスの鐵道敷設計畫

ヘチアズ鐵道

を常に保護してゐるのであるが、なさま航路は遠し、随つて時間を取るし、萬一の場合に陸兵をインド方面へ差向けることは容易のことでないで、成るべく近道のトルコ領、ベルシア領を通過してインドへ兵を廻す都合を計りたいのは當然の次第である。さればこそ、平時は商業上の利便に供し、戦時には出兵の設備となるやうに鐵道を敷かうといふことに意を決したのである。これはひとりイギリスのみならず、フランスも同じ途に出たが、つたし、年代は下るがドイツも同じ目的で鐵道を敷設したのである。尤も本來ならばトルコ政府自ら鐵道を敷くのが當然で、普通の考から云ふならば疾くの昔にさうしたらうと思はるゝのであるが、郵便制度さへ布くことのできぬトルコのことであるから、況して鐵道敷設などは思ひも寄らず、第一鐵道を敷くにも金はなし、列車を運轉するにも技師はなし、何から何まで爾餘のヨーロッパの力を藉りねば手がつけられないといふ有様であつた。所が此のトルコにも唯一つヘチアズ鐵道と云ふ鐵道がある、それはアラビアのヘチアズ地方に通ずる鐵道である。元來此の地方にはイスラム教の靈場があつて年々こゝに巡禮する道者は數十萬を算へるし、又靈場には相當な立派な門前町がある、彼の有



名なメッカとメヂナの靈場がそれであるが、何れも皆沙漠の中で、水は殆どなし其の他の物資は尙更以てないので、一切合財のもの悉く皆シリア地方から仰がなければならぬ状態にある。水は深い井戸を掘つて汲み出すのであるが、メッカといひ、メヂナといひ、水の供給が何よりも大切な要務であるので、此の兩靈場の住職は何れも市長を兼ね、給水係長をその主たる職務としてゐる。さればさすがのトルコ政府も此處には鐵道を布いたのであつて、云はば道者運輸を目的とする鐵道である所から、イギリス人は之をヘヂズ道者鐵道と呼んでゐる。

諸外國の資本家は他の線路に眼を着けたのであるが、何れも皆資本は固より、従業員も本國から連れて行き、線路を敷くために先づ以て道路から造つてかゝる始末で、一切の材料は悉く本國から取寄せ、無下の土運びや掘取り工事のやうなことにみに土地の人民を使つた。諸商人と従業員等は必要に應じて線路沿の土地に居住したが、この面々も亦自分で土地の物を買入れても殆ど用をなさぬので、一切の物を本國から取寄せた。それが一方では多少とも土地の人々の爲に他國の製品を紹介することゝもなつたし、又彼等が從來想ひ着かなんだ日用品を使ふ味

を覚えさせました。斯ういふ風にして元は何等外國品に對する需用の無かつた處にも漸次多少の需要が起つて來た、元は鐵道關係者のみが輸入した品物が一般の土地の人々の喜んで用ふる所となつて、商業がますます進むわけ合ひとなつた。併し右の様な次第では鐵道敷設の利益を保障するに足るだけの事はないので、敷設許可を得るときの條件として鐵道會社は豫め必ずトルコ政府に對して營業の經費を支辨した上に資本の利子を支拂ひ、株主に普通の配當ができる程度の収入を目安として保障金を請求した。通常キロメートル保障と云つて、線路一キロメートルに付て年額若干の現金と線路に沿ふ若干の土地とを要求したのである。しかしトルコ政府は自分で架け得ぬ必要なる線路であるので、この二條件をも已むを得ず許可する例で、線路沿の土地は會社のお蔭で開けるし、土地が開ければ地租も取れるので、この地租を保障金に振向け、斯うしてアジア・トルコの鐵道はぼつぼつ運んで行つたのである。

### 三 鐵道建設の時代的區分

アジア・トルコの鐵道建設は一八八八年以前、一八八八年、一九〇三年、一九〇八年



の四期に割くことができる。第一期にはイギリスが専ら計畫を樹てた。イギリスは一八三三年に地中海沿岸のトリポリ或はハイファを出發點としてメソポタミア及びペルシアへ向ふ線路を計畫したが、その目的はインドに達する最近の線路を開くことに在つた。十九世紀の中頃以後には地中海とペルシア灣とを連絡する種々の計畫が試みられたが、それは終點をコウエイト灣に置く計畫であつた。一八五六年にトルコ政府から六分利の保障附で許可を得たが、それでも尙收支の計算が心配された。それは當時既にエジプトのアレキサンドリアとスエズの港との間に道路が開通せられて、貨物の運輸は割合に滑かに運ぶやうになつてたので、この會社と競争しては成績がどうあらうかとの心配であつた。同年又スミルナ—アイデン鐵道の許可を得たが、これは一九三五年に期限が切れる。兎に角第一區間は一八六六年に出來上り、トルコ政府は建設費の六分を保障したが、支拂がない。そこで一八八八年に至つて會社は新契約を結んで、未拂の保障金を削り、今後は保障を廢して許可期限を一九三五年まで延ばし、トルコ政府がこの期限に於て鐵道を買上げることができるとにしたが、協定の買上價格の外に、更に政府が未

だ會社に支拂はない負債の代償として巨額を支拂ふべきことゝ定めた。會社はその後線路を延長して漸次内地に進めたが、トルコ政府から補助を受けないで株主に配當してた。現に大戰の勃發した時にもイギリス會社の手で營業しつゝあつたのである。

一八六三年にはスミルナ—カサバ鐵道が許可せられたが、營業期限は一八九一年までで、一八七二年にはアラシエールに延長した。當時會社は其の鐵道をトルコ政府に貸付けて、その報酬として政府の名義でソマまでの線路を敷き、又運轉することを承諾させた。

一八八三年にはイギリス、フランスのシンヂケイトがメルシナ—アダナ鐵道四十二哩を架けたが、一八八八年にフランス側でイギリスの分を買入れた。この線路には政府の保障はないので、最初は成績が擧がらなんだ。

一八七一年トルコ政府は鐵道の設計及び運轉を自ら行ふことに決定して、先づ以てムダニアからブルサまで鐵道を架け始めた。この線は僅に二十六哩許のものであるのに、一八八〇年に至つても未だ竣工せず、一八九一年に至つて漸く開通



したが、直ぐにフランスの会社に譲渡した。フランス会社は其の翌年營業にかゝつたが、政府の保障はなかつた。これと同時にトルコ政府はコンスタンチノブルの對岸ハイダル・パシヤからイスミッドに至る五十八哩の線を起した。これは至つて敷設し易い線路であつたのであるが、それでも三年が、りて漸くでき上り、運轉しかけるとどうも旨くないかぬので一八八〇年にイギリスの会社に貸付けた。

第二期は一八八八年から一九〇三年に至る期間である。この時からして所謂キロメートル保障が附いた。キロメートル保障といふのは運轉する線路の一キロメートルに付て純益を計算して、それに協定の利子を保障するのである。其の外に、又ドイツの資本家が仲間入をすること、フランス、ドイツの資本が頭を上げて、イギリスの会社が退くことがこの期の特色である。

ハイダル・パシヤ——イスミッド線は一八八八年イギリス会社に於いて権利を返上したので、トルコ政府は賠償金を支拂つて線路をドイツのシンヂケートに賣拂うた。

#### 四 ドイツの鐵道敷設計畫

ドイツの  
鐵道敷設  
計畫

ドイツの資本家が小アジアの鐵道事業に手を出したのはドイツの植民地建設に伴うて起つた事であるが、さりとて必ずしも小アジアの地方にドイツの植民地を開かうとする計畫を立てたわけではなく、他に大資本を下す適當の目的を發見せぬので思ひ立つたこと、思はれる。この鐵道計畫を思ひついたのは當時のドイツ銀行總裁ジーマンスで、一八八八年十月四日にトルコ政府から鐵道の建設及び營業の許可を受けたのである。その許可を受けたのはイスミッドの東アダ・バザールからレフケを経て、大體南の方向にエスキ・シールに至り、其處から東に轉じて、眞直にアンゴラに達する延長四八五キロメートルの線で、期限を九十九年とし、會社の資本は株式四五、〇〇〇、〇〇〇フラン、五分社債八〇、〇〇〇、〇〇〇フランであつて、之を當時の相場に換算すると六五、二八〇、〇〇〇マルクに當る。この事業を行ふために「フランクフルト・アム・マインに於ける小アジア鐵道の建設ドイツ會社」といふ會社を起して、一八八九年に起工し、三年の後にそれができ上つたので、一八九二年十二月三十一日には開業して差支ないことであつた。この鐵道敷設と同時に、會社は六百萬フランを以てハイダル・パシヤ——イスミッド線を買入れたので、ハ



イダル・パン、からアンゴラに至る線が會社の事業線となつたわけである。

斯の通りアンゴラまで線が達したとすると、更に東のかたへこれを繼續したいのは、トルコとしても亦會社としても希望すべきことであつたので、トルコ政府は一八九三年二月六日、南の方カイザリエに延長することを許可した。此の線は長さ四二五キロメートルの豫定であつて、トルコ政府に於ては主として軍事上の目的に依つて敷設しようとしたこと、思はれる。カイザリエの東はクルヂスタンの地方で、土地の居住民たるクルドは古へより慄悍の人民として鳴り、又トルコ軍隊の主力をつくるものであるが、何分人情が穩でなく、常に多少とも騒動してるといふて宜しい有様で、この地方は國都より何等かの方法を以て制御する工夫をせねばならぬ状態にある。トルコ政府が右の如く決したのは此の理由に因るらしいが、さて會社の側から見れば、土地に物産はなし、地方は常に動搖してゐるし、搗て、加へて更に東へ進めばロシア領アルメニアに入るので、ロシアに對して憚るべき必要がある。即ちロシア側から見れば、ロシア政府はかねて、カフカズのチフリスからエリワン、タブリーズ、カズウインを経てベルシアの國都テヘランに達する鐵道を

敷設する豫定であるのに、右の延長線を敷くとすると、このロシアの豫定線に對し先手を打つやうな事になつて、結局、ロシアから抗議の出づる虞があるのである。そこで會社は中途にしてこの線を棄てた。

##### 五 アナトリア・オトマン鐵道會社

トルコ政府はなほ右の會社にエスキ・シェールからアシウン・カラヒサルを経てコニアに達する線をも許可してゐる。コニア線はカイザリエ線の南を通るもので、並行する線と云つてよい。コニアは小アジアの中央にあるが、此處からはベルシア灣に出る線を敷くのに適當である。トルコ政府が此の線を許可した趣意は右の如くであるが、此の線は單にエスキ・シェール支線とも呼ばれた。其の後工事は直ちに運んで、一八九六年七月二十八日に營業を開始した。トルコ政府は之にキロメートル保障をつけて營業を保障したが、純益に對する保障ではなくて、收入保障であつた。即ちハイダル・パン——イスキッド間一〇、七〇〇フラン、イスキッド——アンゴラ間一五、〇〇〇フラン、アンゴラ——カイザリエ間一七、八〇〇フラン、エスキ・シェール——コニア間一三、八〇〇フランの割である。



アナトリア  
オトルマン  
鉄道  
会社

會社はドイツ銀行を親としてコンスタンチノブルに本店を置き、ソシエテ・ジ・シユ・マ・ド・フエル・オトルマン・ダナトリー(アナトリア・オトルマン鐵道會社)と稱し、會社の用語としてフランス語を使用した。これは、フランスの資本が多く入つてゐるし、又、現業員が主にフランス人であつたからである。

ジ・イ・メンスは更にコニア鐵道を延長する計畫であつた。コニアは小アジアの中央にあつて、シリアの境になほ遠く、ペルシア灣に出る中途の驛としてはよろしいが、終點としては何等見込のない處である。尤もペルシア灣に出るのは容易な事ではなく、ロシアの領土たるアルメニアの國境から餘程の隔たりがあるので、この方面からの交渉はないとしても、その代りメソポタミアの北部を通過するがために、イギリスからの抗議が定めし猛烈であらうと思はれるので、これに對して相當の接衝をせねばならず、かたゞ、容易に事が運ばないのである。尤も當時は今日の有名なモスルの石油礦區は未だ殆ど開けてをらず、石油量の見込なども更につかなんだ時代であるが、イギリスはかねて、チグリス河の航行權を一手で持つてゐるし、ペルシア灣に於ても事實上制海權を握つてゐるのに、このイギリスのチグリ

ス河汽船航路に對する競争鐵道線を敷設するわけになるので、よほど事面倒であつた。

#### 六 バグダッド鐵道敷設許可

バグダッド  
鐵道敷設  
許可

かれこれするうちに一九〇一年十月二十三日夜十一時ジ・イ・メンスが死んだので、その計畫はアナトリア鐵道會社のザンデル、ユグナンの兩人が引受けて之を進め、一九〇二年一月二十二日、後に有名となるバグダッド鐵道の設定が許可になつた。期限は九十九年で、既設のハイダル・パシヤ——アンゴラ線、エスキ・シェール——コニア線も同時にこの時から向ふ九十九年の期限となつた。なほ線路改良費用として會社は向ふ三十年間、年額三十五萬フランを、又急行列車運轉のために營業費の増加を來たすので年額三十五萬フランを、都合七十萬フランを申受けることに定まつた。更に又このドイツ、フランスのシンヂケートには線路沿の地方に鑛山を稼行する權、地中海及び黒海へ向け支線を建設する權、バグダッド・バスラ・ペルシア灣終點に築港する權、チグリス及びエウフラテス河の航行權をも付與された。トルコ政府は買上の優先權を取つて置いたが、しかし實際の營業はアナトリア鐵道會社



に委任することに定めてあつた。當時バグダッド鐵道はその支線と共に總延長二五〇〇キロメートルと概算された。

バグダッド鐵道に對してはドイツ政府の頗る強い聲援があつたが、イギリス政府はイギリス資本家の經營に係る線路に對して殆ど保護を加へなかつた。例へばスミルナ——カサバ線がドイツのコンニア線が延長せられるため、その前途を塞がる虞があるので保護を乞うたことがあつたが、イギリス政府に於てはドイツ鐵道の發展は喜ぶところであると答へて保護の求に應ぜなかつた。

トルコ政府はスミルナ——カサバ鐵道會社から巨額の借金をしてゐるために、會社は其の負擔に苦んだし、又線路の營業も思はしくなかつたので、會社に勸めてフランスの資本家ナゲルマッケル系に線路を賣らせた。そこでナゲルマッケル系は會社の債權を満たして新なる特權を得た。トルコはフランスの新會社に期限九十九年の間年額九二四〇〇ポンドを支拂ふこととし、保障としては政府に納むる鐵道益金及びアイヂン縣の農業税をつけたが、但し政府は一九七四年を以て線路を上げる權利を保留した。會社は此の年額補助金を基礎として社債を募集し、この

社債に依つて新線路を築造する資本をつくり、その他の費用のためにも社債券を發行したが、キロメートル保障を其の擔保とした。幾許もなくこの會社はドイツ資本家に買占められ、アナトリア線と合同した。

シリア地方に於てはソシエテ・オトマン・ジュ・シュマン・ド・フェル・ド・ダマスカス・ハマ・エ・プロングマン(ダマスカス)及び延長線オットマン鐵道會社が最も重要な鐵道會社であるが、これはダマスカス以南の鐵道馬車線を地方の一人及び他のトルコの一臣民に付與せられた特權に基くもので、この線路には保障がなく、もと一八八八年地方の一人に特許せられ、四年後に完成したものである。又イギリスの一會社は一八九一年にハイファからダマスカス及びハウランに至る線路を起すと言觸らしたが、ハイファから線路を二十一マイル敷いたきりで金がなくなつて中止した。

一九〇〇年にはトルコ政府がヘヂアス線を直營した。この線は道者鐵道で、世界に於けるイスラム教徒から汎く寄付金を募集して造るつもりで、工事は兵士が之に當り、ドイツの技師等は靈場にゆかりのない所に限り仕事をすることを許された。これが上に聊か述べておいたヘヂアス道者鐵道である。



第三期は一九〇三年から一九〇八年に至る期間で、ドイツのバグダッド鐵道が専ら勢力を振ふ時期である。メルシナ——アダナ線は一九〇六年にバグダッド鐵道會社で之を買入れて、イギリス、フランスの支配人をそのまゝに据置いた。同じ年イギリスにアイデン鐵道を延長することを許し、又黒海のヘラクレア附近に炭礦鐵道を敷設することをフランスに許可した。

第四期は一九〇八年から以後となるが、この期はアジア・トルコの鐵道が全部ドイツ人の手に移るかと思へた時である。一九〇八年にはトルコに革命が起つて、其の革命を起した青年トルコ黨は初め頗る反ドイツ感情をもち、鐵道計畫に對して、いろいろ考慮を廻らし、工部省は鐵道に於て列國の均勢を維持する方針で、公平に恩典を諸國に分配する計畫であつた。又トルコ議會に於てもバグダッド鐵道のキロメートル保障があまりに高いといふので頗るやかましかつたのであるが、ドイツの外交は甚だ巧みで、青年トルコ黨に深くくひ入り、首尾よく談判を遂げたので、既得權を侵害せられずにすんだ。

### 七 ヌパール・パシアのトルコ評

ヌパール・パシアの  
評

十九世紀の後半期に於けるアジア・トルコの情勢については、一八七〇年代に名聲を揚げたエジプトの政治家ヌパール・パシアの意見が當を得るかと思はれる。ヌパール・パシアはアルメニア出身の人で、小アジアの事情については頗る精通の聞えがあつたが、その説に依ると、ボスボロス・ダルダネルの海峽は到底トルコに於て持ちきれぬものでなく、たとひコンスタンチノブルは何とかして持ちこたへ得るとしても、二海峽は事實上にロシアの保護權の下に在るやうなことになる行かう、但しロシアがダルダネル海峽を領有することはイギリスにとつて頗る好ましくないことであるから、争はずにはおくまいが、しかしこの海峽は小アジア方面即ち後方から攻撃する便利があるから、前面のみいかに堅固に防備を盡しても安全とは云はれぬ。ロシアはカフカズ・チルクスを領有する上は、この地方の住民たるチルクス其の他の山人等は夙くからトルコに歸服してたのが近年は益々これに及びき従ふ風潮が見えるのであるから、アルメニアに於て民心を得るのに乗じて、此處に戦ひ、トルコの勢力を遠くに退ける必要がある。この山地はアナトリア・アルメニアの産穀地から離れ、パツームの港と縁を絶たれては立ちゆかず、小アジア



に於けるトルコ陸軍はカフカズの精銳なるロシア軍に對し敵對できようとは考へられぬ。又ロシア軍の行動についてユバール・バシヤの考へるところに依るとロシア軍はカルスから南方ワン湖に沿うて進み、カルス及びエルゼルムの要塞を避けて、直ちにトラベズントを指し、又他の部隊はチグリスの河口へ向けて進むならば、これらの地方は糧食に富んでゐるから、行軍の都合は宜しからうし、カルス・エルゼルムの守備兵をとりこめておきさへすれば、ロシア軍はいかなる行動を執ることも自由である。斯の如くにしてロシア軍は常にペルシア灣とシリアを脅かし得るのであるといふのであつた。

## 第七章 外交上の地中海

### 一 地中海の名稱

地中海の  
名稱

地中海といふのは古來存する地理上の名稱であるが、中世頃からは専らレワンと云ふ名で通つてゐた。レワンとはイタリア語レワンテの訛りで、レワンテは日の出づる處即ち東方の義に當り、コンスタンチノブルからアレキサンドリアに

渡る沿海地の沖を指す言葉であるが、要するにこの地方特にシリアの沖の稱呼で、地中海の東部の名稱に外ならぬのである。此の邊はイタリアの商業町たるアマルフィ・ピサ・ゼノワ、ヴェネチアなどが盛に活動した方面であるので、彼等の稱へた名前が一般に行はれた次第である。ゼノワやヴェネチアが衰へてからは、イギリス、フランス、イスパニア等の商人がだん／＼入り込んで働くが、地中海の商業といへば専らこのレワンテで行はれたもので、同じ地中海でありながら西の方面では更に振はなかつたのである。

フランスはナポレオン一世の時代から地中海を以て自己の庭の池としようとする志があつて、ナポレオン三世もこの遺志を繼いでゐる。勿論世間に向つてこれを明言するやうな馬鹿ではないから、普通にはナポレオン三世にこの望みがあり、これを行つたために大事を起したとの言傳へは世間に弘まつてゐぬが、實際はこれが動機となつてゐるのである。

イギリスも地中海に對して重大の關係をもつてゐるが、これはフランスの如く地中海を以て庭の池としようといふのではなく、インドに通ふ往還の廣小路とし

列強の地  
中海政策



て使ふために大切にしているのである。ジブラルタルの要塞、マルタの鎮守府、いづれも皆この廣小路を扼へるために用意された要害である。

イタリア、オーストリアも地中海に臨んだ國であつて、イタリアはその半島の全部が地中海に臨み、オーストリアは南部の邊疆だけが地中海に臨んでるが、邊疆とは云ひながらトリエスト、フィューメの二港はオーストリアにとつて懸け換へのない重大の商港である。この關係から勿論地中海殊にその東部に對して自由の行動がとりたいこと云ふまでもない。

ロシアは地中海を経ねば國內の貨物を輸出する途がないのであるから、無論地中海を領有したいこと當然であるが、トルコが前面に控へてゐて、黒海の口たるボスポロス海峡さへもトルコ領内であるので、類にもがいて海峡を通らうとしているのは、畢竟するところこれも亦地中海の東部に完全なる商業上の根據がこしらへたいからである。

斯ういふ次第で地中海は列國がいづれも皆しきりに涎を垂らす大切の大池であるが、つまりは腕づくの問題で、誰れがこの大池を抱へきれるかといふことはち

よつと見据ゑのつきかねることである。兎に角イギリスは地中海沿岸に領土を持たないから、インドへの往還の大廣小路として、イギリスの船舶が何等の故障なく、いつでも勝手氣儘に通れさへすればそれで満足するものである。しかしフランスはさうではない、これは地中海に臨んでゐる大切の領土を南北に持つてゐて、此處を根據として地中海全體に號令したのである、殊にシリア方面には古來關係があるので、この關係に基いて一層勢力を擴張しようとするし、又出來得ることならば領土をも築ぎ上げたいであらう。現にナポレオン一世はこの方針でシリア、エジプトを取りにかゝつたのであつたが、しかしフランスが志を得ようとすれば必ずロシアと衝突するので、フランスとしては是非ともロシアを壓へなければその志を成すことができぬのである。

## 二 エルサレム聖場管理權問題

シリア方面にフランスが喙を容れる名義は獨りリバノンの關係のみではなく、まだ外にもある。フランスは一五三五年の條約に依つて、ローマ舊教の僧侶のため、にキリスト教の聖場管轄權を委託さるゝ條約をとつてゐる、この管轄權即ちバ



レスチナ方面に於ける僧侶の保護権は一六七三年に確保せられ、更に一七四〇年の條約に依つて一層擴張された。此の一七四〇年の條約に依つてフランスの教會團はエルサレムのキリスト墳墓の寺を管理する権利を保障せられてゐて、堂宇が破損した時にはフランス大使から申出てトルコ帝の勅許を得て修繕することゝ定まつてゐる。ところが十七世紀の半ば前後からフランスは或はトルコと外交上に反目したり、或は時勢の影響で宗教のことに餘り熱心でなかつたりして、東方に對し注意を怠つたことがある。そこでギリシア正教は茲に機會を得て、フランスが注意を東方に怠るに乘じ、一六三四年以後巧みにトルコに取入つて、屢々勅許を受けて聖場を管理した。

ナポレオン三世は初めは親王大統領であつたが、その時からして既になるべく早く帝位に上る野心があり、そのためにローマ舊教の僧侶を味方につける必要があつたので、ローマに於ても、エルサレムに於ても、舊教僧侶の保護者となつて先頭に進み、トルコに對してはコンスタンチノブル駐劄の大使に命を下して、一七四〇年の條約を勵行せらるべき旨を要求した。トルコ政府はギリシア正教派とラテ

ン派と二派の教會僧侶の間に挟まつて頗る窮したが、取あへず兩派に都合のよいやう一時を糊塗する工夫をして、一八五二年二月九日の通牒でベスレヘムの誕生寺の南北門及び神聖なるかひば桶の窟の鍵は元の如くラテン派に保管せしむべく、又誕生堂にはフランスの徽章で飾つた銀製の星を建立することを許可した、而してロシアに對しては勅令に依つてこの鍵を保管する慣例をギリシア正教派、ラテン派、アルメニア派の三派に許し、ベスレヘム誕生寺の門の現状を變ふべからざる旨を定めてロシアの壓迫を緩めた。

勿論フランスはトルコ政府がギリシア正教の舊慣を承認した事を以て當然のフランスの權利を蹂躪したもとして憤つた。一方ロシア側ではギリシア正教の舊慣承認を公然エルサレムに於て發布せらるべきことを望んだが、フランス側に於ては公布を以て外交上の失敗と認めて之を避けようとした。しかし何れにしてもトルコ政府の裁決をキリスト教諸派の僧侶に通知するためにアフイフ・ベイをパレスチナに遣はした。アフイフはこのトルコ帝とキリスト教徒たる臣民との間に蟠る關係について、興味のない厄介な使命を受けて困つたことであつたが、ゼ



スセマネに會議を開いて使命の書附を朗讀した。之に依るとラテン派はサンタ・マリアの墳墓寺で年に一回法會を營むことを得るが、但し祭壇及びその裝飾は元のまゝに据置くやうにといふことであつたが、ラテン派は満足せず、ギリシア正教派は怒り立つた。ラテン派の申條は「黄金と絹とを以て覆はれたる大理石板の上、脚の離れたる十字架の前」に於て法會を營むこと能はずといふにあつて、之に對するギリシア正教派の申條は、アフィフが朗讀すべき勅命を嘗て讀み聽けられずと云ふにあつた。アフィフはロシアの總領事に迫られて、言を左右に託してせいゝ返答を避け、遂に勅命を朗讀せよとの命令を受けぬと答へた。

斯の如くして結局はギリシア正教派の敗北に歸した上、十二月二十二日に至つて、フランスの銀製の星はラテン派管長の手に依つて誕生堂に立てられ、ベスレヘム誕生寺の大門及び神聖なるかひば桶の鍵は同派の信徒に引渡された。

### 三 ロシアのギリシア正教徒保護權要求

ロシアは無禮を被つた正教派及び損害を受けた獨裁制度の名義を以て賠償を要求し、モルダヴィア國境へ一軍團の兵を差向けたが、この出兵は後にロシア・トルコ

ラテン派  
とギリシア  
正教派  
の衝突

ロシアの  
ギリシア  
正教徒  
保護權  
要求

戦役の序幕となつた。

此の時ロシア帝ニコライ一世はメンチコフを特派大使としてコンスタンチノブルに差遣し、靈場問題の即決を請求せられたが、事實上はトルコ帝國に於けるギリシア正教に對してロシアの保護權を要求せられたのである。メンチコフは海軍大將で外交官ではなく、一種の熱情家で服裝も言辭も粗野であり、傍若無人の態度をとつてトルコの高官を駭かした。大凡大使が任地に赴いたならば取敢ず任地の政府に通牒して、先づ以て外務大臣を訪問するのが常例であるのに、メンチコフは外務大臣訪問を拒絶したので、外務大臣は直ちに辭職した。大宰相は驚いてイギリスの大使館事務官ローズ大佐にマルタ鎮守府からスミルナの附近ウラルにイギリス艦隊を呼び寄せるやうに乞ふた。それで大佐はその旨を本國に通知したが、イギリス政府はその請求を聽かなかつた。

ロシア帝はイギリス政府の不承諾に満足せられなく見えたが、此の時フランス艦隊は不意にサラミス沖へ向けて出發を命ぜられた。當時イギリス總理大臣はエバチン卿であつたが、平和論者であつて又ロシア帝ニコライ一世の友人



ロシア帝  
の真意  
を誤解

であつた、これより九年前帝がロンドンを御訪問あつた際、エバヂーン卿は外務大臣として、拜謁懇談し、ロシア、イギリスの間に相互の諒解の好ましい旨を言上して、東方に關するロシアとイギリスとの共同の利益について意見書を上つたりしたので、帝はエバヂーンはロシアの味方をするもので、その人物は確實であり、その言ふところは信すべき價值あるものと深く思召したこと、思はれる、されば卿が總理大臣となつた事を聞かれて、世事人情をご存じないロシア帝は、必ずイギリスの味方を得るものと信じられた。このエバヂーン内閣成立後一箇月のことであるが、イギリス大使セイムールにトルコの事情につき物語られた時にも、帝は「われらは病人否大病人を抱へてる。朕は卿にあからさまに言ふが、この頃の或日に彼れがわれらの手からすりぬける、殊に一切の必要なる用意のできぬ前にやられると、ひどい不運なことにならうがな」と仰せられた。この御言葉があつて以來トルコのことを「死に懸つてる病人」と常に云ふのである。

ロシア帝  
の真意  
を誤解  
するに  
大いに  
對する

ニコライ一世は更に言葉を繼がれて、朕はカタリナ大帝の如く領土の擴張を望むものではないが、トルコ帝のキリスト教臣民に對する權利と義務とを考へるも

ので、萬一トルコ帝國が崩壊するときにはセルビアとブルガリアとにはモルダビア、アラキアと同一の政體を授ける考へである。エジプトとクレタとはイギリスが取つてよろしからう、コンスタンチノブルはイギリスにやることはできぬが、おれも自分では取らない、但し一時占領することは別問題である」と仰せられたが、イギリス政府はトルコの病狀をしかく重態とも思はず、エジプトはインドへの中繼地方として利害があるだけで、他のトルコ領に對しては一向に野心がないと云ふ次第であつた。

メンチコフ  
の使命

斯くてメンチコフはトルコに對してその使命を傳へたが、使命の趣はクチュク・カイナルチ條約を擴張してギリシア正教を全然ロシアの保護權の下に置くことを承諾せらるれば、ロシアは四十萬の陸軍と艦隊をトルコのために御用立てるといふのであつた。このことは機密で、殊にイギリスに對しては嚴密を守る約束であつた。この時イギリス大使ストラットフォード・レッドクリフ卿は不在であつたが、四月五日に歸任して、わづか四日後にこの秘密を聞いた。イギリスは當時エバヂーン卿の内閣で平和主義で又ロシアに對しては好意を表してたが、ストラットフォード



大使は必ずしも外務大臣の命令を忠實に遵守するものではなく、往々自分一存の意見を主張して、トルコの尻押をした。今日の大使は普通に「電線末端の書記」——もつと切實には電話受話器——と言はれてるが、當時は必ずしもさうではなく、男一匹の仕事をしたのである。この大使などはその著しい標本であつた。

#### 四 イギリス大使のトルコ政府援助

そこでストラットフォード大使は靈場の問題を一般の保護権問題と差別して、靈場のことは直ちに決定してロシアの苦情を去り、保護権の件については自發的に事を整理して、斷然要求を卻けられて然るべき旨をトルコの閣員に入智慧した。そこでトルコ政府はその旨に従つて答へ、イギリス大使はメンチコフとフランス大使の間を周旋して、四月二十二日靈場の問題を決定し、ベスレヘム寺の鍵と銀製の星の事は既に定まつたまゝにして置くが、これに依つてラテン派に新なる権利を附與したわけではなく、寺の門番は従前の如くギリシア正教派で取扱ふが、他の宗派の信徒の出入を妨げることはなく、ギリシア正教派、アルメニア派、ラテン派、いづれも皆サンタマリアの墳墓に日々の參詣をなすべく、ベスレヘム僧院の庭は正教

イギリス大使のトルコ政府援助

派、ラテン派の共同管轄に屬すべく、キリスト墳墓の寺のクボラは既定の設計に依り、トルコ帝これを修理せらるべく、境内に臨む建物の窓はこれを塞ぐことゝ定め

ロシア政府の新訓令

ところがこれより前九日、フランス艦隊がサラミス沖へ派遣された事を聞いてロシアから新たな訓令がメンチコフに達したので、この新訓令に従つてメンチコフはトルコ帝國に於けるギリシア正教の寺院及び僧侶に對し他のキリスト教諸派に與へられたる一切の権利、一切の利益を保障せらるゝ條約を結ばるべき旨をトルコ政府に要求した。ロシアは一七七四年クチュク・カイナルヂ條約に依つて、モルダヴィア、ワラキアの利益のために代辯する権利トルコに於けるギリシア正教のため陳情する權を握つてゐるが、この要求は一層この權利を擴張するもので、とりも直さずトルコに於けるギリシア正教の寺院、僧侶、信者全體に對する專有保護權をロシアに於て強要するものである。若し之を許せば他日何等かギリシア正教に關することがあればトルコ政府を度外にして直ちにこれをロシアに訴へる事とならうから、トルコ帝は宗教關係の事件については大權をロシアに委任された



のと同様の次第となる。なほ又ロシア帝は陸海軍を有せられるが、トルコのギリシア正教信者たる臣民は、宗教上にはギリシア人であつても、事實上はスラブ民族であるから、これまでがロシアの軍隊であるかの如き状態とならう。さればこの要求は勿論トルコとして承認せらるべき事ではないので、トルコ政府は大いに憂慮して、イギリス大使にその意見を問うた。すると大使はロシアから請求する條約を断然卻くべき旨を忠告した。そこでメンチコフは改めて條約の締結ができねば協商でもよろしいと讓歩したが、イギリス大使は又トルコ内閣に入智慧をして度胸をすえてかゝるやうに言聞かせ、トルコ帝に拜謁して、事危急に及んだときにはイギリス艦隊は準備を調べて形勢を待つ旨を言上した。

是に於てトルコ内閣は辭職し、五月十八日新外務大臣レシド・パシはロシア帝の要求に依るトルコ帝國內のギリシア正教寺院に對する保護權の授與を拒んだ。イギリス大使は爾餘三國の外交官とも協議を遂げ、メンチコフに對してロシア、トルコの關係が危急に迫つたのは遺憾である旨を申出たが、メンチコフに於ては今更後へ引くわけには行かぬので、條約もしくは協商の代りに通牒に依つて保護權

の約束を受け容るゝ旨を申込んだ。ところがトルコ政府はこの最後の通牒さへも棄却したので、メンチコフは隨員を伴れてコンスタンチノブルを立去つた。

##### 五 ロシア帝の目算外れ

此の時ロシア帝の意向では、イギリス内閣の總理大臣エバチン卿はロシアの味方であるし、國民はナポレオン一世没落以來戦らしき戦をしたこともなし、かへつてマンチェスター派の自由貿易論者が全盛を占めてる次第であるから、萬々一にも開戦しようとは思はれない。アウストリアには一八四八年二月の革命亂の時にも續いてハンガリアの獨立戦争の時にも一方ならぬ盡力をしてやつたことであるし、プロシアの國君フレドリヒ・ウィルヘルム四世はニコライ一世の皇后アレキサンドラの實兄であるし、何れも皆ロシアに敵對するとは思はれぬ。さればトルコに應援するものはフランスだけで、イギリス大使ストラットフォードがいかにトルコ帝を陵かして強硬の態度をとらしめても、本國政府がその策を維持しようとは考へられないと思はれたらしいが、しかし、岡目八目で見れば、ロシア帝ニコライ一世は甚しく打算を誤まられたのであつた。イギリス國民はいかにも四十年來



大戦をしたことがないが、しかし大戦をしたことがないだけに盛に活動する當代の國民は、書籍の上でこそ大戦の顛末を讀むでも、大戦が實際にいかなる慘狀を社會に及ぼすかといふことについては何等知るところがないのである。社會の慘狀などと云ふことについては歴史の書物に於ても何等記述するところはないのである。そこで赫ツと腹立つた時は、恰も學校寄宿舎に讀書する學生が思ひ立つて事をするやうに、前後の考もなく、一時の感情に制せられて動きがちである。即ちこの時も同様であつて、イギリス國民が遽に起つて戦争をする氣になつたのであつた。

アウストリアはロシアの應援に依つてハンガリアの謀叛を平らげた始末で、ロシア帝が大恩を被せてあると云はれるのは道理であるが、國家は一個人と違つて過去の恩惠の有無に依つて現代の方針を無我夢中に決するわけには行かぬ、過去に於ていかに大恩を受けたにせよ、恩報じのために國運を賭して戦ふわけには行かぬのである。さればアウストリアがロシアの應援を受けて以來僅に四年ばかりたつただけであるが、事情は大いに變つてゐて、アウストリアは亂後の疲弊その

ロシアの  
中立  
の  
中  
立  
の  
中  
立

極に達し、開戦の準備は到底できかねたのである。

プロシア王は學問藝術を嗜まれ、専ら内治に意を注がれたが、これも二月革命の騒亂を受けて、國力は疲れ、實業は振はず、兵備も整はぬため、大戦を起すなどは勿論思ひよらぬ國情であつたから、アウストリアと同一の態度に出られたのは至當のことであつた。

斯くの通りにして一八五三年七月所謂クリュム戦役は起つたのであつて、ニコライ一世の打算はがらりとはずれ、初から勝つ見込は覺束なかつたのであるが、今更後に引くわけには行かず、できるだけ奮闘して、しかも遂に憤死せられたのは洵に遺憾なことであつた。

#### 六 パリーの平和條約

クリュム戦役は一八五六年三月三十日パリーの平和條約に依つて終るのであるが、此の役に於てロシアが最も打撃を受けた點は、黒海を中立海として之を諸國の航海商業に公開し、ロシアは警察用として僅にトルコと同數の積載量八百噸、吃水線に於て長さ五十メートル以内の汽船六隻、二百噸を超えざる汽船又は帆船四

パリーの  
平和  
條約  
の



隻を置くことを許されたに止まることである。トルコは固より戦勝國であるし、ボスポロス、ダルダネル、二海峡の海はトルコの領海であるので、トルコがいかやうの艦隊を此處に游弋せしむるとも勝手氣儘のことである。ロシアは大國でありながら自分の庭の池と心得てゐる黒海が恰も世界の公海であるかの如くになつて、少しも之を自由勝手に使ふことができず、トルコの如きロシアが平生輕蔑する國が右様の權利を振廻すわけなので、遺憾に堪へなんだのは尤もの次第である。當時或る人がこの黒海を中立にするのは本來が無理な註文で、ロシアに於て向ふ十年間も之を遵守するであらうかと疑ひを容れたことであつた。假りに黒海をロシアの口腔と見れば、ボスポロスは食道、マルマラ海は胃、ダルダネルは十二指腸、エーゲ海は小腸、イオニア海以西の地中海は大腸に相當する。斯様な黒海と地中海との關係であるので、ボスポロス、マルマラ海、ダルダネルの三地點がロシアにとつていかに重要であるかはちよつと地圖を見ても分ることであるのに、パリ條約に依つて右様のことゝなつたので、ロシアの無念は思遣らるゝと同時に、フランスの得意は想像するに難からぬ次第であつた。

斯の如くしてナポレオン三世は先づ以てロシアがレワントに首を出すのを豫め塞ぎ止め、フランスのみがこの方面に勝手氣儘に切り廻さうといふ所謂地中海をフランスの池とする志を遂げる第一歩に成功したものである。

トルコに於てはパリーの平和會議が開かるゝ一週間前の二月十八日にハッチング・マユーン(詔書)の煥發があつた。これは一八三九年のギョルカーネ(宮城廣場)の詔書を再保障せられたもので、トルコ國民に授けられた所の大憲章である。これに依つて帝は一切のキリスト教團又は其の他のイスラム教以外の諸宗に對する特權を批准せられた。管長等は皆終身任命となり、斯の如くして從來しばしば行はれたる變改の缺點を除いて、宗教團の首腦を固定し、俗務は信徒の中から選舉せられた委員の監督に付し、寺院、學校、病院の建築は舊來の形式に依つてこれを修復するを得、甲乙宗派の感情を傷くる虞ある有害なる稱呼の使用は嚴しくこれを罰し、強制的改宗を禁じ、官職を一切の民族に公開し、文武の教育を一切の資格ある者に授け、裁判は公開し、證人はその宗派の式に依つて宣誓せしめ、法典は帝國のすべての國語を以てこれを綴り又譯せしめ、拷問に近き體刑はこれを廢し、警察は信用と安



全とを保障する如く刷新し、キリスト教徒は陸軍に入るを得べく、権利の平等は徴税の平等を含み、地租の改正、租税徴收請負の廢止を約し、租税の支出を明にするために豫算を公にし、道路、運河を開き、銀行を設け、トルコ帝の領土を開發するためにエウロパの資本を輸入すること等が唱へられた。一口に云へばイスラム教の經典に基づくアジア流の專制政治を一筆で取消して、トルコ民族の植民地よりも寧ろトルコ軍の兵營たる性質を具へたトルコ領土を一舉に西エウロパ式の領土に切り換へようとしたものである。なほ云ふならばこの大憲章はトルコ皇帝の勅裁から出た自發の大命で、エウロパの干渉なしにエウロパ式の施政方針を取らうとしたものである。

### 七 リバノン地方の擾亂

シリアのリバノン地方の始末は一八四五年に一旦づいて、エミル・ハイダールがマロン派地方の知事であつた間は無事に治まつたが、一八五四年に、ハイダールが死んだので、トルコ政府からエミル・ベシル・アーメッド・ペラマーと云ふ人を後任とした。所が此の後任の知事は獨り人民の間に騒動を起したのみならず、延いてイ

リバノン地方の擾亂

ギリス、フランスの二國もこれがために互に反目するに至つた。

この九年の間にマロン派人民の中に社會の變動が起りつゝあつたのであつた。リバノンは固より山國で、土地は瘠せてゐるのに、婦人は並はづれに出産數が多く、キリスト教信者の人民の繁殖は土地から産する物資の増殖の割合を遙に超ゆるのであつて、年若のマロン派人民は他國に移住するか、或は土地に行はるゝ古き慣例の土地制度を廢するか、或は變改するかせねばならぬ有様に迫つてゐた。土地の豪族とは云つてもその間には無論階級があり、長男は財産を相續することゝてどうにか成るとしても、次三男以下の輩は勿論所謂冷飯であるから、類似の場合に諸國に於て見受くるが如く、この冷飯連が一般人民の味方をしてその首領となり僧侶も亦一般人民から出るので人民の加擔をした、而してペイルートの僧正は實にその首領であつた。マロン派の地方に新に臨んだ知事はこの形勢を看破して、農民の希望を利用して、その敵手たる貴族を滅ぼさうと謀つた。農民は騒動を起し農民共和國を建て、大男である一蹄鐵工を大統領に擧げた。騒動がマロン派のみに限られてた間はドルーズ派の貴族はマロン派貴族と共に



ドルーズ  
派の暴行

に農民を鎮壓する方針をとつたが、封建風の制度はマロン派よりもドルーズ派に於て強固であつたので、トルコ政府はドルーズ派を使嚇してマロン派の全體を壓倒し、勢ひに乗じて封建風の制度を一舉に掃蕩せむと計つたのである。是に於て熱烈なる宗教感情は、同様に熱烈なる宗教感情に依つて酬はれて、互に譲らず、フランスはドルーズ派の不埒を詰り、イギリスはマロン派の反感を惡んだ。但しこの二國は内情を察せずして、表面の形勢から二派の人民を罵つたのであるが、穿鑿すればこれは寧ろトルコ政府の秘密の方針に基くものなので、つまりは民族階級信仰の三項に據る相互の憎しみをトルコ政府が利用したに他ならぬのである。

一八六〇年四月二十七日、ドルーズ派の暴徒はマロン派人民の虐殺を起し、一箇月の後燒棄てられた村落は三十二箇村に達した。山中の古い由緒地として聞えた寺々は人民の避難所となつてたが、暴徒は亂入して容赦なく避難民を打殺した。古代の宮殿として有名なデイル・エル・カマル(月の僧院)に於ては、トルコ兵が警備してたにも拘らず、ドルーズ派の暴徒が亂入して殺戮を擅にし、其のあとには、なぶり殺しにした死骸が散亂してあつた。

フランス  
のシリア  
出兵

#### ハ フランスのシリア出兵

ベイロートの知事はこの事を聞いて頗る遺憾の意を表し、調停に努めたので、七月六日ドルーズ、マロンの二派は平和條約に調印した。騒動はこれで鎮まつたわけではなかつた。これより三日後ダマスクのイスラム信者はこの町のキリスト教信者の居住區に逃込んだ避難民を襲うて、十日間奪掠殺戮を擅にし、イギリス領事の報に依ると五千五百人が殺されたと云ふことである。當時アルゼリアのスカンデルベク・アブド・エル・カーデルは本國を出て、ダマスクに居住してたが、このドルーズの暴舉を傍觀するに忍びず、鎮壓することができないまでも虐殺の慘害を力の及ぶだけ輕減しようとして努めて、身を擲つて働いたので、死亡者の數もこれだけですんだのであるとの事である。カーデルの家來共は數百人を助けてベイロートに連れ行き、外國領事の保護に託した。領事館からは虐殺の顛末を本國に報告したので、フランス外務大臣ツィブネルは遠征軍を派遣することに決した。

フランスは固よりマロン派人民の保護者であり、人道上から見ても、政略上から見ても、捨置かるべきことでないのに、ナポレオン三世は僧侶に同情を表してシリ



アを回復する希望を抱かれた。併しながらイギリス外務大臣に於ては、フランスに任せて置いたならばシリアに於てフランスの領地若くは保護地を設定する虞がある。幸にもロシアは既にトルコが厳かに契約した政務の刷新が更に進捗せぬのに甚だ不満で、ひとりバルカン地方に於てのみならず、リバノン地方に於ても亦キリスト教徒の一般の情勢を顧慮する意志があつたから、之と協同して特別協約を定め、フランスの武力干渉を避けようと努めたのである。

そこでロシアから提出した案があつたが用ひられず、八月三日サルヂニアを除いた爾餘のバリー條約の調印國はバリーに於て議定書に調印し、一箇月の後には協約が成立つたので、一萬二千以下の軍隊を平和の恢復を手傳ふ爲に派遣すると稱へて、ナポレオン三世は直ちに兵數六千を差出した。この占領は六箇月を超過せぬ協定であつたが、ボーフォール・ドーブル將軍の率ゆるフランス軍がまだ到着しなかつた以前に、トルコ帝は外務大臣フアドバシヤを特別派遣委員としてシリアに差向け、ダマスクに於て嚴刑を行はれた。勅命に依つて兵卒百十一人は銃殺せられ、人民五十七人は絞殺に處せられ、知事も亦密に處分せられ、アプト・エル・カーデル

は叙勳せられた。

フランス軍はやがて到着して、リバノンに進入したが、ドルーズ派の暴徒はフアドバシヤの目撃し或はその隨員の愚劣なるが爲にもぬけて結局遠征隊は慈善行軍の姿となつた。

フランス外務大臣は占領の期限を精々延ばさうと努めたがイギリス外務大臣はシリア及びエジプトに對するナポレオン三世の計畫を畏れて反對し、遂に六月五日を以て占領地を完全に撤退すべきことに決して、九箇月に亘るフランスのシリア占領は大した功を收めなんだ。例に依つて列國の嫉妬はトルコの利益となつて、コンスタンチノブル駐劄イギリス大使ダフェリンの主張に依り、ペイルトに善後委員を置いたが、イギリス大使の盡力でドルーズ派の暴徒は寛大の處分を受け、ドルーズ派の者二百四十五名はアフリカのトリポリに、他の者はベルグラード及びウィチンの城塞に流され、ペイルトの知事はコンスタンチノブルに護送せられた。又ダマスク及びリバノンのキリスト教信者にはトルコ官憲から其の損害を賠償したが、これもトルコのことゝて几帳面には支拂はなかつたので、フランス



は寄附金を募つて之を補うた。

### 九 リバノン地方の行政改革

リバノン地方の行政はこの時新に組織されて、列國委員はリバノン地方を以て自治の一州とし、その總督はトルコのキリスト教臣民の中から採擇せらるゝことと定められ、州はベイルート及び若干の村を除いて之を六郡に分ち、その三郡はマロン派、一郡はドルーズ派、一郡はギリシア正教派、一郡は合同正教派の人民に充て、政廳をドルーズ地方のキリスト教派の飛地デイル・エル・カマールに置いて、ドルーズ地方より之を除き、協賛權を有する州會、郡會、地方警察を設けて、年貢を定めた。此の勅定は殆どトルコ帝アブズル・メヂドの最後の政務となつて、帝は一八六一年六月二十五日に崩ぜられた。帝は賢明の君として聞え、その父君の事業を完成せむとして盡力せられたが、事志と違つて、功を收めることができず、舍弟アブズル・アジズが代つて位を繼がれた。この方は兄君とは反對の氣質で、反動派の望を囑するところであつたが、國庫は空しく政務の刷新は行はれず、バルカン半島の形勢は穩でなく、リバノンの新制度も亦その人民に満足を與へず、斯くて踐祚勿々憂ふべきことが多端であつた。

リバノンの行政機關は一八六一年に斯の如く制定せられたが、實行上滑らかに行かぬので、改正を加へ、一八六四年九月六日トルコ及び他の五箇國の代表協議の結果、コンスタンチノブルに於て調印を経て、知事は従前の如くキリスト教信者の中から選出し、トルコ政府之を任命することとして、その期限は之を五年に延ばした。又マロン派人民の人口が最も多いので、比較代表の主義に依つてマロン派のために第七郡を置き、郡會を廢し、州會の組織を改めて、議員十二名の中四名はマロン派、三名はドルーズ派、三名はギリシア正教の二派、二名はイスラム教の二派と定め、僧院の有せる一切の封建風の特權及び不入權を廢したが、僧侶間に起つた法律事件は僧侶の管轄に屬し、各村は自治體となり、一名の村役人は村長と區裁判所判事とを兼ねた。又警察團があつて安寧秩序を維持し、歳貢は當分の中三千五百袋（晝袋四ポンド三シルリング）として地方の經費に宛て、剩餘があれば國庫に納むることと定められた。最近一九二二年に至つてフランスはシリアを管理し、制度を改めたが、それまでは此の改正制度を行つてゐた。



## 十 クレテ島民の不平

クレテ島には一八四一年の騒亂の後泰平が続いたが、一八五八年には島人八千名が集合して、カネア附近のペリポリアに會議を開き、ギユル・カーネに於て勅約せられ、一八五六年の詔書に依つて再保障せられた新政を此の際履行せられなければ武力に訴ふべしと宣言した。

クレテ島の租税負擔は農業税一人當り平均十シルリングと見積られたもの、外は兵役義務に代る料金を納めるだけであるので、決して重いと云はれななだ。殊に此の免役料は全島の納額としても五五六〇ポンドに上るだけで、一人當りにすれば八ベンス程であるから、大したことではない筈であるが、滞納二年分を一時に徴收せられたり、係の者の中には他の税目を新に設けようとした者もあつた。又當時の總督ウヰリ・パシヤはこの島の出身で、嘗てパリに駐劄大使だつた經歷があり、人物も温和であつたので人望を得てたが、頗る道路築造に熱心であつた、初めの中はこれも島人の歡迎する所であつたが、夫役に取らるゝ上に一人當り九シルリングを課せられたのと、改宗を寛大にしたのが原因で面倒が起つた。事實を云へ

クレテ島民の不平

ば、不平の根源は島人のキリスト教信者等はギリシアと合同せむことを願ひ、よし合同は成らずともクレテを獨立自治の國にしたいと希望してることにある。恰もフランスはクレテに同情を表し、トルコはモンテネグロと事を構へ、セルビアの義勇兵は出で、應援したので、トルコ政府は騒亂の擴まらぬ中に島を鎮めむがため總督ウヰリを罷めて、サミ・パシヤをこれに代へ、一八五六年の詔書に基いて、州會の制定及びその他の特權を施行することを約束した。

この約束は騒動の氣勢を殺ぎ又は叛亂の傳播を幾分か防ぐ効力はあつたやうであるが、次に任命せられた總督イスマイル・パシヤはその人でなく、私腹を肥し自己一身の榮達を目的としたので收まりがつかなくなつた。一八六四年クレテの人民は嘆願書をトルコ帝に差出したが、反對の嘆願書も出た上に、二年も不作が続いたので騒動は鎮まらず、一八六六年五月四千ほどのキリスト教徒はペリポリアに集合し、執るべき當面の策を議した結果、五月二十六日、一八六四年の嘆願書に似た新しい嘆願書を作成して上つた。これに依るとキリスト教徒は一八五八年此のかた各種の食物及び葡萄酒、煙草、鹽の賣上に對して途方もない税を課せられてゐ

クレテ島民の嘆願書



るといふのである。これらの税のうち鹽税は殊に人民の苦みとなつたもので、本來クレテ島は石鹼を以て主なる輸出品としてゐるから、鹽はその重要原料品であるのに、此の有様なので、石鹼製造業はこのために衰へた。トルコ政府側に於ては帝國全般に亘つて輸出税を軽減したために起つた収入の減損を補はむがために、この税を上げた旨を以て説諭したが人民は承知せななだ。

人民に於ては、尙租税徴収の請負組織が煩はしく、又道路や橋梁が缺乏してると云つて苦情を申立てたが、これは理由のあることで、トルコがこの島を領して以來二百年になるが、島の交通機關に對しては何等設備したとがないのである。人民はその上にも亦イスマイル總督が州會の選舉に不都合な干渉をすると云つて怒り、進むで油商人が不正の利息を取るから銀行を設置せられたいと申立てた。それはこの島に於て農民が金融機關として恃むるのはオレーフ油の商人で、彼等が専ら金貸業を兼ねてゐるからである。次には又裁判所の刷新を望んだ。それはこの島の裁判所に於ては人民が一語をも了解せぬにも拘らず、トルコ語を以て宣告し、キリスト教徒の證言はイスラム教徒のそれに對して反證の力を有たず、禁獄は

しばしば無期限に延長され、又被告人が逃走した場合の如きは人質として親戚の者を捕縛するので斯かる刷新の要求も出るに至つたのである。學校も亦甚だ缺乏してゐる。クレテ島には船着場が多くないとはいへ、それでも若干はあるのであるが、僅に三箇處限りしか開いて置かない。信仰の自由にも制限が置いてあつて、イスラム教徒のころんだ者は島から逐ひ出された。これらの事が皆苦情の頂上に達してゐるのである。

右の嘆願書は刷新を要求するものであつて、未だ革命の必要を叫んではゐぬが、後にはイギリス女皇ウクトリア、ナポレオン三世、ロシア帝などへ願書を差出して、願はくはギリシアと合併したい、若し此のことが不可能ならば行政組織を革新せられたいと申出た。當時のイギリス外務大臣はクレレンドン卿であつたが、之に答へて、刷新はするであらう、しかしイオニア列島は既にギリシアと合併してゐるが、その現下の事情や、又前途の見込等を考へれば、クレテ人民はなほ考ふべき餘地があらうと思ふと言ひ聞かせた。

クレレンドン卿が斯く云つたのは、イオニア列島中で最も大きく、島々の中に於



ても優越の地位を占めてゐるコルフ島その他三つの重なる島に於て見聞するところを駐在領事から外務大臣へ報告してある中に、イオニア列島の島人を恰も占領地の人民の如く、或はアテネに於ける政治屋連の領所であるかの如くに取扱ふと云ひ、イオニア出身の官吏を一網に免職したり、或は俸給を引下げたり、借金の辨済に代へて禁獄する習慣を廢したり、裁判組織を改めてギリシア一般の制度に從はしめたりしたことが不平の原因なのである。この借金辨済の代りに禁獄することとは、イオニア列島の習慣であつて、小作人等は地主から兎角に借財し勝ちのものであるが、従來は其の辨済ができぬ時には之を監禁して支拂の保障をとつたのに、これを廢さるゝとなると債權を履行させる途がなくなるといふのであつた。右様の事情であつたので、地主等は國君へ嘆願を出すに至つた。ところが之に對して島の有志者は反對運動を起し、島の貧困であること、人氣の沈滞せることを唱へ、地方出身の議員六人は公然一切の私有財産を廢滅すべきことを主張し、その方法として重き財産税及び輸入税を課すべき旨を述べた。

イオニア列島の事情は斯くの通りで、クレテの島人は定めしよく之を知つてゐ

たらうが、イギリス外務大臣の意見を決して道理とは考へなしたのである。と云ふのは、すべての民族の場合に於て見られる如く、一民族はその間に於て互に親しむ感情を持つてゐるので、利害問題を超越して合同したいと云ふのは人情の趣くところである。その上にイオニア列島の人民はかれこれ五十年も近くイギリス政府の保護の下にあつて、經濟上には頗る利益を受けてゐるが、クレテ島人は之に反してトルコの飽くなき貪慾政治に苦み、物質上からも亦その他の點からも、事實上何等の利益を得てゐるものとは思はれぬのである。トルコ帝國を維持せねばならぬと云ふ議論はイギリスに於て當時盛に行はれた所であるが、何さま遠來の報告に基いて、机の上で考へるだけの事であるので、ここに云ふやうな細かい民間の事情などは更に承知せず、エウロパ諸國の勢力を成るべく釣合よくもつて行かうといふやうな大體の達觀からばかり議論するので、現在のギリシア方面の地方人民の實情に副ふやうな親切な意見の浮ばう筈がないのである。されば一八六六年六月イギリス外務大臣は交迭し、スタンリー卿が任に就いたが、相變らずクレテをトルコ領として据置く方針で、最近まで三十年以上も解決せず棄置いた。



## 十一 クレテ島民の叛亂

トルコ政府は例に依つてぐづぐづして、結局租税の軽減を拒否したし、バルテニオス・ケリデスといふ僧の激越なる説教や、アテネ在住のクレテ島人又はギリシアから島へ来た有志者の勢力、イスマイル總督の戦闘準備などはいづれも皆騒動を激成するに力があつた。もしトルコ政府に於てクレテ島人の苦情を直ちに聽いて、直ちに刷新を加へたならば、恐らく騒動は未然に壓へられたであらう。

トルコ政府はクレテ島に兵亂の起ることを好まず、なるべくこれをエジプトに移さうと思つたので、當時のエジプト・ヘチブ・イスマイルに諭し、この厄介なる島をエジプトの領有たらしめようと欲した。ところがフランスもスエズ運河開鑿の關係からエジプトに勢力を張る必要を感じてた折であるので、この議を賛成し、事は割合にスラ／＼と運んで、エジプト軍は島に上陸し、エジプト政府からの申入として、もしも島人がエジプトと合同することを承知するならば、エジプト銀行を置き、諸學校を立て、道路を築くべきことを以てした。島人はスファキアに於てクレテ總會議を催し、九月二日オットマン朝の廢止を宣言し、ギリシアとの合併を告示した。

クレテ島  
民の叛亂

是に於て戦が始まり、エジプト兵はアボコロナに敗れ、ヘチブ・イスマイルはその派遣兵を召還し、トルコ帝はムスタファ・パシヤを特別派遣員として任命せられた。ムスタファ・パシヤは前にクレテ島に總督たること三十年にも及び、島の事情に精通してゐる上、エジプトの陸軍大臣が之を輔佐したので、叛亂は鎮まることと信じられたのである。

斯の如くにしてクレテ革命は起つたのであるが、ギリシア本土に於ては極めて深くこの舉に同情し、當時のギリシア外務大臣はひとりクレテに於て裏面より應援するのみならず、又北のかたテッサリア及びエピロスに於て革命を勃發せしむべき計畫をした。ところがギリシア王は困難なる地位にあらせられ、總理大臣ブルガレスは、ギリシアはトルコと戦を交ふる準備を有しないから、事を滋くすることは不利益であると認めて、クレテ島に集合する有志者に對し消極態度をとることに決した。

有志者の中で最も名の有つたのはコロナイオス、ジムブラカケスの二人であつた。コロナイオスはギリシアの國民警備軍總督で、一八六三年アテネの騒動の時、



拔群の働をしたことがある。又、ジムブラカケスはクレテ島の出身で、フランスに於て教育を受けたギリシア陸軍の將校である。革命軍に於ては島を三部に割いて、西部にジムブラカケス、中部にコロナイオス、東部にクレテ島の豪族コラカスが號令することとし、一小汽船ハンヘレニオン號はイギリスの機關士等の操縦の下にトルコの封鎖艦隊を襲うた。

恰もこの時セルビアはなほ國內にトルコの守備隊が残存するのを遺憾として、その撤去を迫りつゝあつた時なので、いつセルビアとの談判が破るゝやも計られないといふ事情で、トルコ政府はこの事をも併せて心痛してゐた。

## 十二 トルコ兵の暴行

十月二十四日ジムブラカケスはバフエに於て大いにムスタファに破られ、革命の氣焰は一時衰へて、スファキア人の中にはトルコ軍に降つた者さへあつた。ところがコロナイオスは屢、中部に勝ち、島人を激勵して士氣を恢復した。コロナイオスの本營はレチムネ附近の堅固なる僧院アルカデオンであつたが、この僧院は革命戦の中最も著しい防禦の戰場として聞えてゐる。この僧院内には大勢の婦人子供等が

トルコ兵  
の暴行

避難してゐて、恰もコロナイオスは他の地方に赴き、部將デマコブイロスに留守を命じておいたが、ムスタファは本攻撃をこの僧院に向けた。トルコ軍は山砲を以て攻撃したが功を奏せず、院内の士卒及び僧侶等はいづれも皆死を決して戦ひ、二日間烈しく攻撃軍を撃退した。

十一月二十一日トルコ軍は遂に鐵門を破つて打入り、エジプト兵は先陣をつとめて、中庭に駆込んだ。是に於て院の長老マネセスは彈藥庫に火を投げ入れたので、防禦、攻撃の兩軍共に爆破のために粉碎した。生存者は助命の條件で降参したが、概ね殺戮せられ、食堂は婦人子供の血を以て染められた。

數箇月の後この僧院を訪問したイギリスの通信員は、なほ食堂の床に黒く燻り碎けたる遺骸を見ることが出来た。このアルカデオン僧院の勇ましい防禦又その全滅は無益ではなかつた。勇敢なる防禦の話はエウロパの諸國に傳はり、クレテの避難民のためにロンドンに於て救助金の募集が行はれ、アテネに在住せるイギリス人は委員を組織した。ギリシア政府は表面上中立態度をとつてたが、國民のクレテ島人に同情することますます深く、政府の位地は日に困難に陥つた。



一八六七年一月イギリス、フランスの二國はクレテ島に對するその態度を俄に改めた。イギリス外務大臣スタンリーは近頃リバノンに於て行はれた自治政治の方針をクレテ島に適用すべき旨を主張し、コンスタンチノブル駐劄フランス大使だつたドムスチエは此の時新しく外務大臣となつたが、従前はトルコ最層の人であつたのに、一月二十四日トルコに對して云つたのは、クレテには自治政治を布くよりもトルコ政府に於て之を投げ出される方遙に宜しからう、トルコには到底持ちきれぬ國でなく、謂はゞクレテは帝國の永久の痛み足となつたもので、捨て置けばこゝに痛が發して帝國の全部に及ぶであらうから、今のうちに切斷するが宜しいのである、さればギリシアに合併するのは現に行はるべき唯一の方案である、なほトルコはテッサリアをも思ひきることについて躊躇せぬが宜しからうとあつた。ロシアの大宰相ゴルチャコフも亦合同を以て唯一の策とし、三月三十日イギリスを除いた爾餘の諸國はフランスの意見に従うて、今後の政體については島人の國民投票に依り決定することゝ定めた。トルコ外務大臣ファドパシヤはイギリス政府がこのフランス説に同意せられないことが唯一の望みであることを云つてゐる。

トルコ新制度採用を約す

る。

トルコに於ては列國の態度が變化したのを看取し、又叛亂を取鎮むるために軍隊の損害が莫大であつたのに顧み、クレテ島に行政の新制度を行ふことを約して、コンスタンチノブルに委員會を設け、クレテの代表者を召喚した。征討總督ムスタファはもと兵數一七八五〇を以て進發したのであつたが、島の政廳所在地カネアに還つた者はわづかに六千に過ぎず、實に驚くべき結果であつた。

クレテ島から召集せられた代表者は意には満たぬながら已むを得ず途に上つたが、そのうちの七名は未だ會議の開かれぬ前に抗議書を提出して歸つたので、委員會の計畫は實行できなんだ。この間に島に於ては臨時政府をギリシア王の名義を以てスファキアに置き、前文部大臣デメトリオス・マウロコルダトスを擧げて知事に任じた。

トルコ帝はムスタファの成績を喜ばれず、クロアチア出身の將軍として武名の最も高いオマール・パシヤを總督に拜せられた。オマールは既に老年で、地位の高さを負ひ、モンテネグロの經驗に比べてクレテ征伐の困難をさしたることゝも思はず、



スファキアの山中に謀叛軍を追込めて全滅せしめようと計つたが、クレテ軍の方では二主將の間に軍議を異にしたにも拘らず、二度まで之に破られたので、憤激の餘り一箇師團に號令を下して、奪掠強姦を縱まゝにせしめ、一切の捕虜を撃殺させた。さればオマールの號令に依つて一八二三年の叛亂の時に行はれた慘虐行動は繰返され、避難民の一群はさる岩窟に隠れて居たのを、其の入口に大きな焚火を起して燻し殺した。クレテ軍は内部の統一を缺いても屈せず、コロナイオスはレチムネとカンヂアの間の谿に於て殆どオマール軍を全滅せしめた。三箇月に互る征討の終に、オマールは六百箇村を燒棄したが、部下の兵二萬以上を失うた。

### 十三 ギリシアのクレテ干渉

ギリシア外務大臣トリクラーベスはオマール軍の暴舉に抗議し、ロシア大宰相ゴルチャコフはイギリスは他の場合に於ては自國の獨立のために戦ふ人民に聲援したこともあつたと擲論し、トルコ帝御自身も融和を圖ることに決心せられて、大赦を行ふ旨を宣し、最も名有る將軍が失敗した後の事なので特に、大宰相アトリ・パシヤを遣して、新しいクレテの制度を作らしめられた。

ギリシアの  
クレテ

是に於て臨時政府は大赦の宣言に抗議し、アテネから島に來た代表者の意見に基き、アトリの申出を却下し、列國混合の委員會を組織し、國民投票に依つて人民の意嚮を決すべき旨を宣言した。ところがアトリはこの宣言を度外に置き、各郡から四名の代表者を招集して總會議を開いて、その成案を示した。これは一八六八年の憲法と稱せられ、續いて十年の間クレテの法律となつたものであるが、この組織に依つてクレテは五州十九郡に分れ、總督と總司令を置くことになつた。この兩大官は通例別人である筈であるが、場合に依つては同一の人が兼任しても可いことになつてゐる。總督には次官が二名あり、その一名はキリスト教徒で行政會議が之を輔佐し、行政會議はキリスト、イスラム二教派から成つて、その一部は選舉に依り、他の一部は官職に基いて議席に着く、そして各州の知事がキリスト教派の人であるときにはイスラム教派の次官、又イスラム教派の人である時にはキリスト教派の次官を有し、亦行政會議が之を輔佐する。次に公文はギリシアトルコの二語を用ふることゝし、總會議は各郡の郡會から選舉せられた者、三箇の市から出た者、毎郡毎市各四名の代表から成つて、皆報酬を受け、毎年一回四十日を超えざる會



期を以てカネアに集合し、公共の利害に關する題目を議するを以て主とし、宗教事件はその關係宗派の會員より成る特別會議に於てこれを議することとし、新租税は之を課せざることとし、定め、既定の税目は地租、兵役に對する免役料、酒、鹽、煙草の税及び關稅とし、特に地租はこの際向ふ二年間これを免じ、その後更に二年間これを半減することとした。

臨時政府はトルコ大宰相の申出を却下したがために更に一年間戰鬪を永引かせた。一八六七年度の終に任命された、フッサイン・アウニ・パシヤは民政知事で亦軍政知事をも兼ね、勝ちもせず、さりとて敗れもせず、徒らに時を過してたが、コロナイオスはギリシアに歸り、ジムブラカケスもホマロスの高臺地を防禦せむとして遂げず、續いてギリシアに歸り、十一月末に至つて、マイナの豪族ベトロブラケスはアテネに於て義勇兵の一隊を募り、クレテ島に赴いたので、一八六八年十二月十一日トルコ政府はギリシア政府に對し最後通牒を送り、義勇兵の解除、封鎖突撃艦三隻の武装解除若くはギリシアの港よりその入港禁止及び島に歸らむと欲する總てのクレテ避難民に對する保護を要求し、五日間の猶豫を與へて、ギリシアの臣民をトル

コ帝國より放逐する旨を以て脅かした。

アテネに於ける民論は一般に談判の破裂を希望し、一八六六年の末に總理大臣となつたクムンドウロスは職に就くや否や直ちに出師を準備し、ベルグラードに使者を送つてセルビアとの同盟締結を企て、外務大臣トリクラーベスはクレテ、テッサリア、エビロスの併合を要求する廻狀を列國に傳へた。

ところが一八六七年十月、ギリシア王はロシア皇女オルガ内親王と成婚せられたので、主戰黨の計畫はこれがために齟齬し、ギリシア王は御歸國になるや否や直ちに總理大臣が議會に於て大多數を擁するにも拘らず之を免ぜられた。

此の時ロシアの理想としては、その勢力に依り近東に於てスラブ民族一般の奮起を望むにあつて、之がため取敢ず先づブルガリアの發展を計つたので、ヘルレーン民族は之に因つて大打撃を受けた。

#### 十四 ギリシアトルコ間の危機

一八六八年ギリシアではブルガレスが總理大臣となつた。ロシア黨員として切に平和を欲し、クレテの革命を喜ばず、又クレテの代議士が新に選舉せられた



ギリシア  
トルコ  
の危機

ギリシア議會に着席することを許さなうだが、外務大臣ペテル・デリヂアンネスは公然クレテ島の合併を主張し、イギリスの同意を得むと努めた。この年十二月イギリスに於てはグラッドストーンが總理大臣となつたのでギリシア人はクレテ島の合併に大いに望を囑した。グラッドストーンは固よりギリシア古典の専門學者でギリシアの爲に熱心に主張するところがあり、既にイオニア列島の併合もこの人の力が與つて多きにあつたのであるから、クレテ島の併合についてもさぞかし盡力せらるゝであらうと想像したのである。此の内閣の外務大臣はクレレンドン卿であつたが、總理大臣はギリシアの進歩のために力を盡さるゝので經濟上に國をいたむる虞ある侵略行爲の如きは其の賛成せられざるところである旨をギリシアの當局者に申聞けた。

元來ギリシア人はクレテの併合を以て經濟問題と考へ、國民の感情問題としては考へなうたのであつて、彼のイオニア列島の人民がギリシアと併合する事を望んだ時にも斯の通りであつた。然るにイギリスの外交家等は此のギリシア人の考慮を深く注意せなうた。

ギリシアに於てはクムンドウロスがクレテの島人を見棄てると云つて責付けらるし、クレテの避難民殆ど五萬を救助せねばならぬことではあるし、頗る窮境に陥つてゐた。さればギリシアのマロン派の領袖カラムは當時アテネに在つたが、リパノンに兵を擧げようとして申出で、ペテル・デリヂアンネスは相變らずクレテの併合を主張して、ギリシアの外交をこの方針に依つて指導した。

事情斯の如くで、ギリシア政府はトルコの通牒を事實上に拒絶したので、トルコ公使フォチアデス・ペイは十二月十七日アテネを去つたが、恰もこれより三日前一層穩ならぬ事件が発生した。それは當時有名であつた閉鎖突撃艦エノシス號が其の航行中トルコ艦隊に奉職するイギリスの海軍々人ホバールト・パシヤの司令する軍艦に遭つて、停止を命ぜられたのに、反つてこれを砲撃してシラに逃入つたことである。そこでホバールトはシラに至り、海賊を以てエノシス號を論すべき旨を請求し、シラの港を封鎖したので、ギリシア政府は軍艦一隻を派遣し、ホバールトに釋明して封鎖を解かせ、もしホバールトが之に應ぜないときは攻撃せよと命じた。結局ギリシア軍艦はビレーウスに歸り、ホバールトはシラの港外に停まつて裁判

エノシス  
艦事件



が終結するまで、エノシスを留置く旨を官憲から約束するまで殆ど六週間監視を続けた。併しエノシスはもはや危険物ではなかつた、それは十二月二十六日ベトロボラケスは部下六百を率ゐてスファキアのアスキフォンに降りクレテの騒亂は鎮まりつゝあるときであつたからである。

この間エウロパ列國はギリシア、トルコの問題がエウロパの平和を紊す虞れがあることを憂ひたので、ドイツのビスマルクはパリイ條約に調印した列國を一八六九年一月九日パリイに招集し、ギリシア、トルコの爭論を解決することに盡力した。この會合の最初に於てギリシアは、一八五六年のパリイ條約に調印しなかつた國であるから、その委員は意見を述ぶる権利を有するだけで、決議の數に與かることができないのであるにも拘らず、トルコ委員と對等の位地に立たうとしたので、之がために面倒があつた。

ギリシア委員ベテル・デリジャンネスは宣言書を會議に提出して、ヘルレーン民族の分裂を嘆き、クレテ問題の最後の解決を望み、ギリシア王國陸境の改定を求めた。併しながらこの問題の根本解決は當面の問題ではなかつたので、會議に於てはギ

リシア臣民の放逐を停止すべき旨をトルコ政府に諭し、一月二十日に聲明書を草して、領内に於て武装せる團體の編制、トルコに對し侵略行動を執る目的を以て、その港灣に船舶の武装を許すことを避くべくギリシアに諭した。トルコ政府はこの聲明書に同意したが、ロシアはこれを諾するやうギリシア王に勧めた。

この時アテネに於ては内閣が辭し、トラシブロス・ザイメスが新に總理大臣となり、外務大臣テオドル・デリジャンネスは二月六日ギリシアが戰國準備を有せぬことを理由としてこの聲明書に同意を表した。さればトルコはギリシア臣民に對する脅喝の趣旨を取消し、外交關係は舊の如くになつた。

クレテの革命はギリシアの干涉が全然打切られたので自然に鎮まり、島の東部に於てはなほ暫く兵力を擁してゐる者があつたが、春の間に足掛け三年の騒亂も遂に終を告げた。そこで名義上の大赦を行はれ、自由主義なるプロシア出身のメヘット・アリ・パシヤが總督に任ぜられた。この後四年の間クレテ島は疲労の極眠りに陥つた姿であつた。

## 十五 ギリシアの革命運動



ギリシアに於てはイギリス、ロシア、フランスの三國が推薦して國民の擁立した王オトローが位に在ること既に二十五年に及んだが、幸に大事も起らず、先づ泰平のすがたに経過したのであつた。この間王はギリシアの財源を發達することに全力を竭され、人望も相當にあつた。王は性質温良の人であつたが、決斷の勇氣を缺き、事に臨んで躊躇するのが短所であつた。皇后はドイツのオルデンブルグから來られた方でアマリアと呼ばれたが、勝氣の人で、婦人に似合はず決斷が速かつた。オトローは忠實に政務を見られ、何さま細かい事務にはよく氣がついたが、大局には通曉せられず、大事に當つては常に逡巡せられ、皇后が却つて果斷を示された。さればオトローは固より英主と云ふほどの賢者ではなかつたが、さりとして暗主と云ふほどの不肖者でもなかつた。

ところが國內に於ては獨立の際に見たるが如く、國民は種々の政黨政派に分れて、互に權力を争ひ、大學の學生は筋肉勞働に従ふことを嫌つて、専ら官吏となり俸給に生活せむことを望み、學窓の裡に在りながら政治を談ずることを好んだが、何さまいづくの國に於ても同様で、官邊に於ても、民間に於ても、相當の地位には限り

があつて、いかに求めても無いものは得られぬので、所謂高等遊民化し、エウロパの言葉で謂ふ知識ある無産階級の輩が、盛に發生した。當時の憲法では上下二院あつたが、ギリシアに於てはイオニア列島を別とすると貴族の階級はなくて、國民の間に貧富の差が格別甚しくないので、隨つて上下二院を置いて、下院は一般の民意を代表し、上院は監督制御の任を擔ふといふ主義はギリシアの國情に適しなかつた。議員は一般に歳費の代りに月費を受けたが、上下二院共に議員の性質は先づ以て同様であるので、上院議員が兎角に會期を延長して月費を貪らむとする弊を生じ、一般國民の非難の的となつた。

一八五九年にはイタリア統一の役が起り、サルヂニアはアウストリアを敵として大に戦つたが、ギリシア國民もいたくイタリアに同情し、イタリア軍が勝つ度毎に寺院に於て戦勝祝賀の祈禱を行つた。王はドイツのパウリア出身であるので、自然アウストリアに加擔せられ、戦時中アウストリアの商船に對して、ギリシア商船同様の保護を授けようと望まれたが、イギリス、フランスの二國に於ては王がトルコに於て謀叛を起させる計畫に密に與からるゝやを疑うたので、反對派は國王



がアウストリアに同情せらるゝを利用して政府を窮地に陥らしめようと計り、大學生等が麥藁帽子の代價が馬鹿げて高いと唱へて暴動を起したのを利用して政治問題とした。

一八五七年以來ギリシア内閣ではアタナシオス・ミアウレスが總理大臣であつた。此の人は獨立戦役の功臣の子で、王室に忠貞であり極めて信任の厚い人であつたが、自ら門地の高きを負ひ、信任の厚きに安んじ、民論の沸騰を鎮壓することに勉めて、下院の議長選舉の時に内閣指定の候補者が落選したのを見るや、直ちに反對派の新聞紙を沒收し、下院を解散して、新に政府指定の官職を有してゐる議員候補者を應援し、之を當選せしめたので、新成の下院を民間では「自治體長議會」と呼んだ。彼は又上院議員數を大いに増して、上院を政府の地盤に引入れた。

この際ロシアに於ては、パワリアに對して同情をもつてゐぬので、ギリシア王のために謀らうともせず、イギリスは王がイオニア列島のイギリス保護權に對し、又トルコの保全に對しても忠實ならざるやの疑を懷き、フランスはギリシアに意見を進めたが用ゐられず、バリー駐劄のギリシア公使がナポレオン三世に取入つて

英佛露三國のギリシアに對する態度

言上する所が往々用ゐらるゝやの噂があつて、快からず思うてたので、かたゞこの三保護國共にギリシア王を強いて維持せむとはしなかつたのである。

元來オトローがギリシア王位を踐まれたときに、王位は先づ以て後日生誕あるべき王子孫によつて相續せらるべきであるが、皇子がないときには王弟が相續あるべき事に定めてある、然るにオトローには皇子がなかつたので、當時相續問題の困難が最も痛切に考へられたのである。一八四四年のギリシア憲法には、王弟が相續せられ、ギリシア正教に改宗せらるべき旨を規定してあるが、オトロー踐祚當時の協約には改宗のことは更に述べてはなく、一八五二年のロンドン協約に依り、保護三國とギリシア、パワリアの間に協議が調うて後初めて、改宗の事が定まつたのである。ところが、パワリア代表者の意見では、相續者は踐祚の瞬間まで改宗を迫らるべきでなく、或は又改宗の曉には必ず相續する保障を得べしとの事であつた。オトローの次の弟はルイトポールドと云つて、後にパワリアの攝政となられた方であるが、ギリシア王位繼承の權利を辭退せられたので、そこで問題となつたのはその子ルードウィヒとルイトポールドの次の弟アダルベルトとであつた。ギリシア政



治家の間に於ては、パツリアの皇子等が改宗をいたく好まれぬのに願み、寧ろ皇后の弟オルデンブルグ大公ペテルを推薦すべきであらうかと考へたが、これも畢竟皇后アマリアが頗る聲望を得てをられたからの事である。

一八六一年五月陸軍部内に騒動が起つたので政府は巨魁を取押へてナウブリアに送つたが、このためにナウブリアは却つて革命運動の根據地となつた。政治運動に携はつてゐる太學々生等にはエバミノンダス・デレヂェオルヂェスが首領であつたが、學生等はフランス大革命の理想を嚆呑して専ら之に歸依し、アテネ大學に於て感染した反朝廷主義をギリシア全國に宣傳した。これに反して民主黨は例に依つて最も聲望高く、最も賢明の聞えある元老カナレスを擁して總裁とし、行動を起した。

そこで王位相續者としてイギリスの第二皇子アルフレッドを推薦する議が起つたが、一方に於ては九月十八日ドシオスと呼ぶ一青年が皇后を暗殺せむとする企があり、それから六週間後には數名の騎兵將校等が外國から御歸國の途中で國王を誘拐しようとい計畫した事があり、總理大臣ミアウレスは國論が内閣の更迭を要

求することを察したので辭表を出した。そこで一八六二年一月カナレスは大命を奉じて内閣組織にかゝつたが、閣員の取纏めがつかなくつたので、王は大命を取消され、ミアウレスは元の通りに居据わつた。

一八六二年二月十三日には又ナウブリアの守備隊が謀叛を起し、ベルギー領事ザウツァノス、上院議員の寡夫人カリオベ・パバレクソブルの二人が革命首領となつて、現内閣施政方針の廢棄、『自治體長議會』の解散、國民憲法制定議會の召集及び保護三國宛の願書の提出を要求した。

この日、アルゴスでも暴動が起り、トリポリツ、キパリシアもこれに續いたが、危険の性質を帯びた暴動はナウブリア、シラの二箇處であつて、舊教宗派の町は皆王室に忠貞を示した。政府はハーン將軍を司令として軍隊を差向け、本營をコリントス地峽に置いて、アルゴス、チリンスを占領し、ナウブリアを圍んだ。叛徒は大赦を要求したが、許されなないので、飽くまで抵抗することに意を決し、カリオベはその屋敷の露臺に立つて叛徒に對し、メソロンギは國民の獨立を保障したが、ナウブリアはその自由を保障するであらうと叫び、爆裂彈の傍らに落つるを頓着せなんだ。

アルゴス  
其他の  
地方の  
暴動



それで結局王は巨魁十九名を除いて大赦を行はれ、叛徒もこれに承服し、巨魁等はイギリス、フランスの蒸気船に移り、司令官ハーンは四月二十日ナウブリアに入城した。シラも續いて平らいだ。

### 十六 ギリシア王の退位

平和は克復したが、内務大臣は秘密の意見書を上つて、地方一般に労働者を除いて民情は穩ならず、知識ある無産階級が発生して筋肉の労働を嫌ひ、官吏たらむと欲しても地位を得ず、従來の施政方針を改めて選舉の自由を許さなければ危険に陥る虞があること、又相續問題についてはギリシア正教の相續者をギリシア正教の臣民に對して聲明せらるゝ必要があることを言上した。

この時イギリスはヘンリー・エリオットを臨時委員として派遣してたが、イギリス總理大臣の意見として、内閣の更迭、下院の解散及び憲法の遵守を忠告した。王はこの第一の希望を容れ、六月七日ミアウレス内閣を免じて、チェンナイオスコロコト・ロネスを總理大臣に任じられたが、コロコト・ロネスは何はさておき相續問題の決定を願出でた、イギリス外務大臣はロンドン駐在のギリシア及びバワリア代表

イギリス  
政府の忠  
告

ギリシア  
王の退位

者に諭して、ルイトボールドの子の一名を未成年のうちギリシアに遣し居住せしめらるゝやうに努めたが、王に於ては明年一月姪が成年に達するまでその宗教を改めるに及ばないことゝしたいとの希望であつた。ところが明年を俟たずしてギリシア王オトーは讓位せらるべき境遇に陥られた。

王は國內の不平を國外に漏らす計畫を立て、ギリシア發展のために大業を策せられた。そこで人をイタリアに遣り、トルコに於て起さるべき兵亂に協力するやうガリバルヂと協議せしめ、トルコに對し戰闘するモンテネグロ人のために寄付金を募集し、セルビアがトルコ帝に對し戰を宣せむことを希望せられた。

イギリス外務大臣はこのことを聞いて驚き、アテネ駐在の新イギリス公使スカレットに命じて、トルコに對する宣戰はその廢位及び讓位に聊か先んずべき旨をギリシア王に言上せしめた。又外務大臣は恐喝したばかりでなく、ギリシア王が東方問題の口を切らない事を條件としてイオニア列島を進上すべきことをも云はせてゐる。然るにオトーはイギリスの申入を卻け、イオニア人は文化程度の高いいエウロバの一國の臣民であるが、テッサリア、エビロスの奴隸の境遇に在るギリシ



ア人はアジア風の専制の下に生活する旨を答へられた。斯の如く王は、モンテネグロは戦に勝ちセルビアは同盟に應じ、ガリバルヂはエピロスに上陸すべしと考へられたのであつたが、全然あてが外れて、モンテネグロは平和を結び、セルビアはコンスタンチノブル會議の決議に従ひ、ガリバルヂはアスプロモンテに於て負傷した。斯くてトルコに對して行動を起し、國論を外らさうとした王の計畫は全く消え失せたので、皇后はギリシア領内を巡遊することを勧められ、王も亦これに従はれた。所が恰もこの際は動座せずしてアテネの都に留まらるべき場合であつたのである。

十月十三日オトー及び皇后は遂に巡遊の途に上られたが、その時王は外務大臣に向つて三十年以上位に在るのは不吉であると人民はいふさうであるが、あれの三十年も殆ど来るなと仰せられたとの事である。所が出發後三日經つてアルタ灣のウニツァ守備隊先づ謀叛を起し、メソロンギ、バトラスその他續々と之に踵いだ。王は國南のカラマタに着いて、偶まウニツァ謀叛のことを聞かれたので直ちに還御を仰出されたが、王の船がビレウスに着する以前アテネは早く既に謀叛し

てゐた。それは二十二日夜守備隊が兵を擧げたので、總理大臣も國王の廢位已むべからずと考へたと見え、敢て王位を維持する策も立てず、謀叛人の捕縛を命ずることをもせなんだ、一般の人々も皆屋内に閉籠つて夜明を待つた。

翌朝革命派の人々は砲兵の屯營に行つたが、その時デレヂェオルヂェスは一門の大砲を机に代へて、紙片に宣言書を書いてるのを見た、それにはオトーの没落、ブルガレス、カナレス、ロウフォスの三名より成る假政府の創立、假政府は國民議會が新王を選舉するまで在職のこと等を述べてあつた。革命派は次いで王宮に行つたが、司令官ハーンは何等の抵抗をも試みなかつた。御用品は概ね保存せられたが、書類は皆持去られ、假政府に於てこれを公開した。

騒亂は二日間續いたが、格別の暴動も起らず、唯武装せる人々が喜びのあまりに市街に於て發砲し、數名の無辜の人民が殺傷せられ、若干の店は奪掠を被り、アクロポリスの博物館はその貴重品の二三を失ひ、監獄の囚徒を放つた爲にいかゞはしき輩が明るい娑婆に飛出したくらゐのことはあつた。

二十三日夜王の乗船はビレウスの港外に着いたが、革命に感染した公衆は波止